

第344回
地震防災対策強化地域判定会

記者会見資料



平成26年12月22日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、独立行政法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県及び神奈川県温泉地学研究所、気象庁のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次

定例資料

1. 地震活動概況 P. 1-6
2. 注目すべき地震・地殻活動 P. 7-10
3. 活動指数 P. 11-15
4. 静穏化・活発化領域の抽出 P. 16-17
5. 領域別地震活動 P. 18-29
6. ひずみ計による地殻変動観測 P. 30-62
7. GNSSによる面的地殻変動監視 P. 63-69
8. 東海・東南海地域の海底津波計記録の長期変化 P. 70
9. ひずみ変化量から推定した長期的ゆっくりすべり P. 71-72

平成 26 年 11 月～12 月 17 日の主な地震活動

○ 想定震源域およびその周辺； $M \geq 3.0$ または震度 1 以上を観測した地震

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
11/22	9:05	愛知県東部	14	2.8	1	北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
11/23	15:37	愛知県西部	41	3.3	1	北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型
12/3	23:19	愛知県西部(注1)	45	4.2	3	東北東－西南西方向に張力軸を持つ正断層型
12/16	2:24	静岡県中部	29	3.1	1	東西方向に張力軸を持つ正断層型

(注1) 情報発表に用いた震央地名は「岐阜県美濃中西部」である

※ 深部低周波地震（微動）活動

今期間、東海地域を震央とする深部低周波地震は観測されなかった。

○ 南関東； $M \geq 4.0$

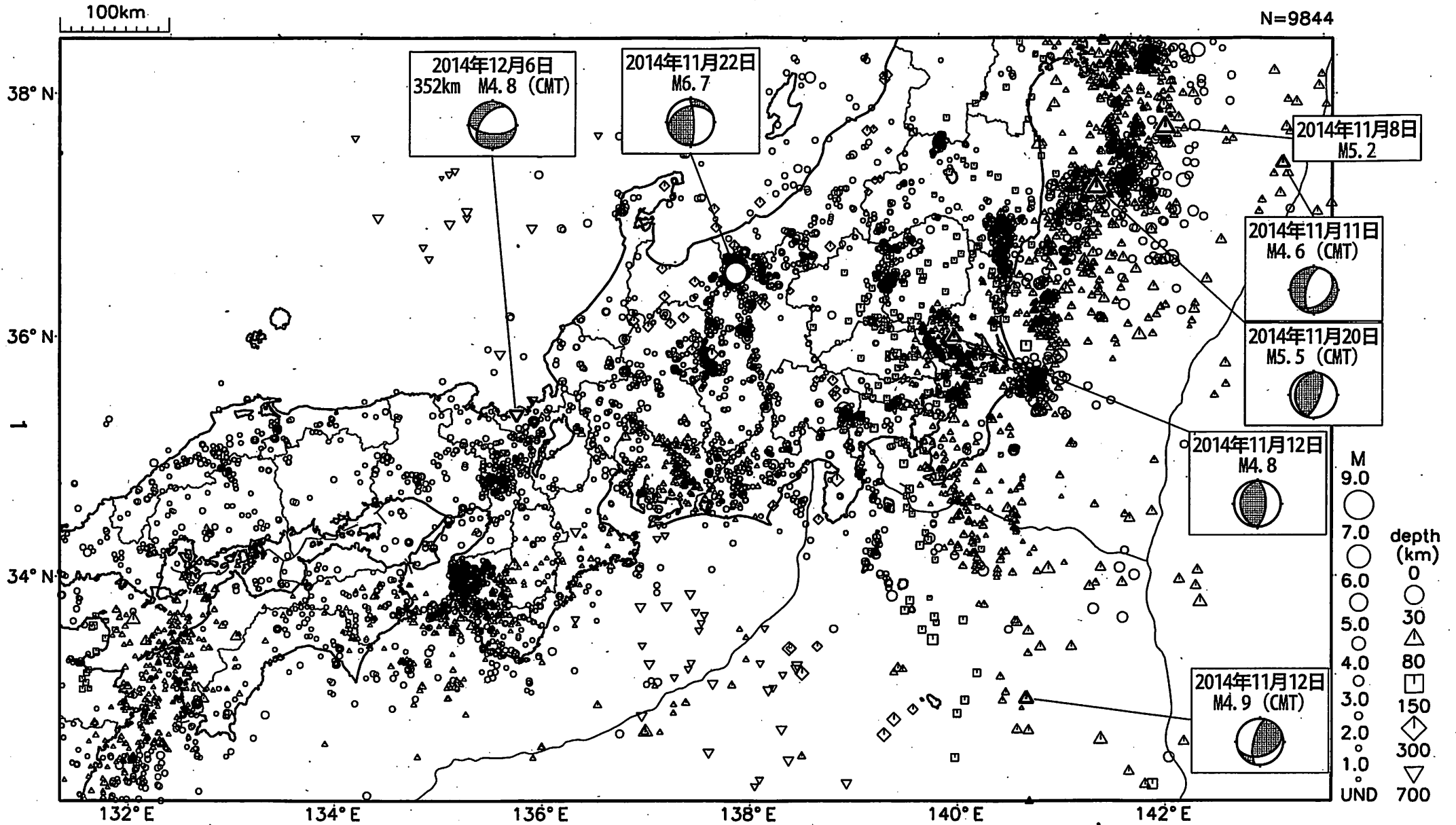
月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
11/12	9:53	茨城県南部	66	4.8	4	東西方向に圧力軸を持つ逆断層型
12/4	12:35	千葉県東方沖	24	4.4	3	—
12/11	15:07	山梨県東部・富士五湖	23	4.3	4	北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

○ その他の地域； $M \geq 6.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
11/22	22:08	長野県北部	5	6.7	6.7	6.2	6弱	西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型

Mj は従来から用いられている気象庁マグニチュード。Mw はモーメントマグニチュード。

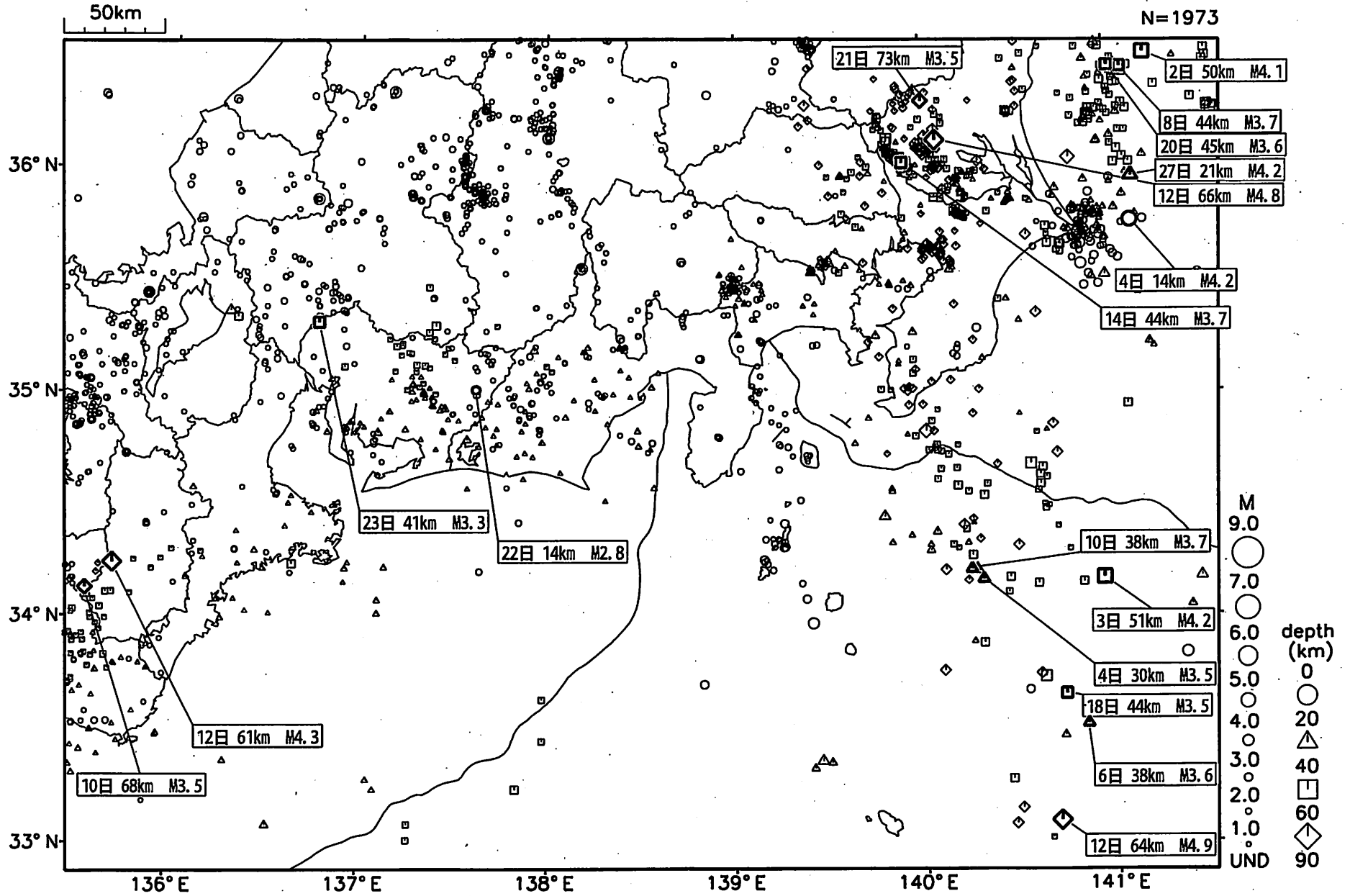
東海地方とその周辺の広域地震活動 2014年11月1日~2014年12月17日



図中の吹き出しは、陸域M4.5以上・海域M5.0以上とその他の主な地震

気象庁作成.

東海・南関東地域の地震活動 2014年11月 (1日~30日)



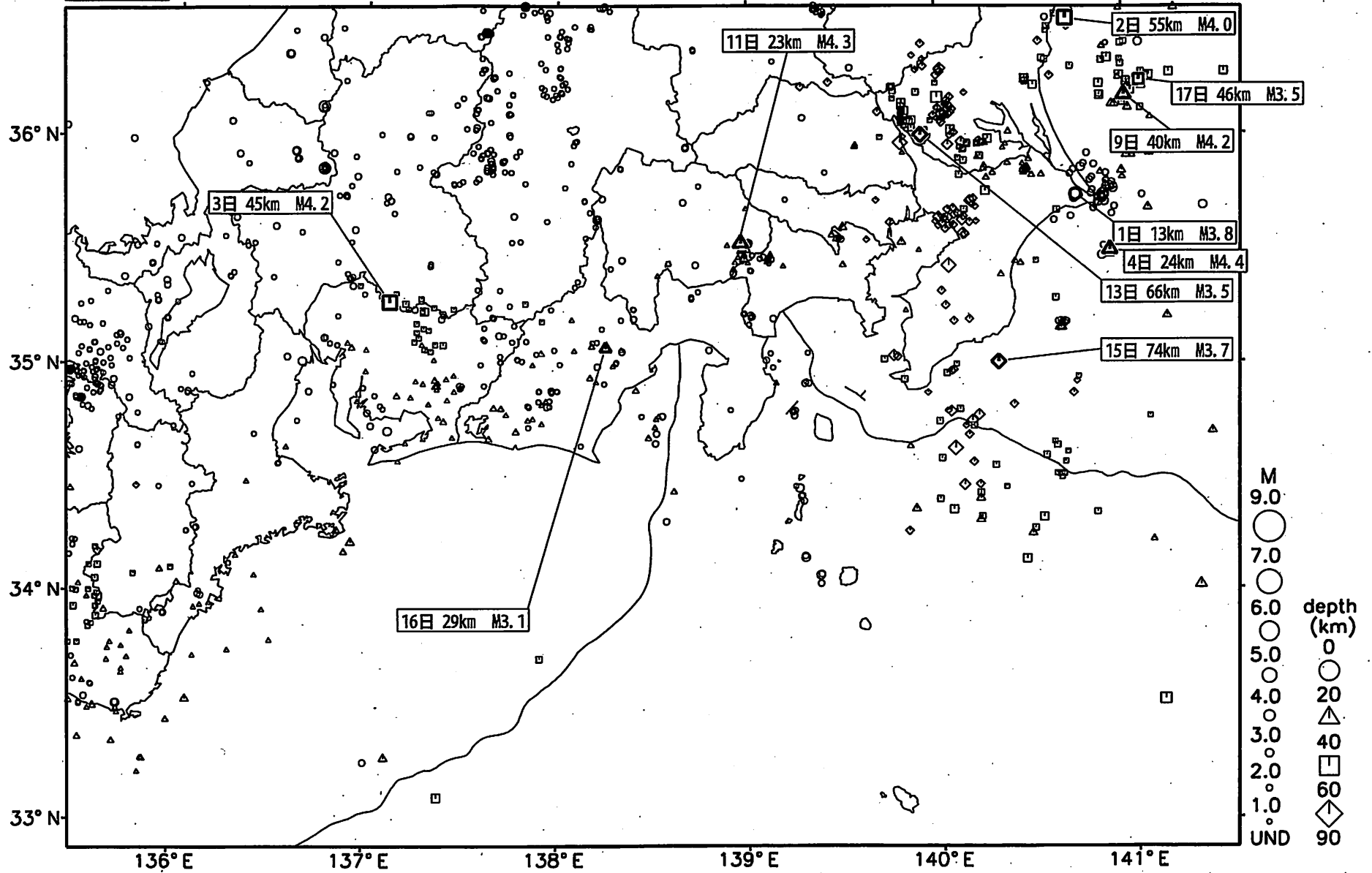
精度良く震源決定された地震のみを表示している。

気象庁作成

東海・南関東地域の地震活動 2014年12月 (1日~17日)

50km

N=1316

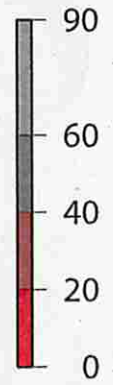
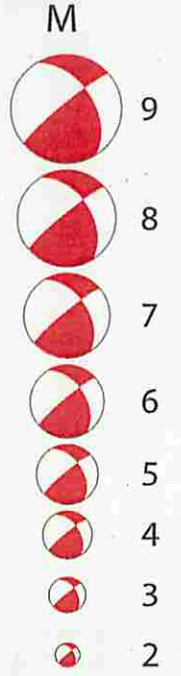
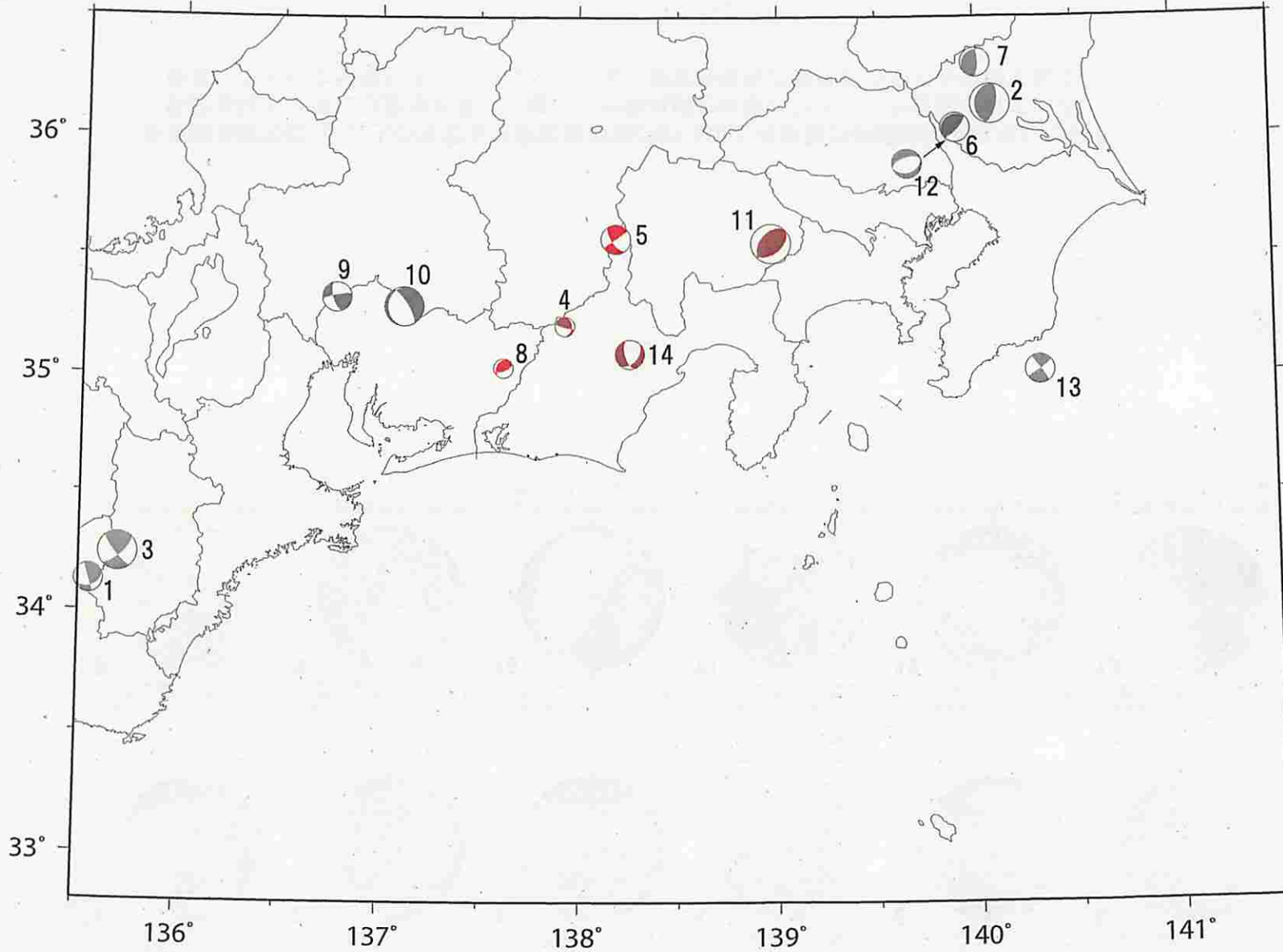


精度良く震源決定された地震のみを表示している。

気象庁作成

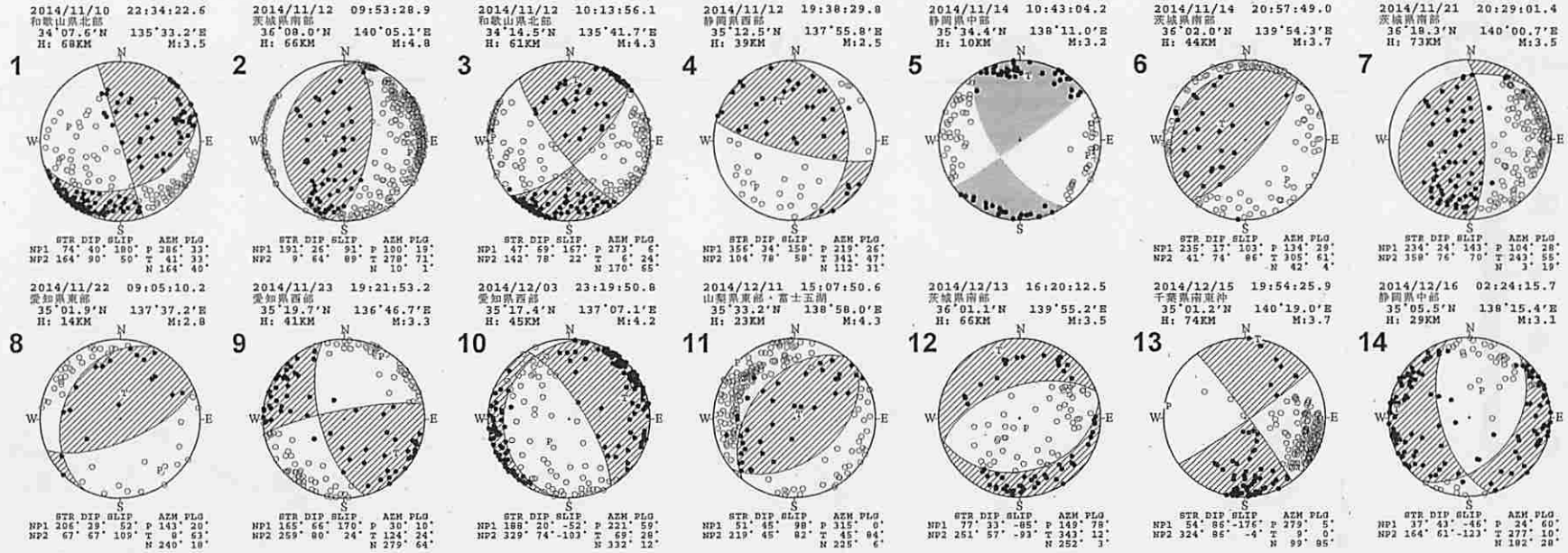
東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period:2014/11/01 00:00—2014/12/17 24:00



Depth(km)
(下半球投影)
[気象庁作成]

東海・南関東地域の発震機構解（2）

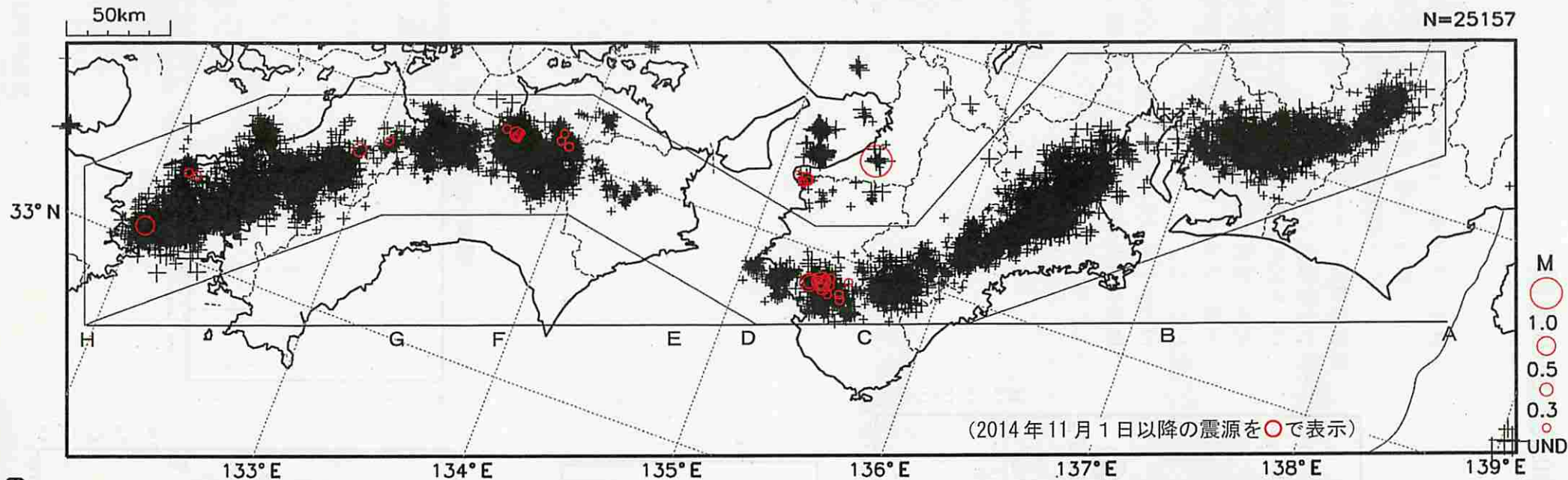


※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
 各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。
 断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

（下半球投影）
 [気象庁作成]

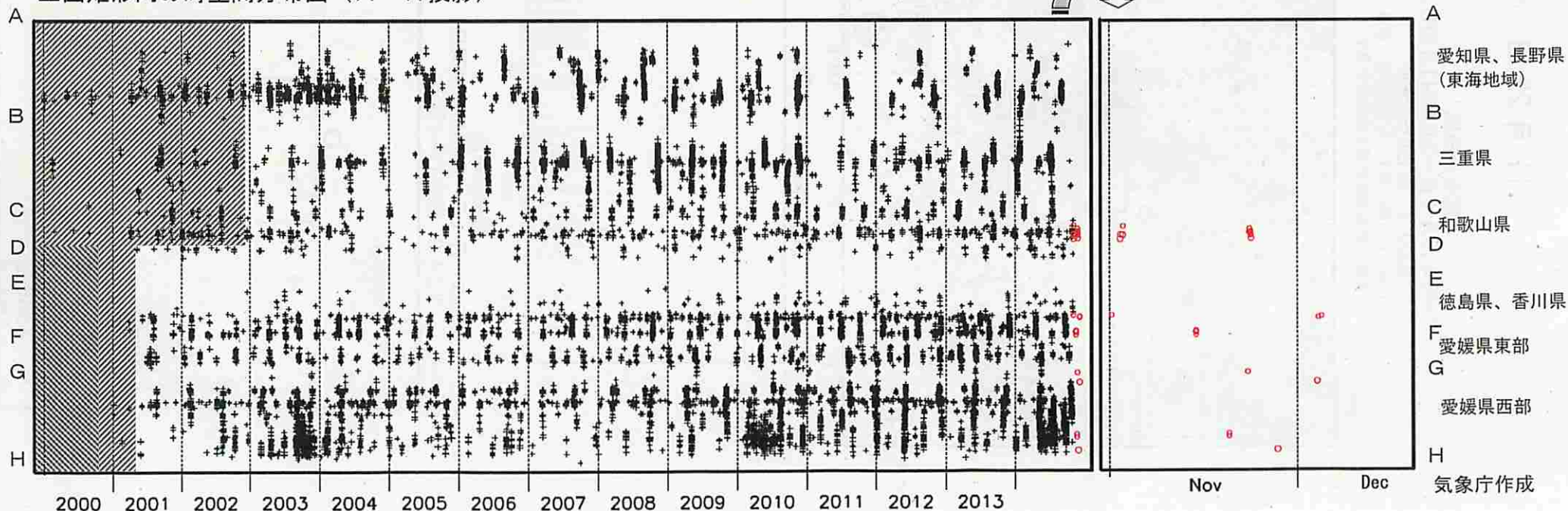
深部低周波地震活動 (2000年1月1日~2014年12月17日)

深部低周波地震は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。



上図矩形内の時空間分布図 (A-H投影)

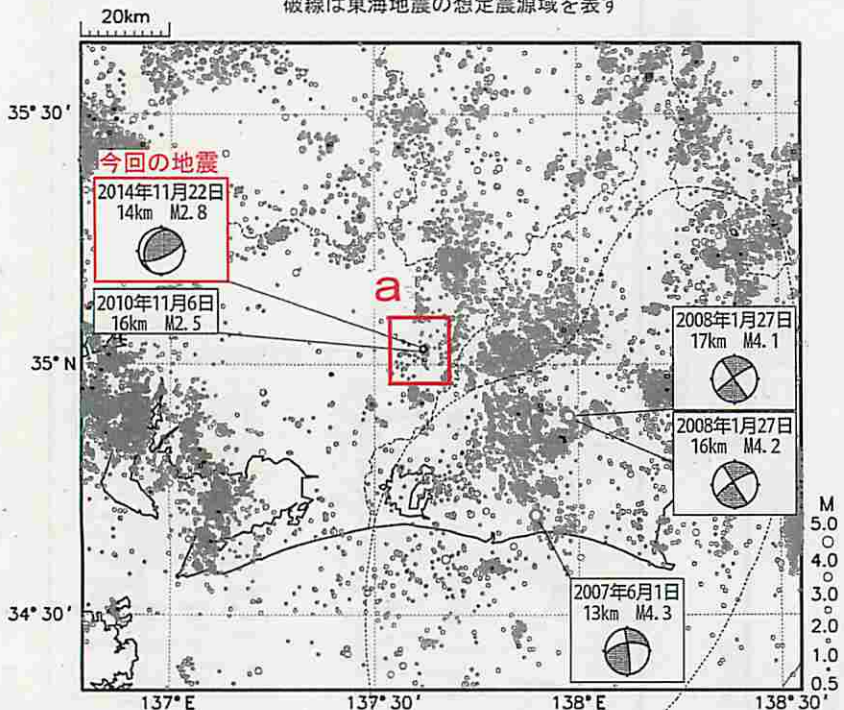
(2014年11月1日~12月17日)



※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

11月22日 愛知県東部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2014年11月30日、
M \geq 0.5、深さ0～25km)
2014年11月以降に発生した地震を濃く表示
破線は東海地震の想定震源域を表す

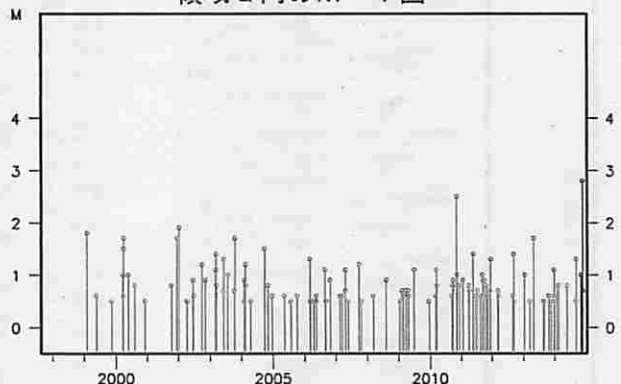


11月22日09時05分に愛知県東部の深さ14kmでM2.8の地震(最大震度1)が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

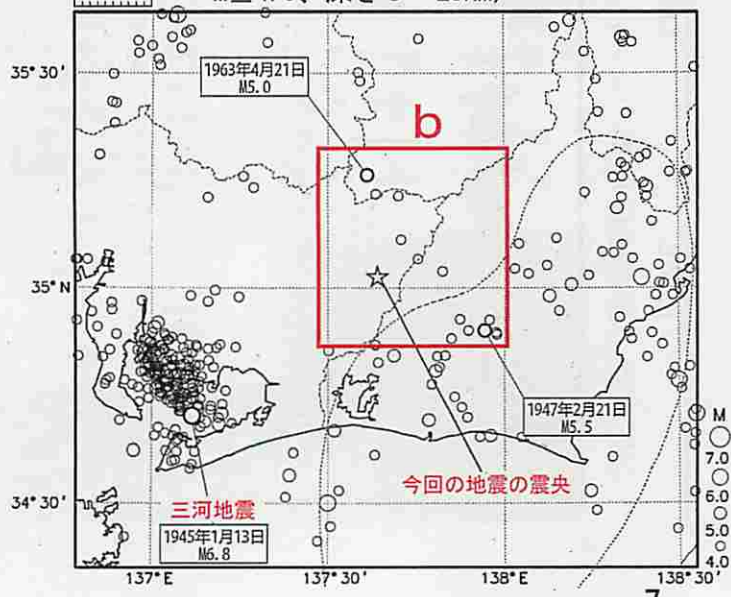
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域a)では、今回の地震を含めM2.0以上の地震が2回発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M5.0以上の地震が2回発生している。

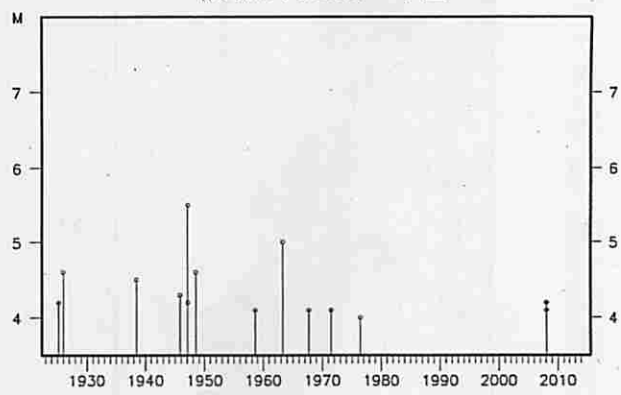
領域a内のM-T図



震央分布図
(1923年1月1日～2014年11月30日、
M \geq 4.0、深さ0～25km)

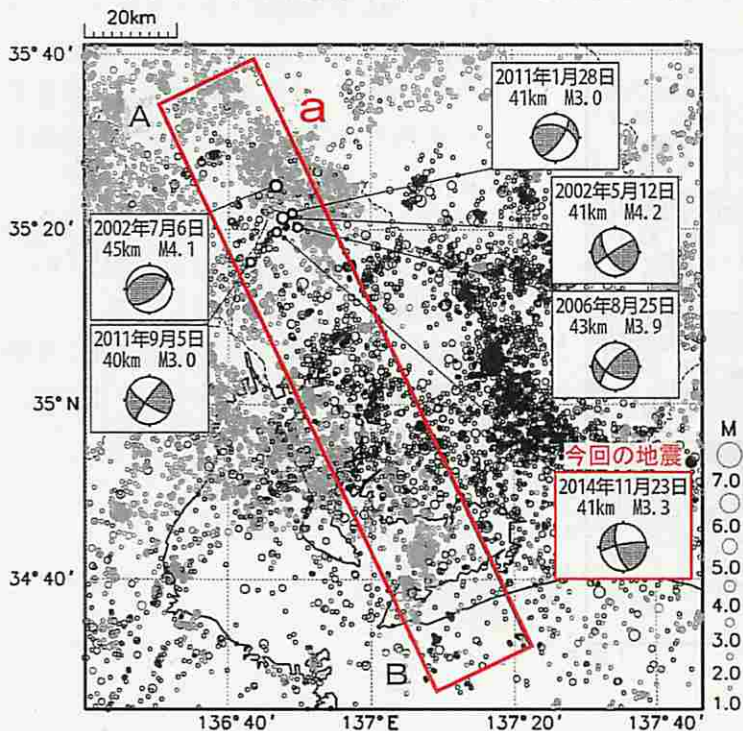


領域b内のM-T図



11月23日 愛知県西部の地震

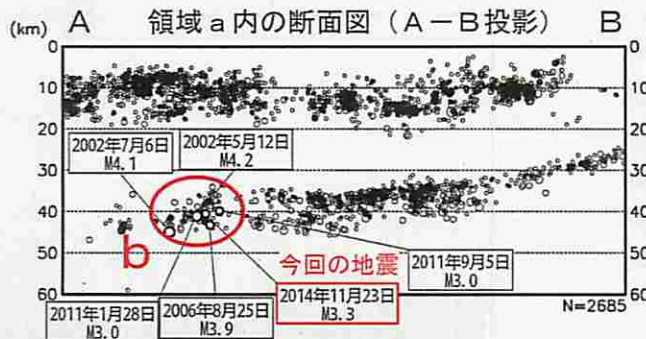
震央分布図
(1997年10月1日～2014年11月30日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～60km)
深さ25km以上の地震を濃く、それより浅い地震を薄く表示。



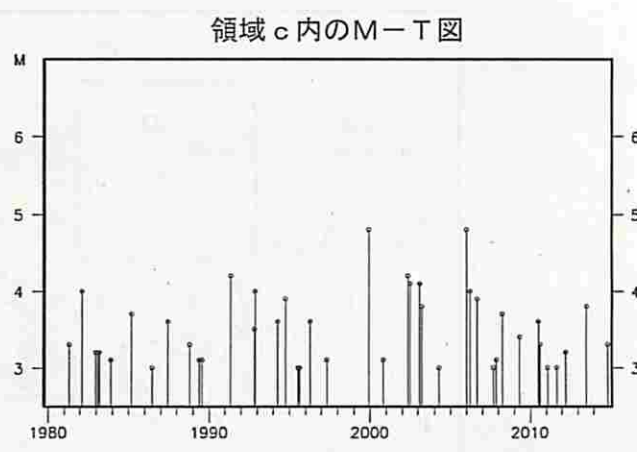
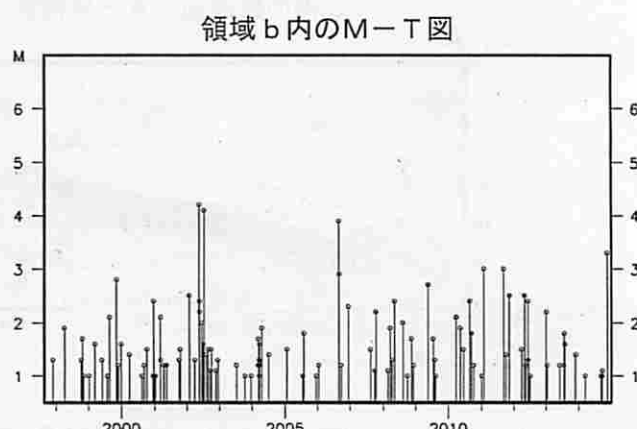
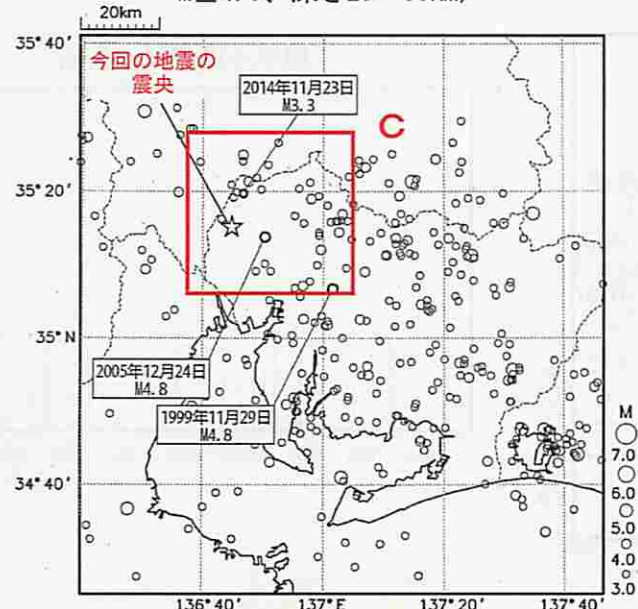
11月23日19時21分に愛知県西部の深さ41kmでM3.3の地震（最大震度1）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構は、北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M3.0以上の地震が時々発生している。

1980年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M4.0以上の地震が時々発生している。

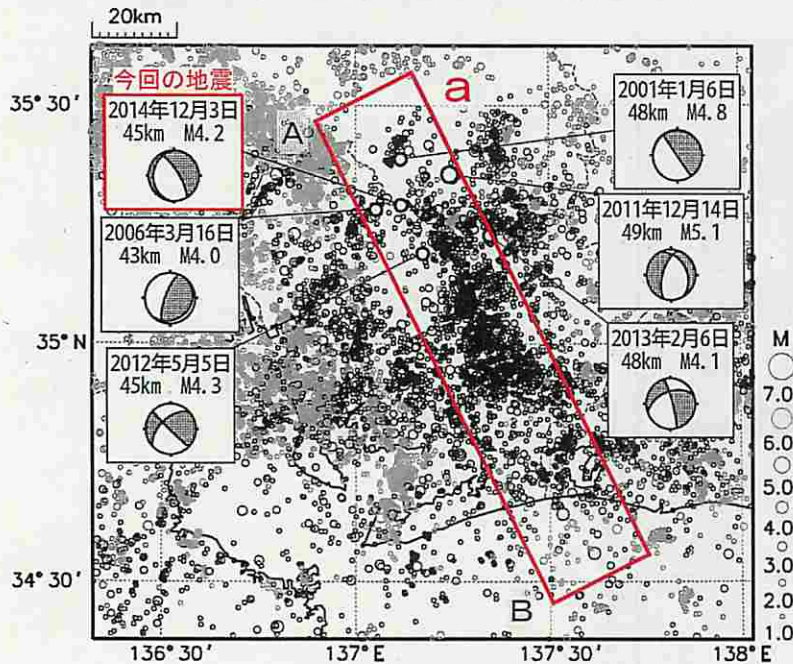


震央分布図
(1980年1月1日～2014年11月30日、 $M \geq 4.0$ 、深さ25～60km)



12月3日 愛知県西部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2014年12月13日、
M \geq 1.0、深さ0～60km)
深さ25km以深の地震を濃く、それより浅い地震を薄く表示。

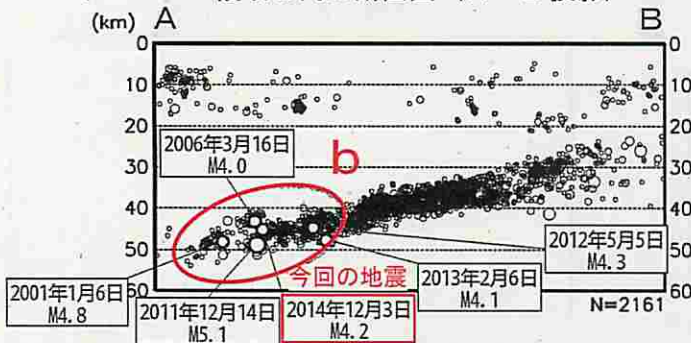


12月3日23時19分に愛知県西部の深さ45kmでM4.2の地震(最大震度3)が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構は、東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

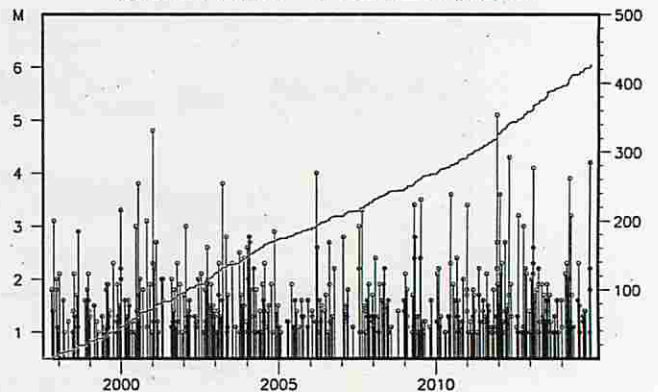
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)では、M4.0以上の地震が時々発生している。

1980年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M4.0以上の地震が時々発生している。

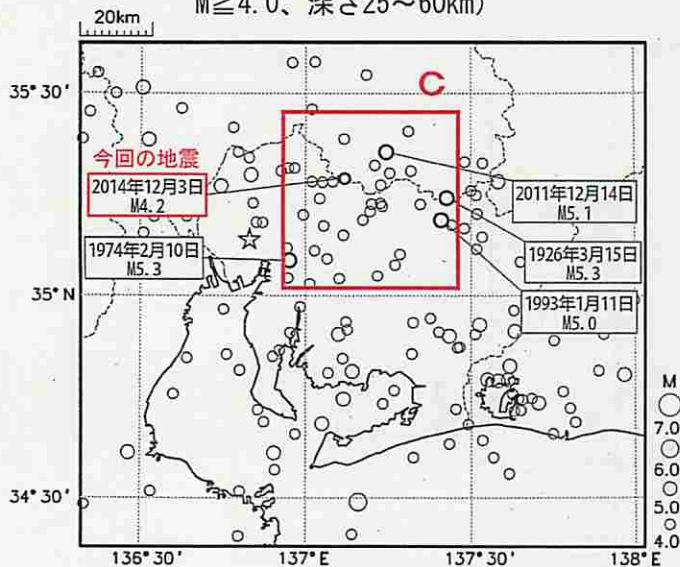
領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



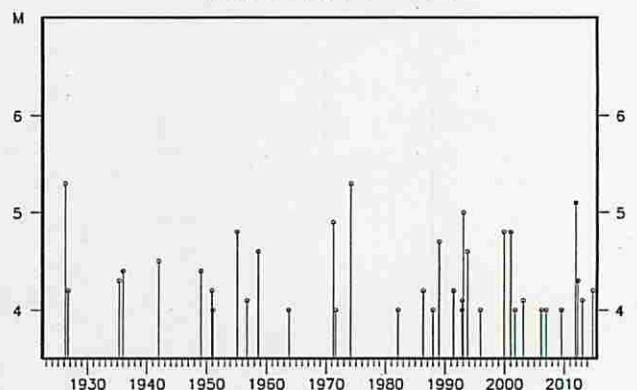
領域 b 内の M-T 図と回数積算図



震央分布図
(1980年1月1日～2014年11月30日、
M \geq 4.0、深さ25～60km)

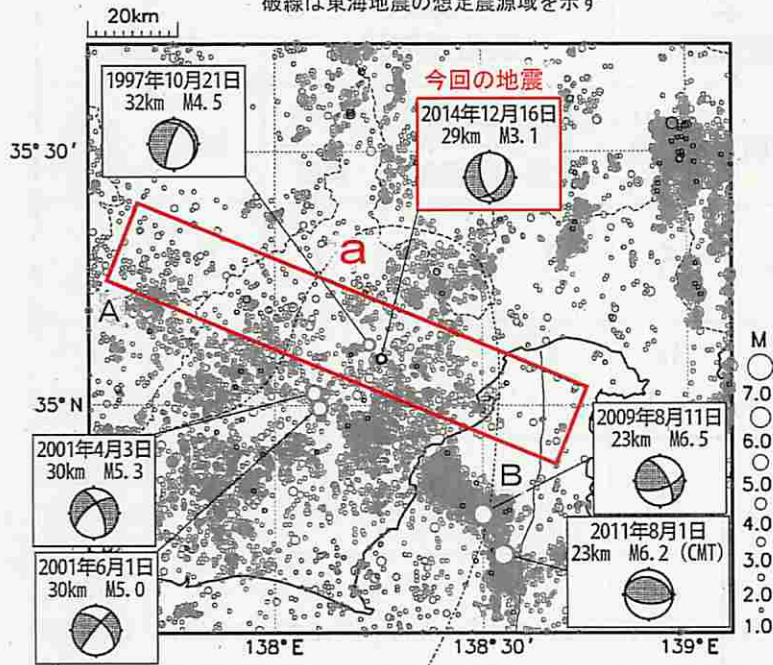


領域 c 内の M-T 図



12月16日 静岡県中部の地震

震央分布図 (1997年10月1日~2014年12月17日、
M \geq 1.0、深さ0~50km)
2014年11月以降の地震を濃く表示
破線は東海地震の想定震源域を示す

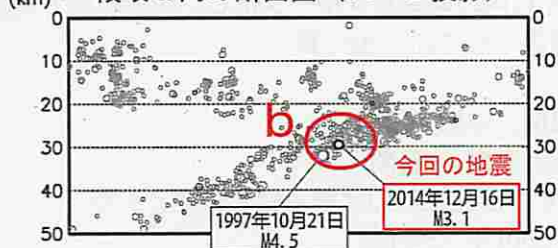


12月16日02時24分に静岡県中部の深さ29kmでM3.1の地震(最大震度1)が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

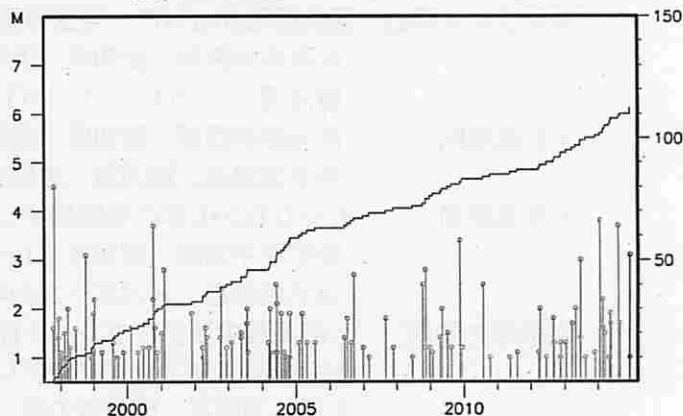
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M3.0以上の地震が時々発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M4.0以上の地震が時々発生している。

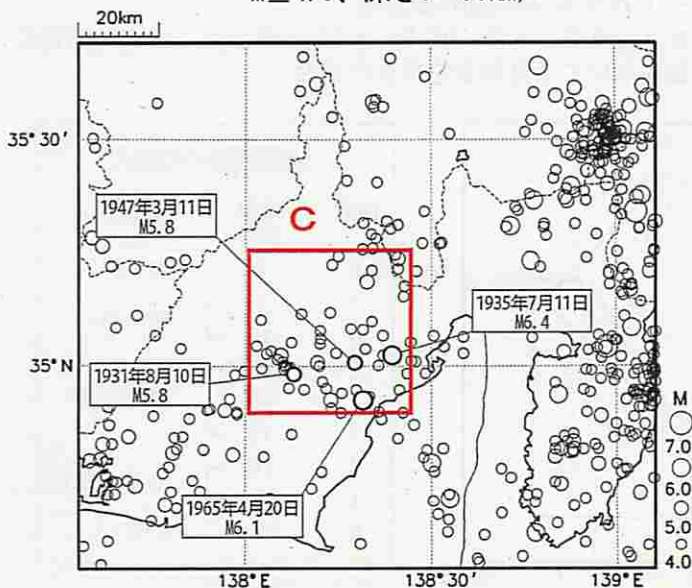
領域a内の断面図 (A-B投影)



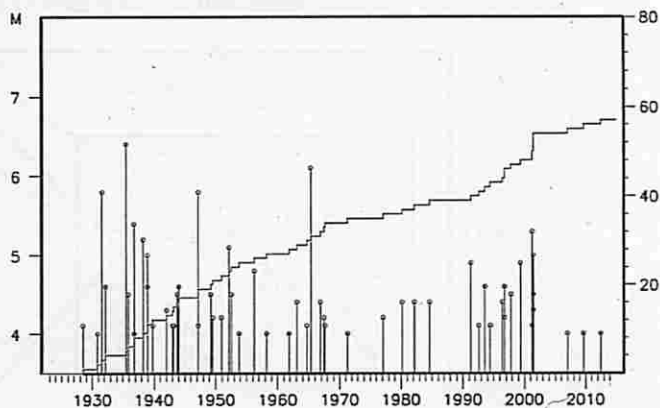
領域b内のM-T図と回数積算図



震央分布図 (1923年1月1日~2014年12月13日、
M \geq 4.0、深さ0~50km)



領域c内のM-T図



東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2014年12月17日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾	
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内 全域	西側	東側	全域	余震除去
短期活動指数	5	2	6	5	3	4	3	5	4
短期地震回数 (平均)	6 (5.29)	3 (6.82)	18 (13.16)	16 (14.15)	4 (6.16)	2 (2.46)	2 (3.70)	8 (6.06)	4 (3.89)
中期活動指数	4	3	3	4	2	3	2	5	4
中期地震回数 (平均)	17 (15.87)	16 (20.45)	35 (39.48)	42 (42.44)	7 (12.32)	3 (4.93)	4 (7.39)	15 (12.12)	7 (7.79)

* Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M \geq 1.1、駿河湾：M \geq 1.4

* クラスタ除去：震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺： $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$

駿河湾： $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$

* 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： おおむね2000年の長期的ゆっくりすべり発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年—2001年（5年間）、

浜名湖周辺：1998年—2000年（3年間）、駿河湾：1991年—2000年（10年間）

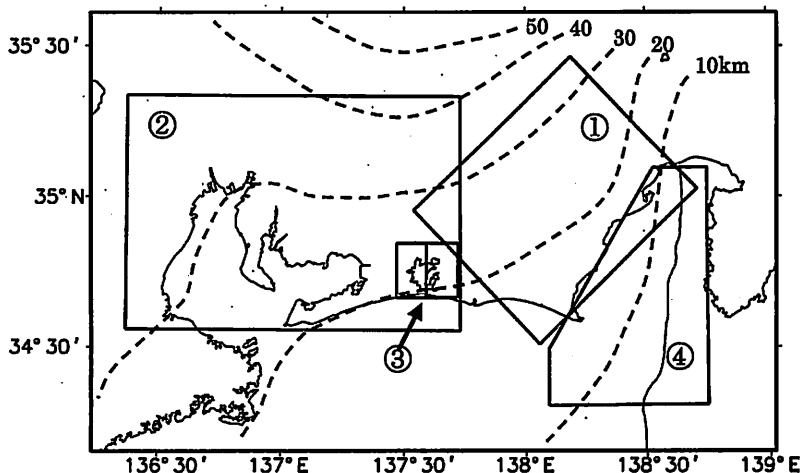
[各領域の説明] ① 静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

② 愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③ 浜名湖周辺：固着域の縁。長期的ゆっくりすべりが発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④ 駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。

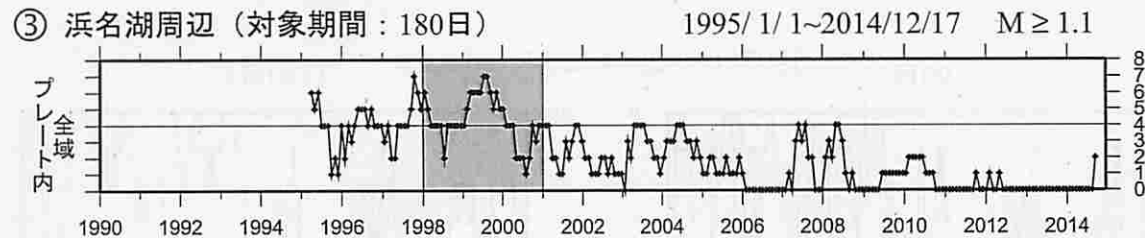
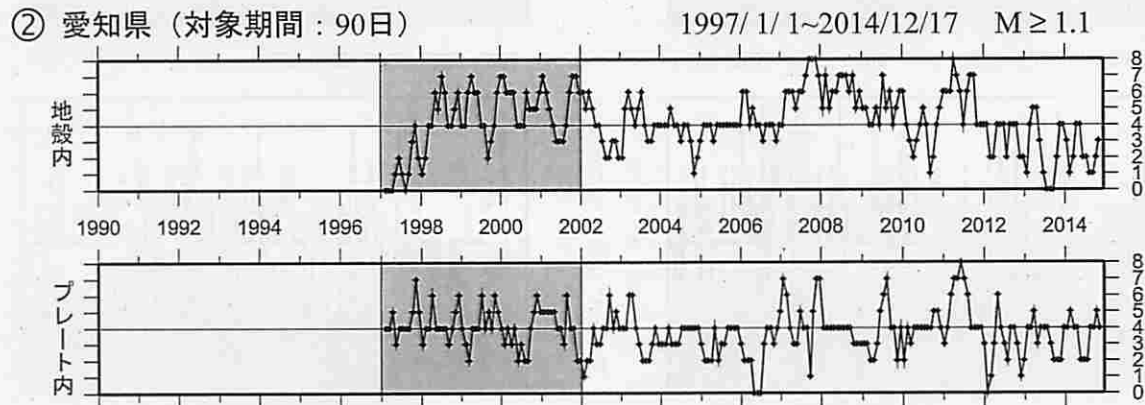
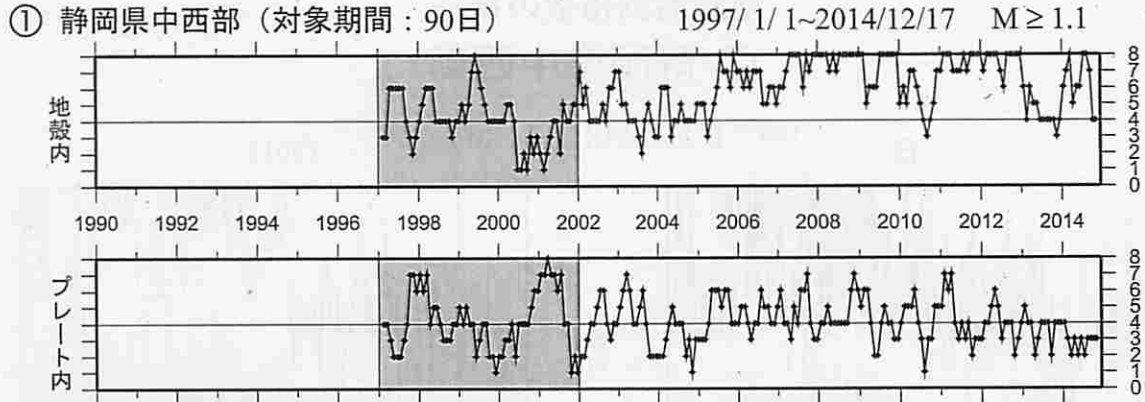
余震除去：2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除いて活動指数を求めた場合。



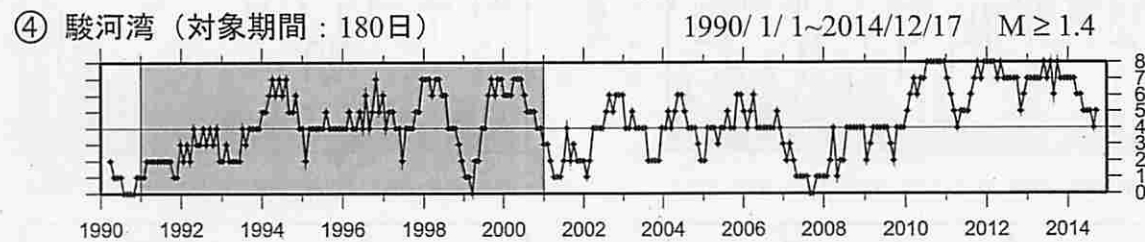
* Hirose et al. (2008) によるプレート境界の等深線を破線で示す

指数	確率 (%)	地震数
8	1	多い
7	4	
6	10	やや多い
5	15	
4	40	ほぼ平常
3	15	
2	10	やや少ない
1	4	
0	1	少ない

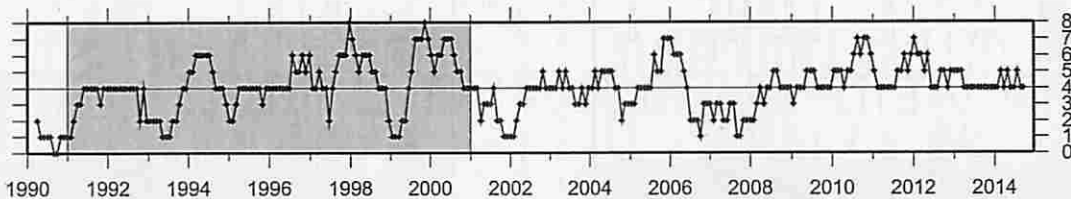
地震活動指数の推移（中期活動指数）



少ない
継続中



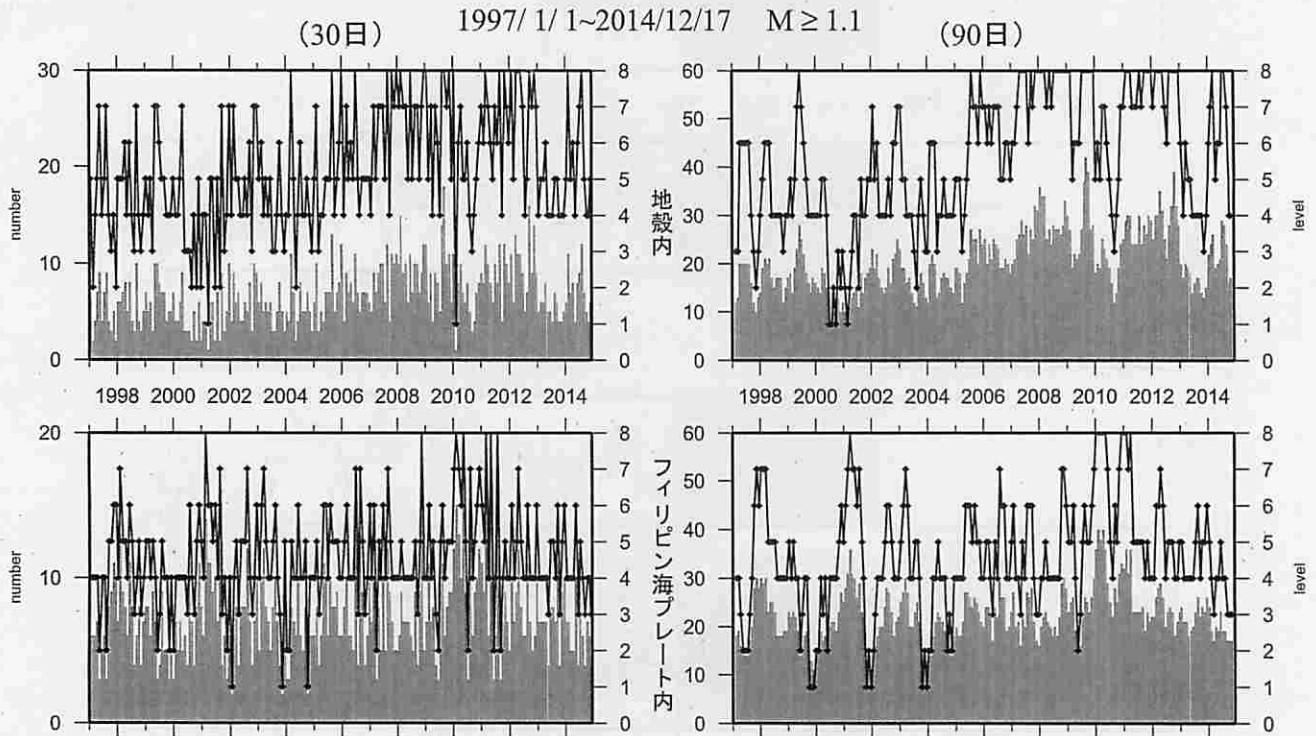
2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除去した場合



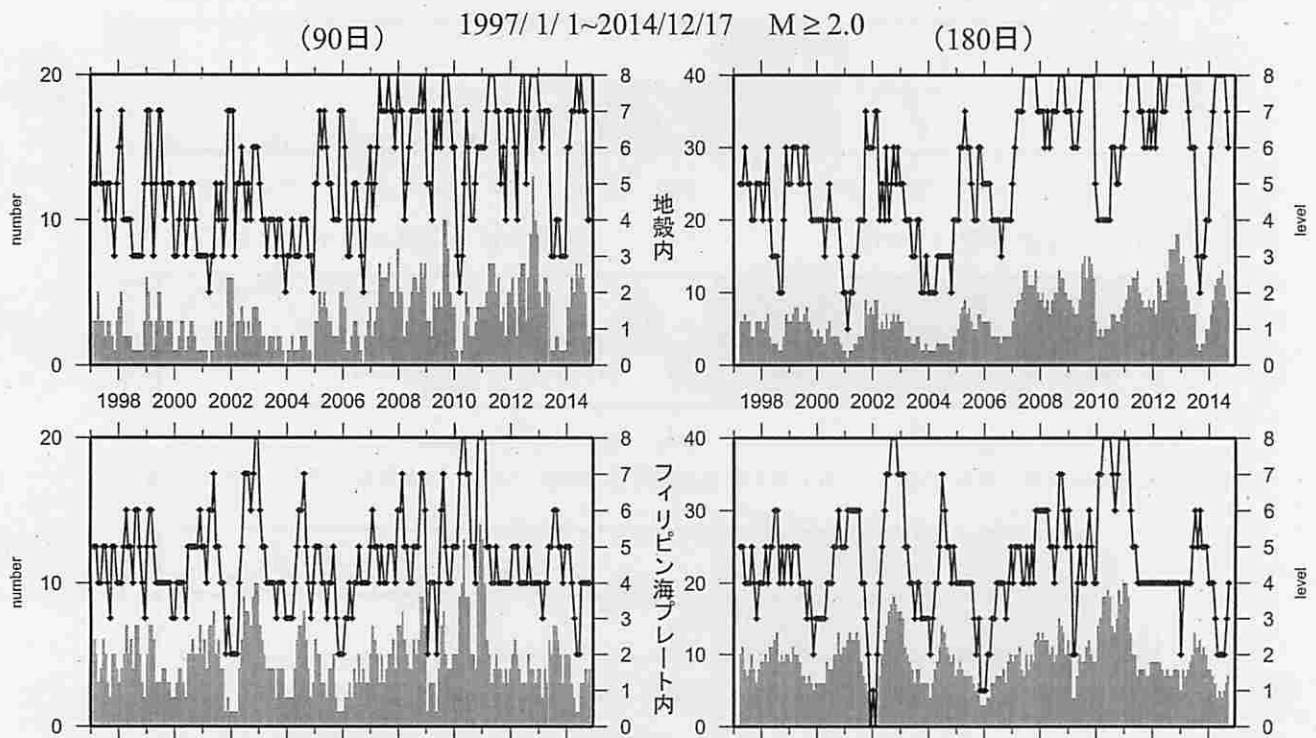
: 基準期間
 : 地震活動指数（0-8）

地震活動指数の推移

① 静岡県中西部



地殻内はやや高い(5から4)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(3)。



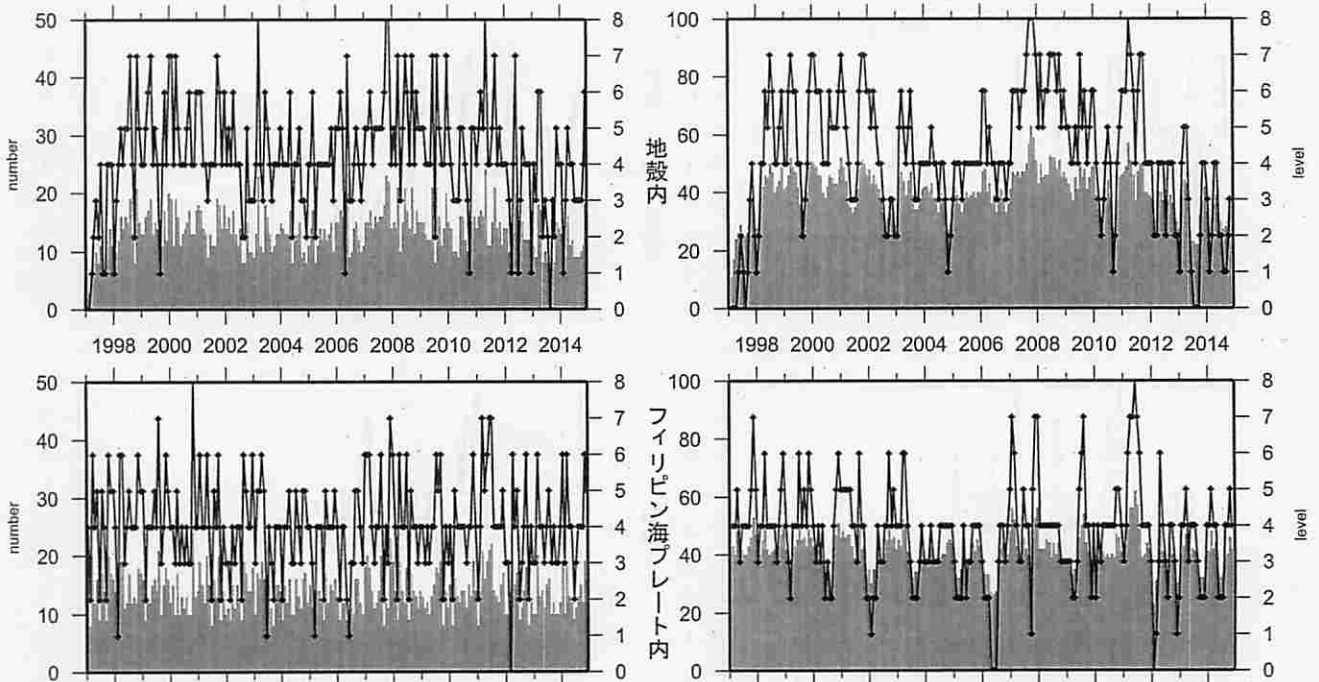
地殻内はやや高い(4から6)。
フィリピン海プレート内は平常(4)。

／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

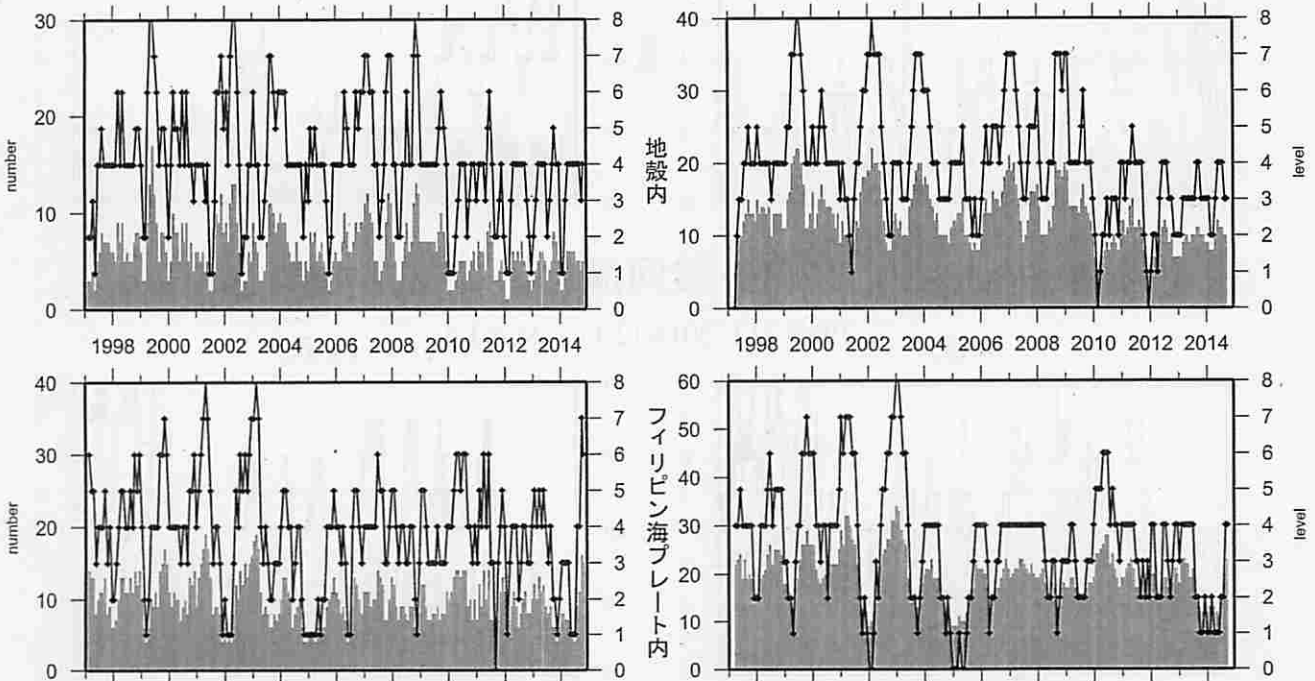
② 愛知県

(30日) 1997/1/1~2014/12/17 M ≥ 1.1 (90日)



地殻内はやや低い(6から3)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(5)

(90日) 1997/1/1~2014/12/17 M ≥ 2.0 (180日)



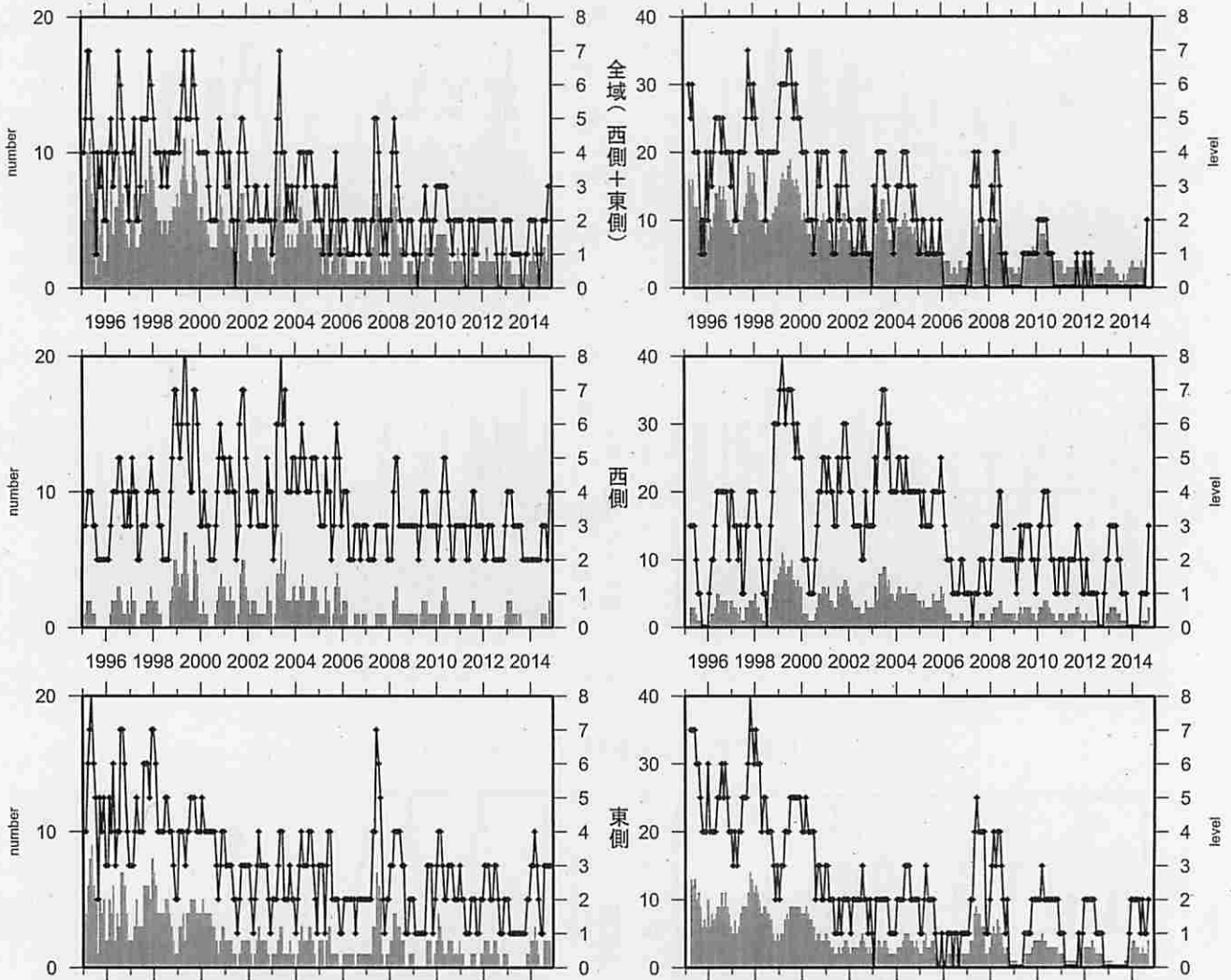
地殻内はやや低い(3)、
フィリピン海プレート内は低い(6から4)。

／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

③ 浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

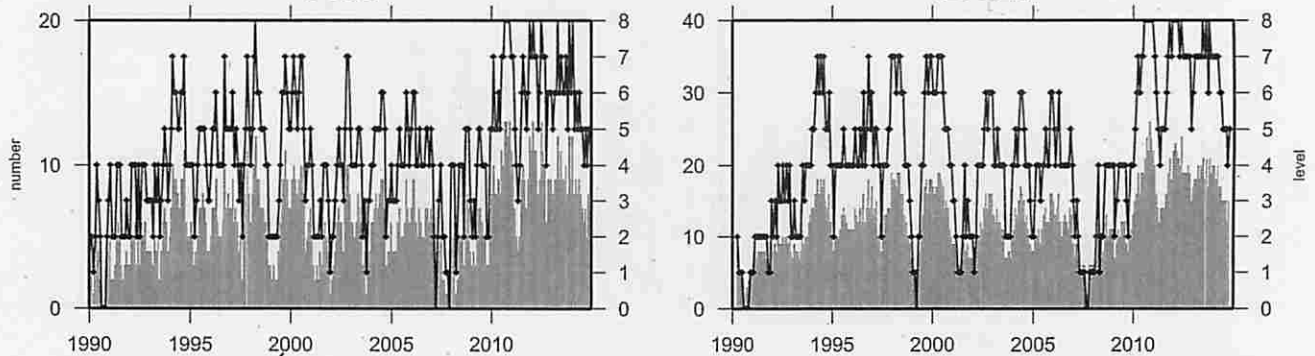
(90日) 1995/1/1~2014/12/17 M ≥ 1.1 (180日)



フィリピン海プレート内の地震活動はやや低い(3から2)。

④ 駿河湾

(90日) 1990/1/1~2014/12/17 M ≥ 1.4 (180日)



地震活動はやや高い(5)。

ただし、2009年8月11日 駿河湾の地震 (M6.5) と、2011年8月1日 駿河湾の地震 (M6.2) の余震活動の影響が残っている。

▲ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

静穏化・活発化領域の検出（東海地方、地殻内）

抽出した地震
東海地方、地殻内で発生した
M 1.1 以上の地震

- : 全期間の地震
- : 解析対象期間内に発生した地震

クラスタ除去（デクラスタ）
震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内
の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

図の注釈

静穏化

- : 半径 15.0 km 以内でレベル 0
- : 半径 20.0 km 以内でレベル 0

活発化

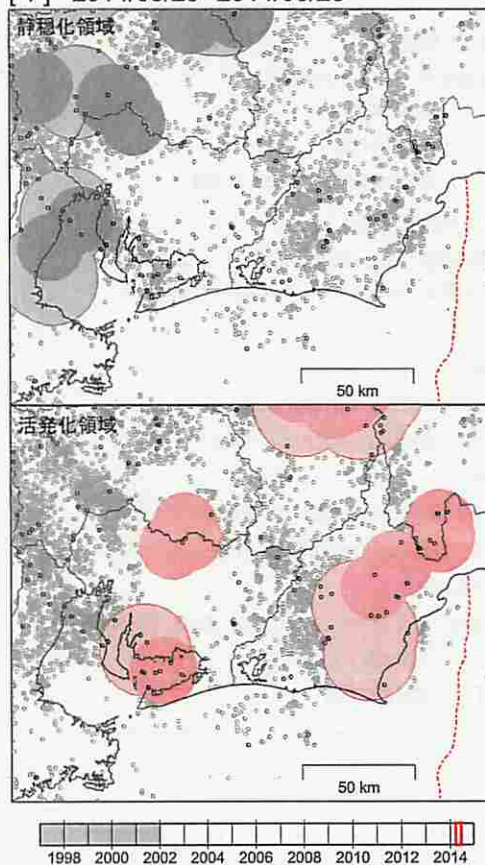
- : 半径 15.0 km 以内でレベル 8
- : 半径 20.0 km 以内でレベル 8

タイムバー

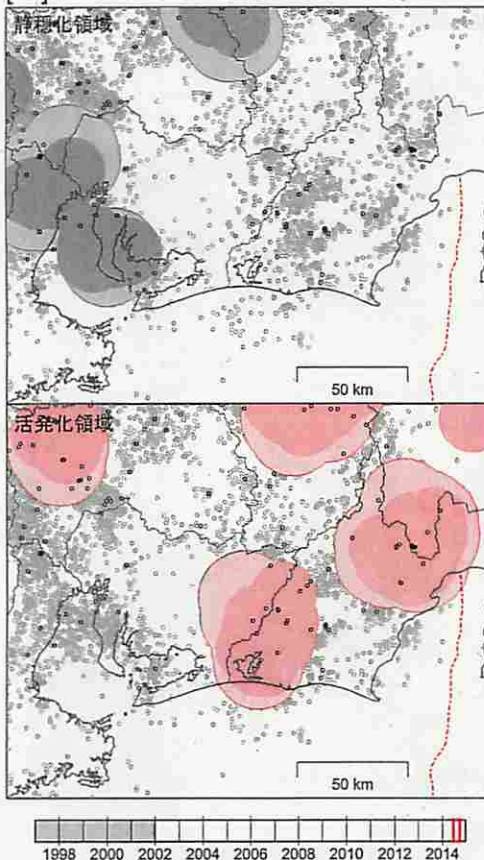
全体 : 検出領域中心として解析に用いたデータの期間

- : 基準期間
- : 解析対象期間

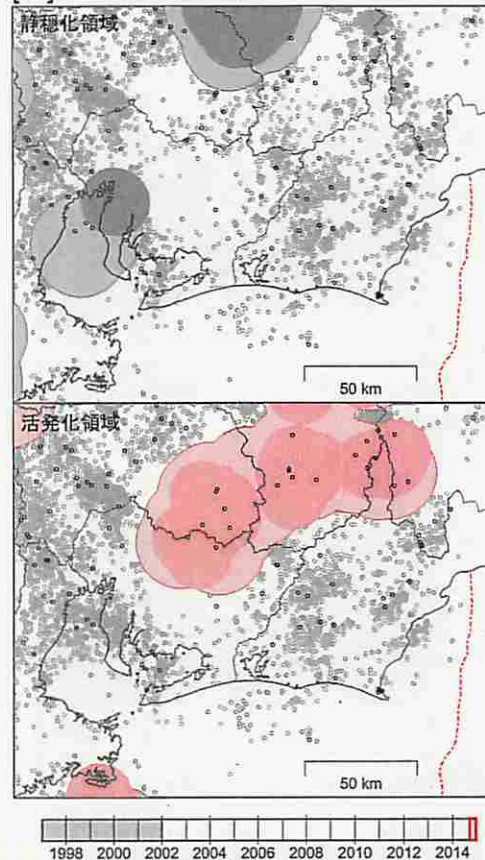
[1] 2014/03/23–2014/06/20



[2] 2014/06/21–2014/09/18



[3] 2014/09/19–2014/12/17



静穏化・活発化領域の検出（東海地方、プレート内）

抽出した地震
 東海地方、プレート内で発生した
 M1.1以上の地震

- ：全期間の地震
- ：解析対象期間内に発生した地震

クラスター除去（デクラスター）
 震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内
 の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

図の注釈

静穏化

- ：半径 15.0 km 以内でレベル 0
- ：半径 20.0 km 以内でレベル 0

活発化

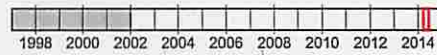
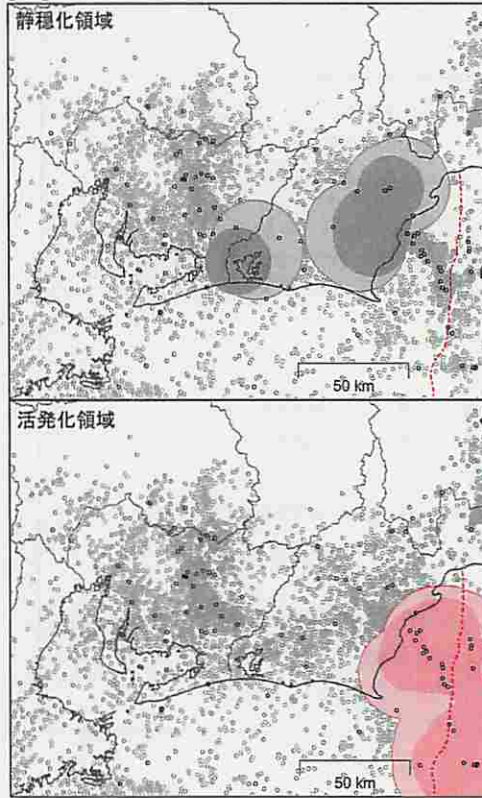
- ：半径 15.0 km 以内でレベル 8
- ：半径 20.0 km 以内でレベル 8

タイムバー

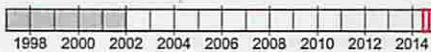
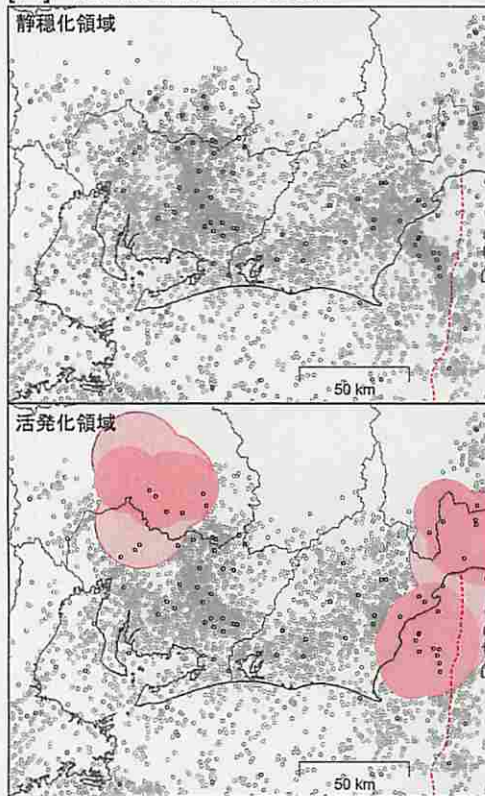
全体：検出領域中心として解析に用いたデータの期間

- ：基準期間
- ：解析対象期間

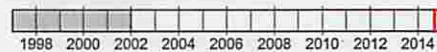
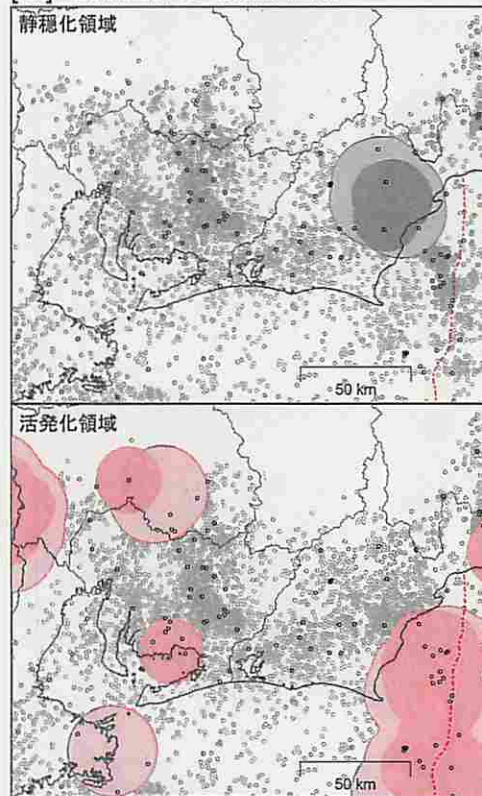
[1] 2014/03/23-2014/06/20



[2] 2014/06/21-2014/09/18

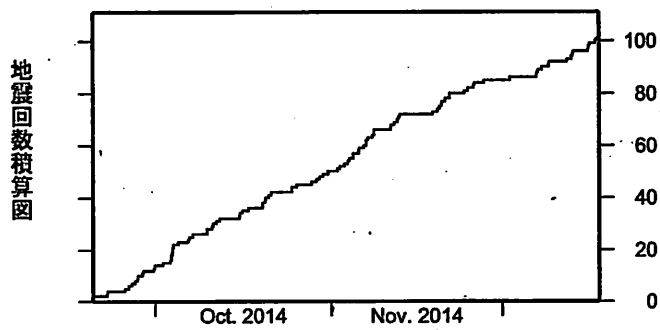
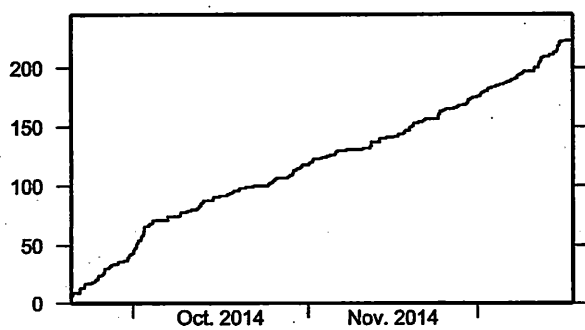
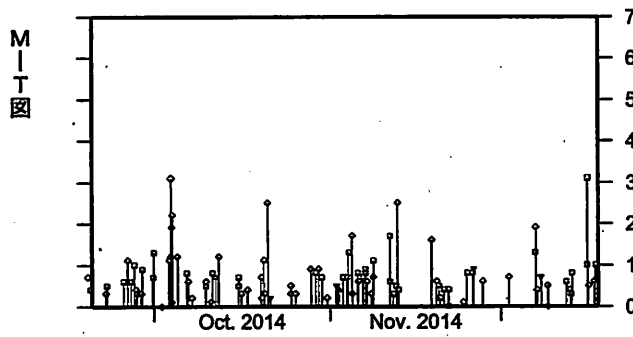
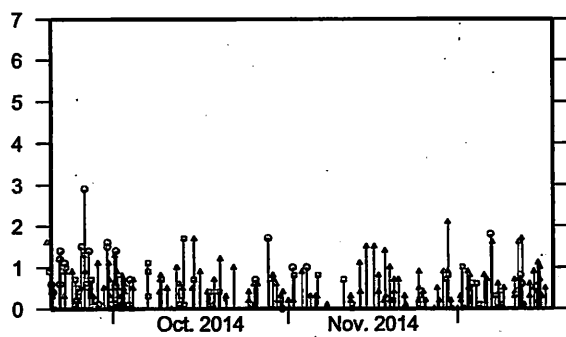
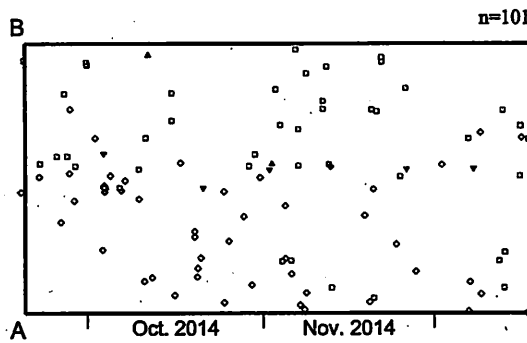
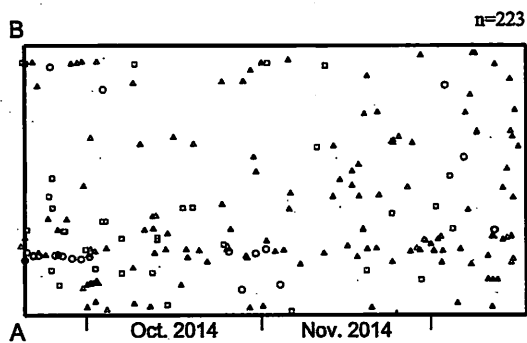
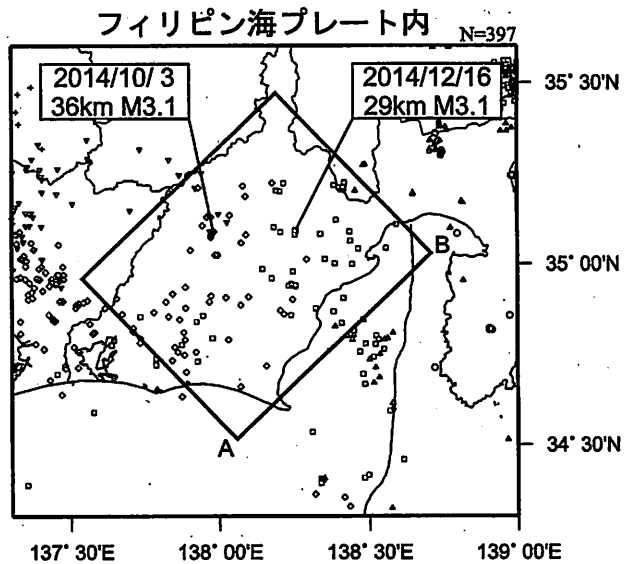
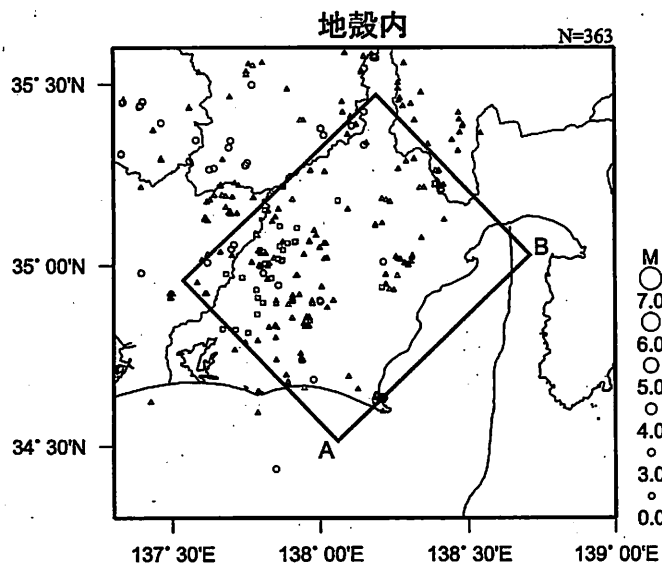


[3] 2014/09/19-2014/12/17



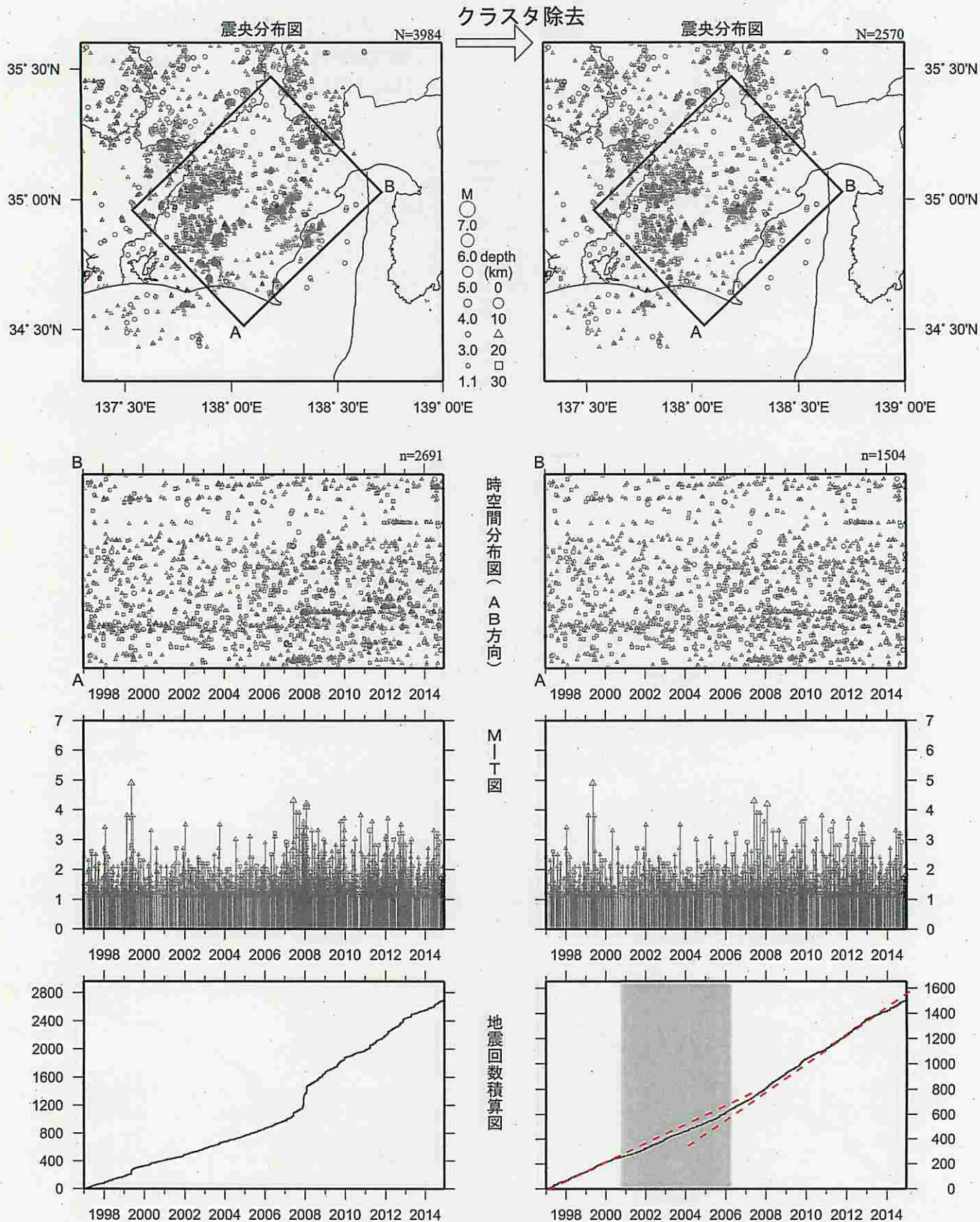
静岡県中西部 (最近90日)

2014/9/19~2014/12/17 M \geq 0.0 0 \leq 深さ(km) \leq 60



* 吹き出しはM \geq 3.0

静岡県中西部（地殻内）
1997/1/1~2014/12/17 M ≥ 1.1

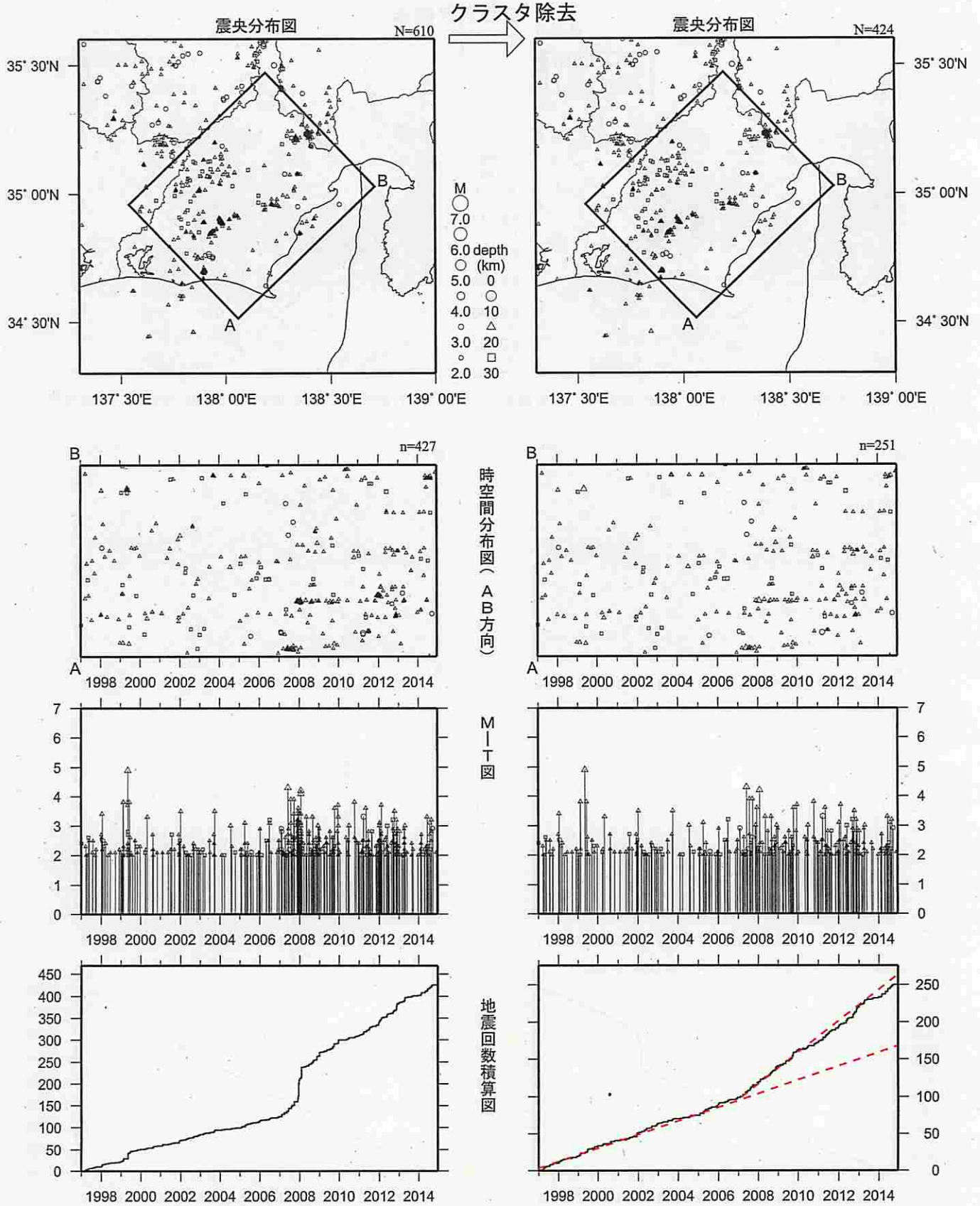


最近60日以内の地震を濃く表示

クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急でやや活発、その後2005年半ばまでは傾きが緩やかでやや低調、2005年半ば以降はやや活発、という傾向が見られる。この地震活動変化は、概ね長期的スロースリップの進行（右下図網掛け領域）・停滞の時期に対応している。2007年後半以降はさらに活発な傾向が続いてきたが、2013年に入ってから活動が少ない時期があった。

気象庁作成

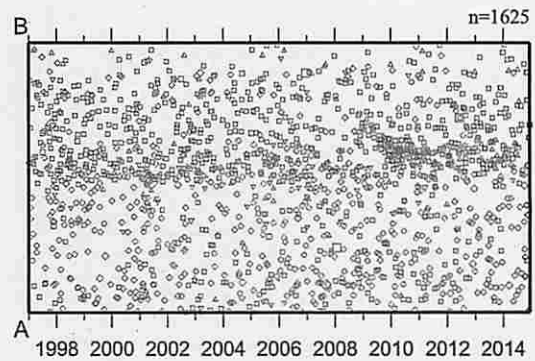
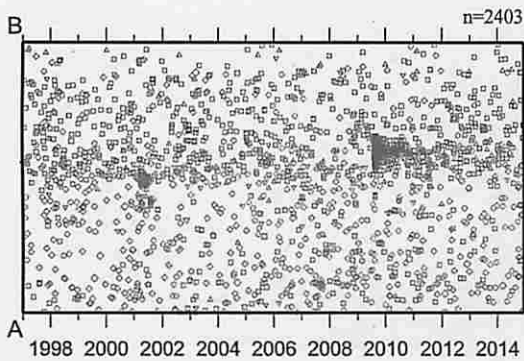
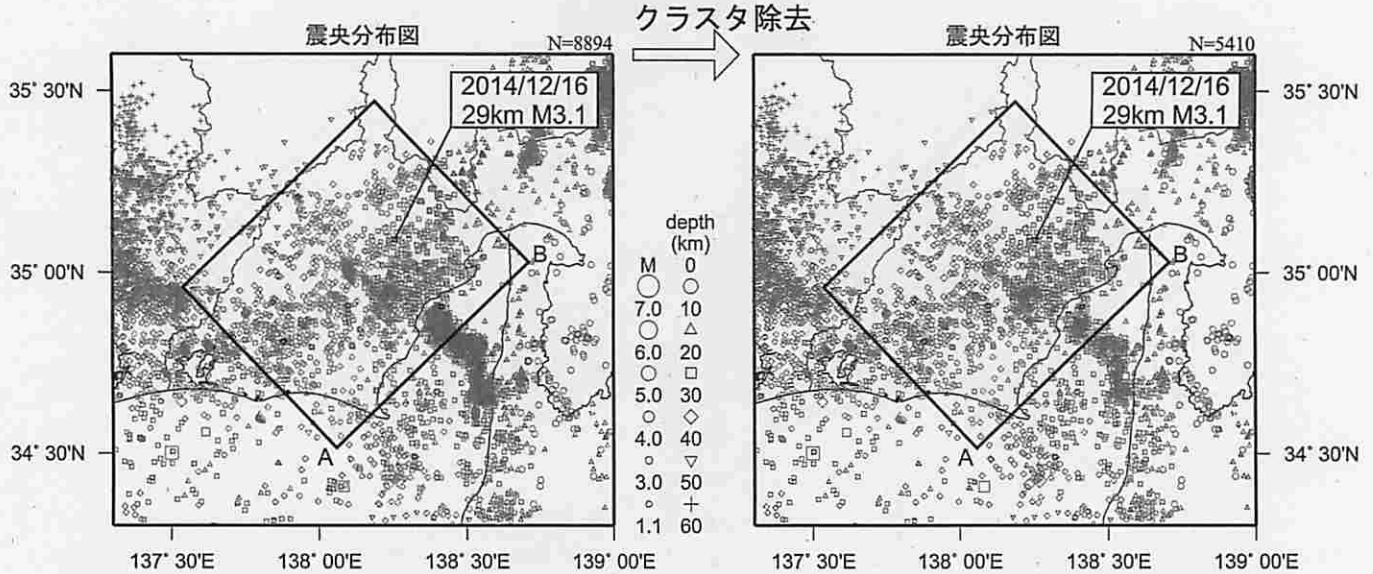
静岡県中西部（地殻内）
1997/1/1~2014/12/17 M \geq 2.0



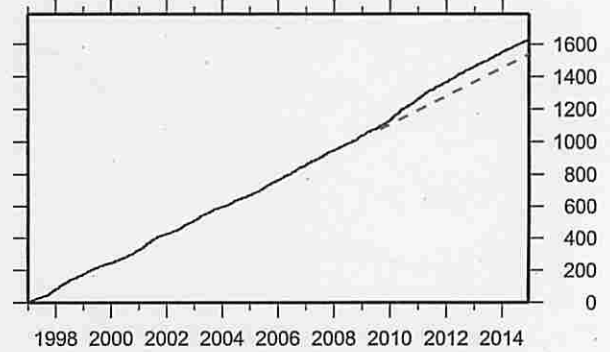
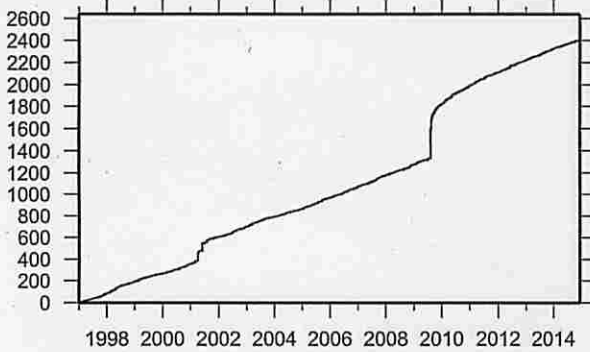
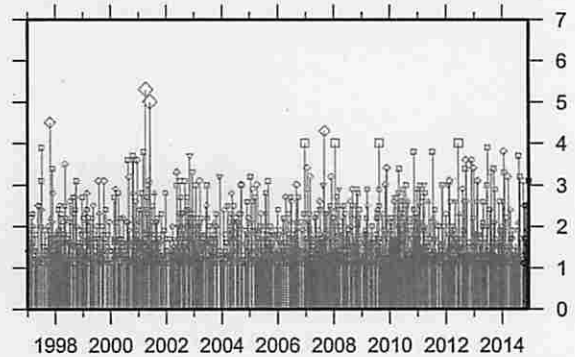
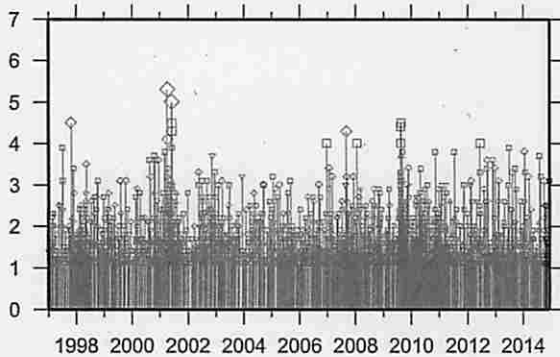
クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)を見ると、2007年頃から傾きが急でやや活発な状態を示している。

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/1/1~2014/12/17 M \geq 1.1



時空間分布図 (A-B方向)

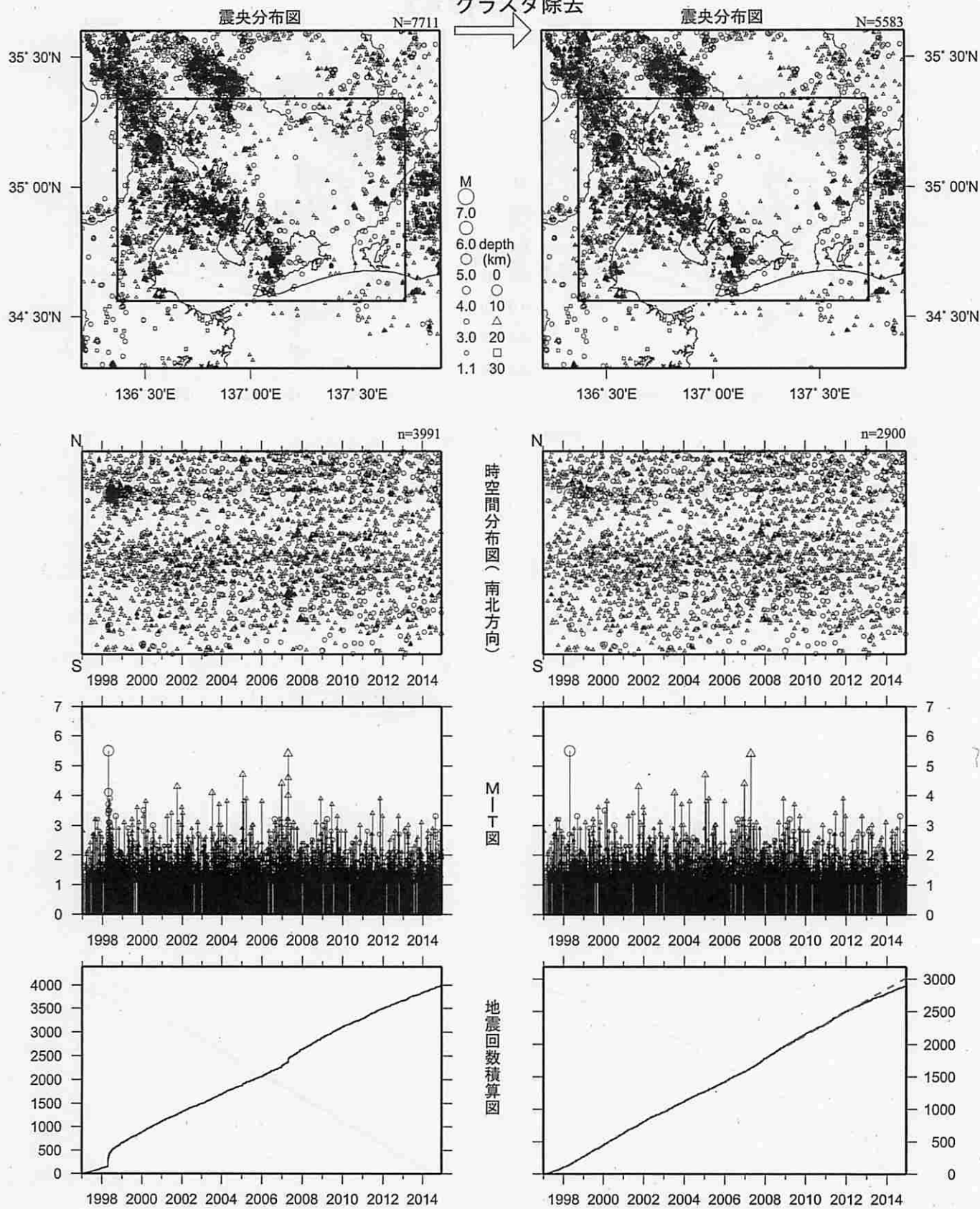


* 吹き出しは最近60日以内、M \geq 3.0
最近60日以内の地震を濃く表示

2009年末から2011年始めまで、地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様の傾向が見られていた。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在の地震活動指数はほぼ平常程度で推移しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)にも顕著な変化は見られない。

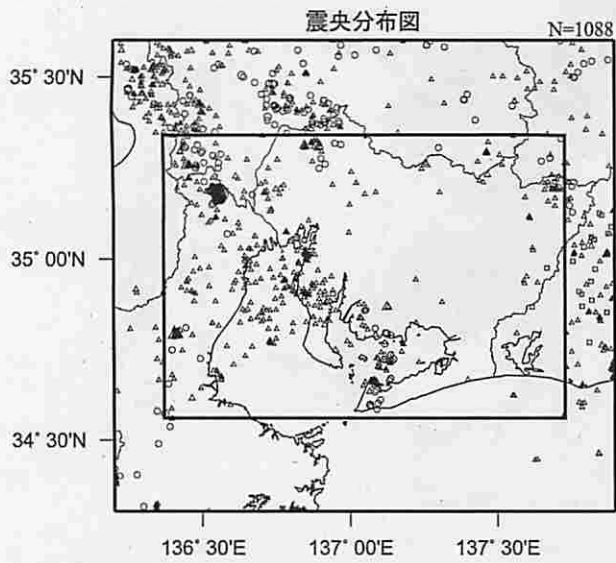
気象庁作成

愛知県（地殻内）
1997/1/1~2014/12/17 M \geq 1.1

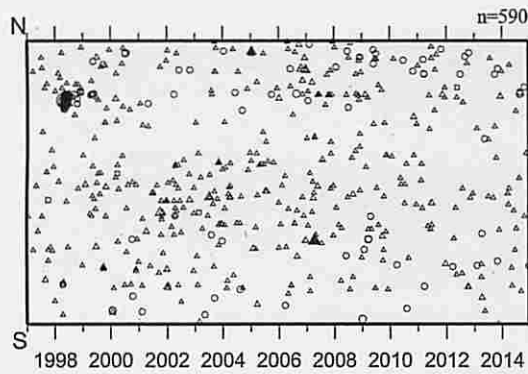
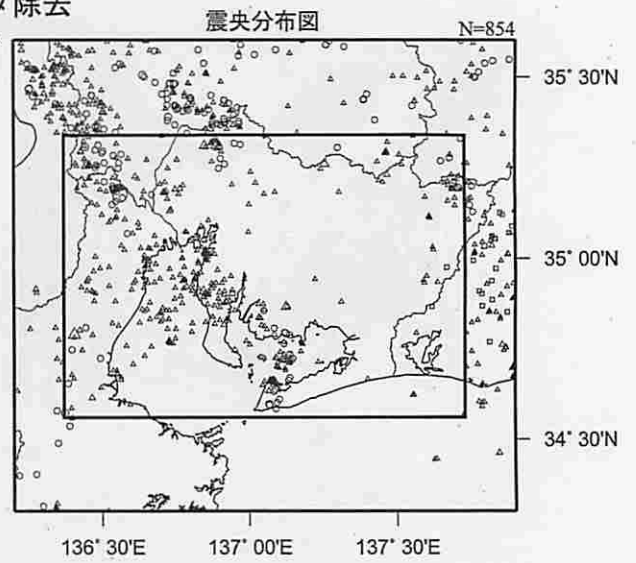


地震活動指数は2013年以降低下傾向にあり、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)も、同様に低調に推移している。

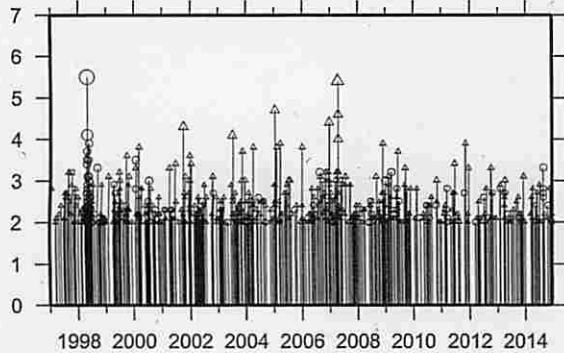
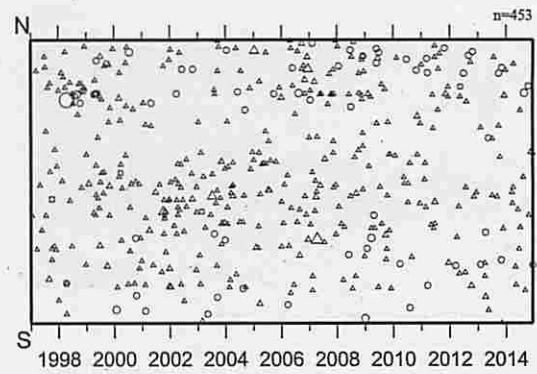
愛知県 (地殻内)
1997/1/1~2014/12/17 M \geq 2.0



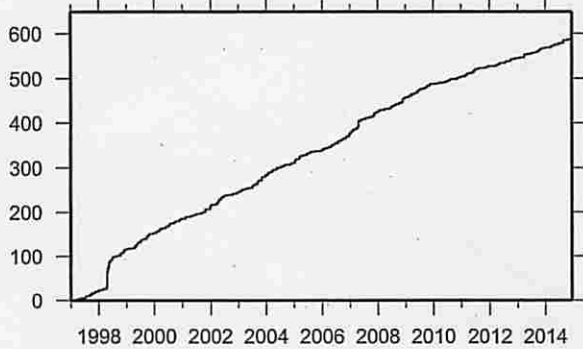
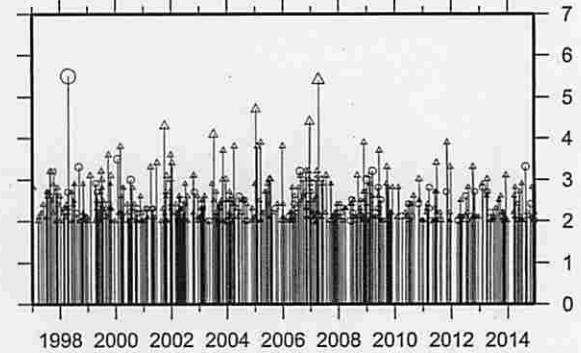
クラスター除去



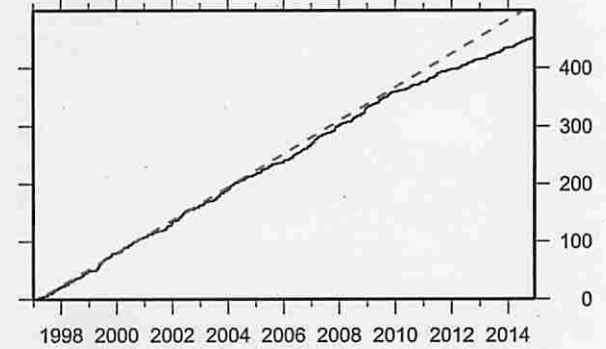
時空間分布図 (南北方向)



M-T図



地震回数積算図

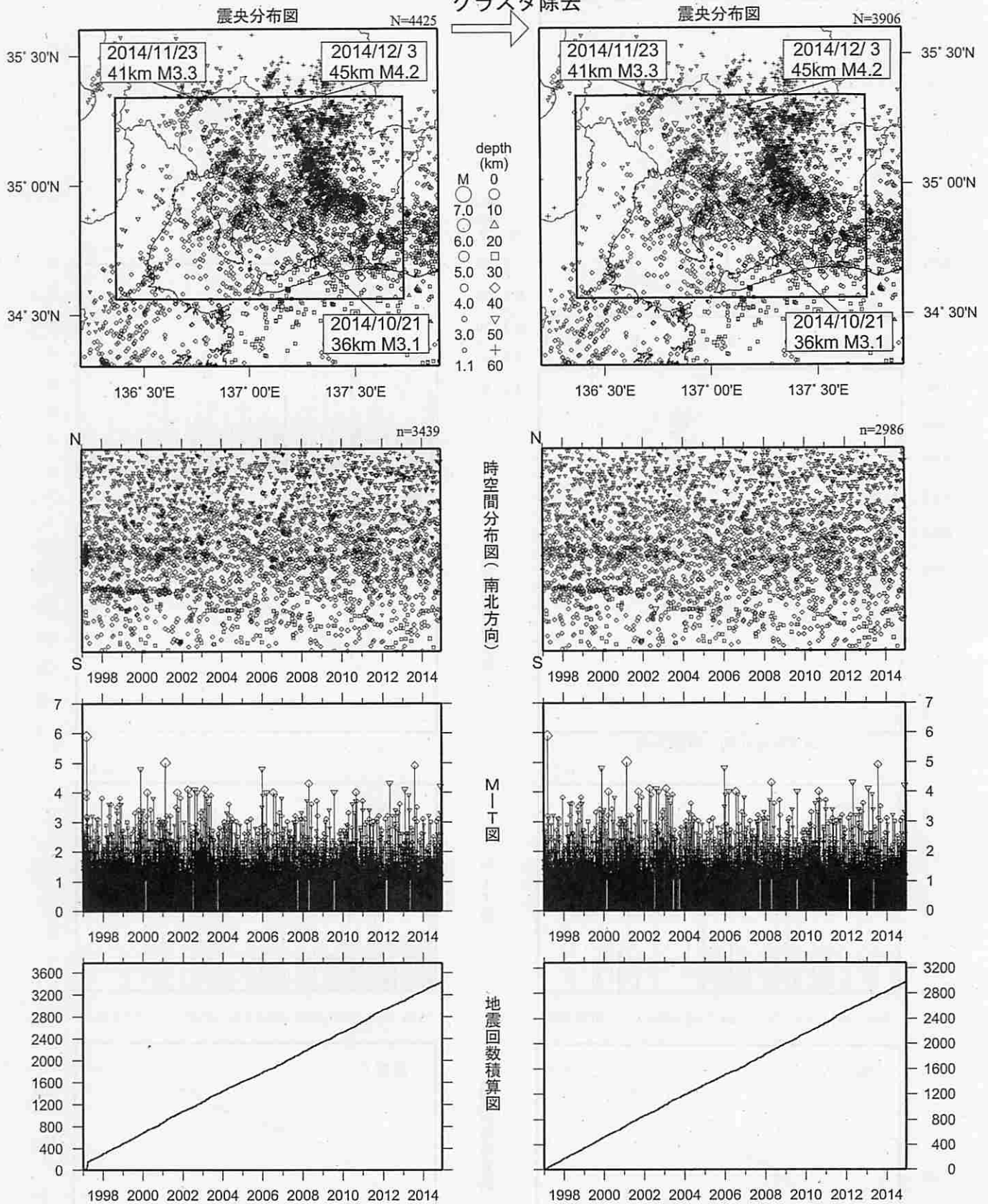


クラスター除去後のM2.0以上の地震回数積算図(右下図)からは、地震回数が2009年終わり頃から以前に比べてやや少ない状態で推移しているように見える。

愛知県 (フィリピン海プレート内)

1997/1/1~2014/12/17 M \geq 1.1

クラスタ除去



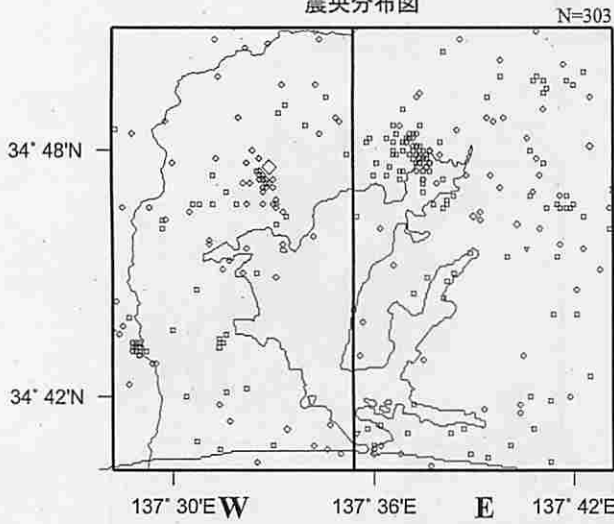
* 吹き出しは最近60日以内、M \geq 3.0

地震活動指数は平常からやや少ない状態で推移しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)には特段の変化は見られない。

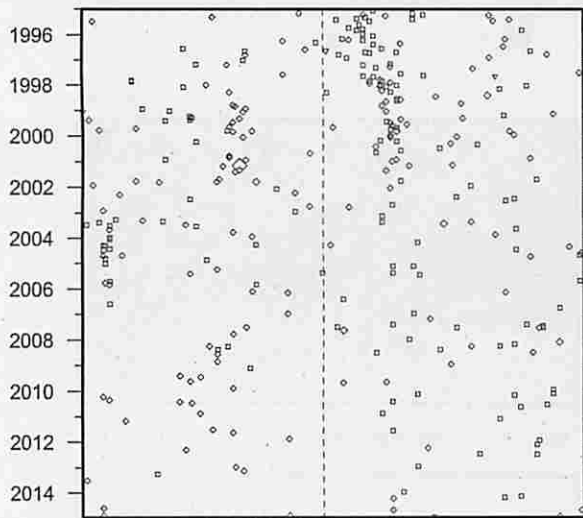
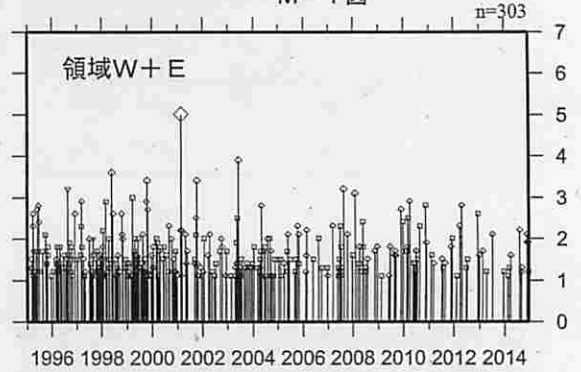
浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2014/12/17 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

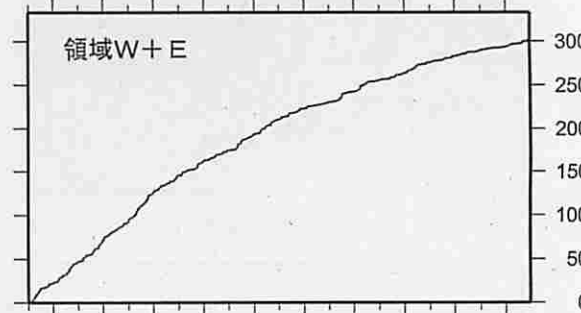
震央分布図



M-T 図

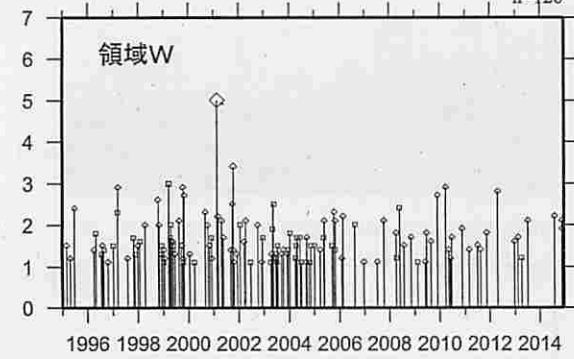


地震回数積算図

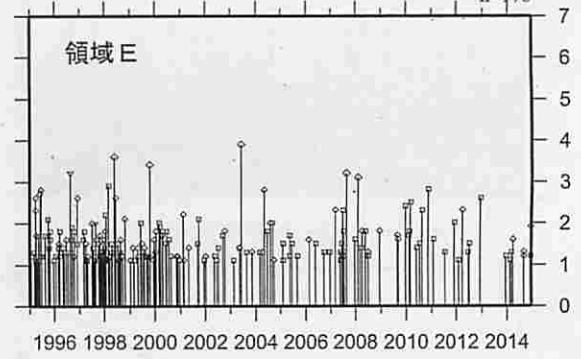


時空間分布図 (東西方向)

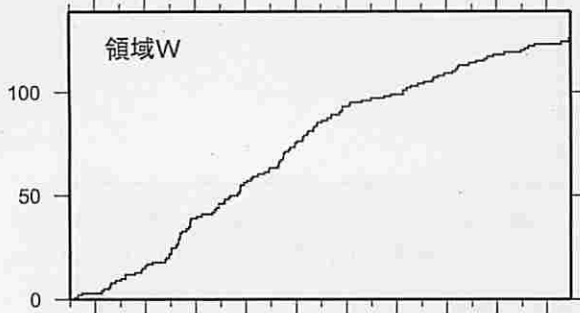
n=126



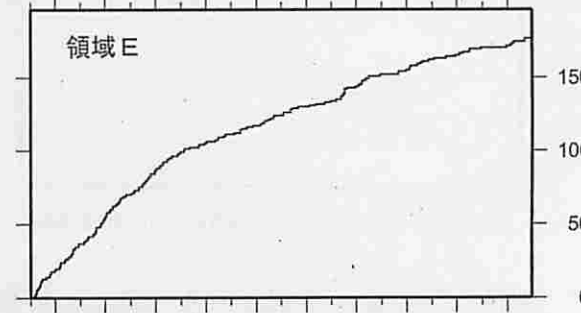
n=178



M-T 図



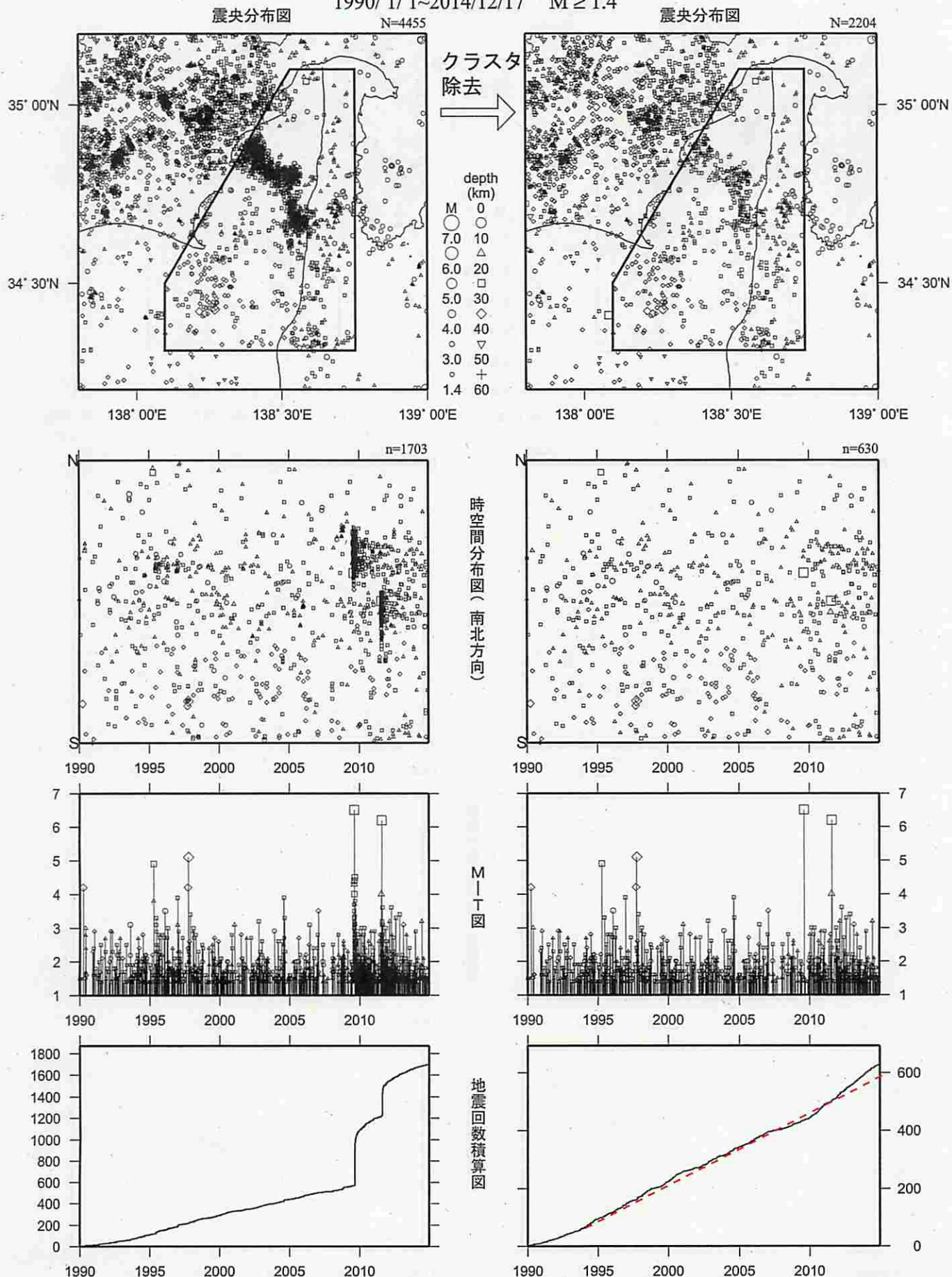
地震回数積算図



[東側] 地震回数積算図 (右下図) を見ると、地震活動は2000年以降低調。
 [西側] 地震回数積算図 (左下図) を見ると、2006年以降低調。

駿河湾

1990/1/1~2014/12/17 M ≥ 1.4



2010年頃地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様の傾向が見られる。これは、2009年8月の駿河湾の地震(M6.5)と、2011年8月の駿河湾の地震(M6.2)余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在の地震活動指数も落ちきつつあるも、やや高い状態で推移している。

駿河湾

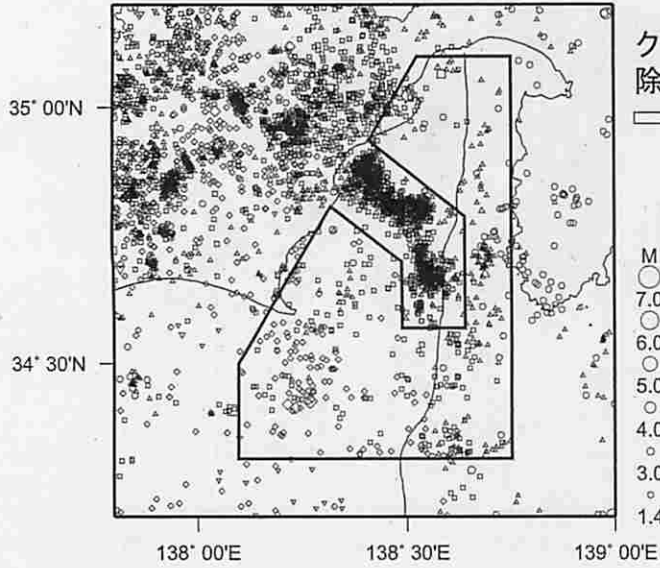
1990/1/1~2014/12/17 M ≥ 1.4

震央分布図

N=4455

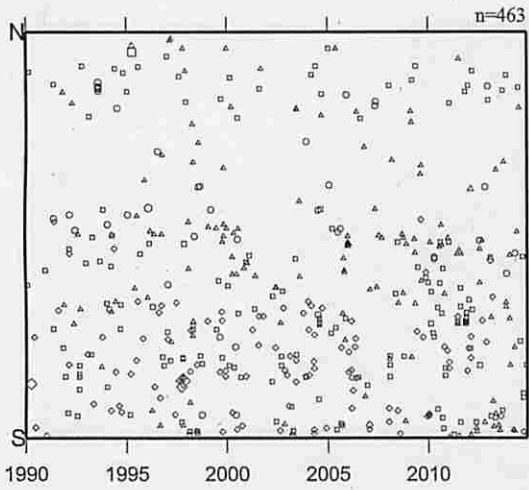
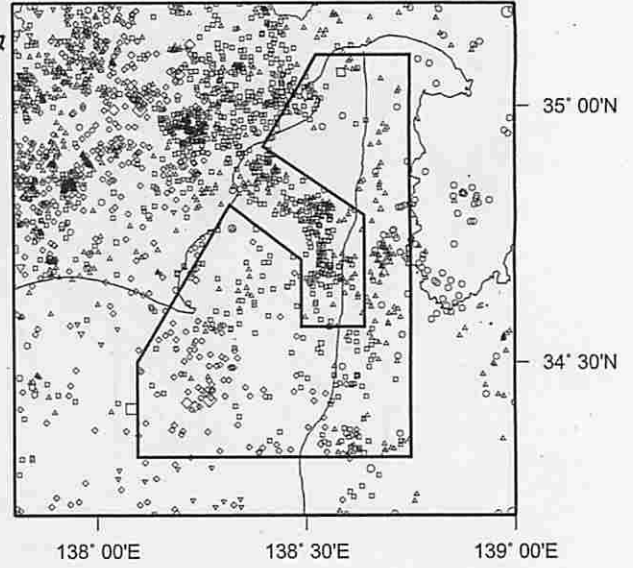
震央分布図

N=2204

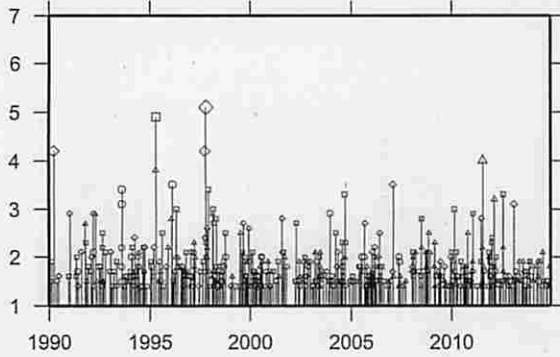
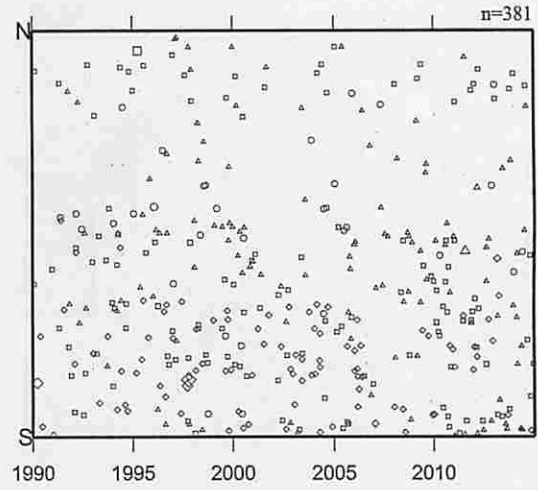


クラスター
除去
→

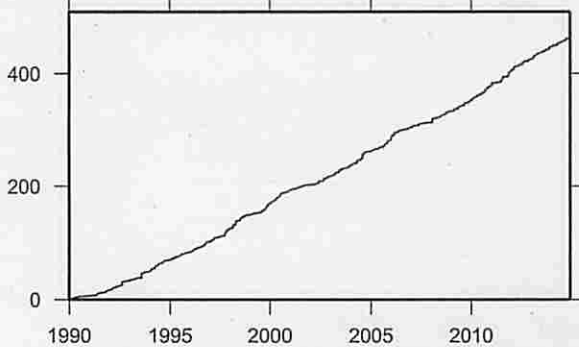
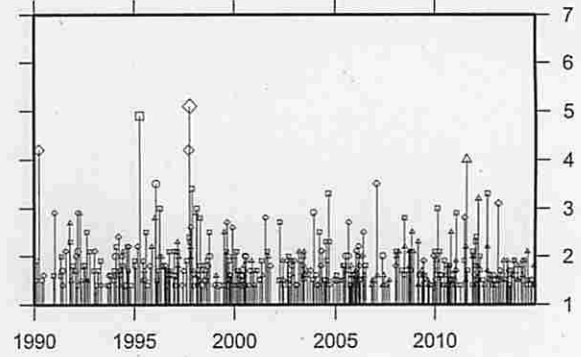
depth (km)
M
7.0 ○
6.0 ○
5.0 ○
4.0 ○
3.0 ○
1.4 ○
0 ○
10 △
20 △
30 △
40 △
50 △
60 △
+
+



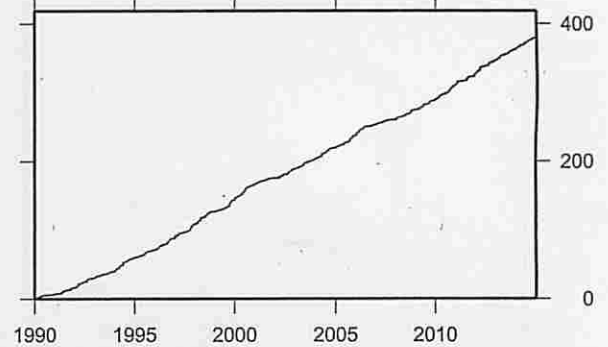
時間分布図 (南北方向)



地震活動経過図 (規模別)



地震回数積算図

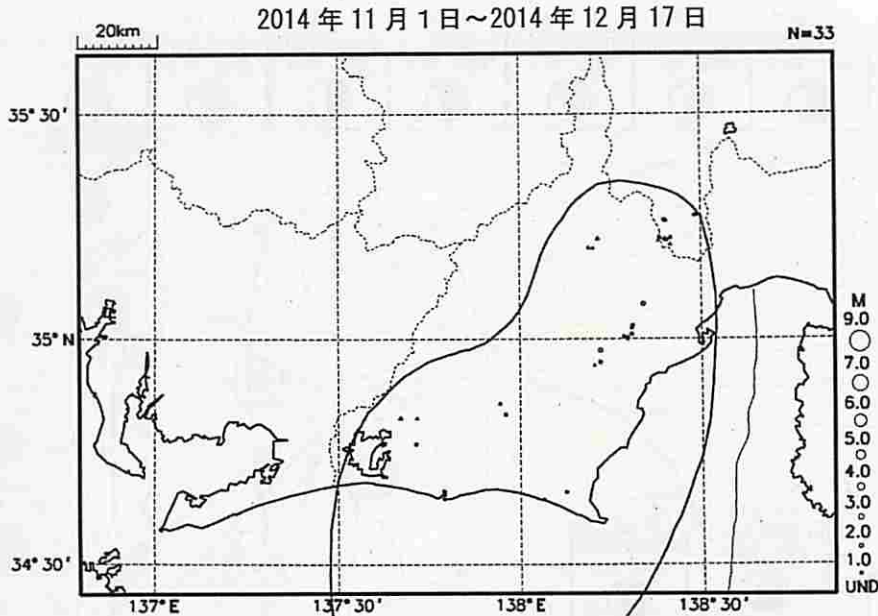


2009年8月の駿河湾の地震(M6.5)と、2011年8月の駿河湾の地震(M6.2)余震活動域を除外した物。活動指数は平常で推移している。

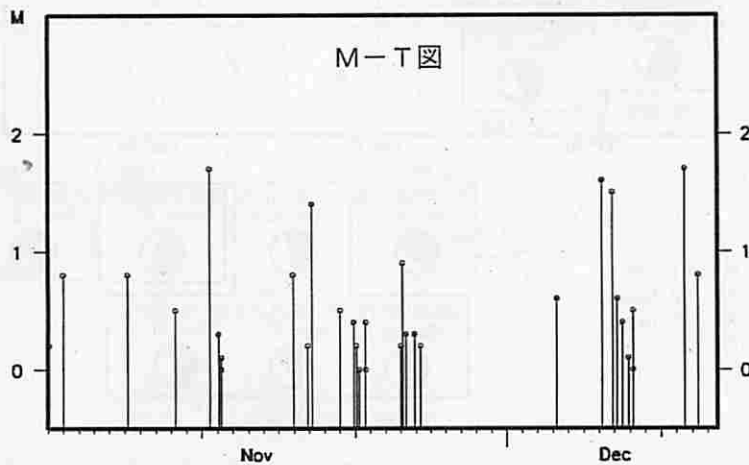
プレート境界とその周辺の地震活動(最近の活動状況)

(Hirose et al. (2008)によるフィリピン海プレート上面深さの±3kmの地震を抽出)

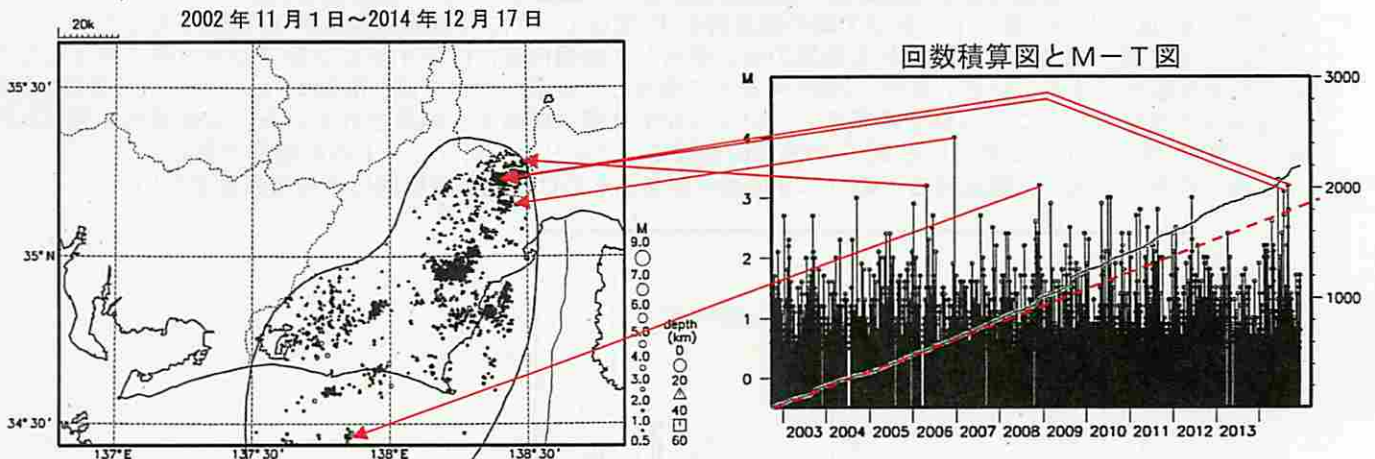
プレート境界とその周辺の地震の震央分布(最近約1ヶ月と少々、Mすべて)



吹き出しの傍に書かれた値は、フィリピン海プレート上面からの鉛直方向の距離(km)。+は浅く、-は深いことを示す。



プレート境界とその周辺の地震の震央分布(2002年10月以降、M≥0.5)



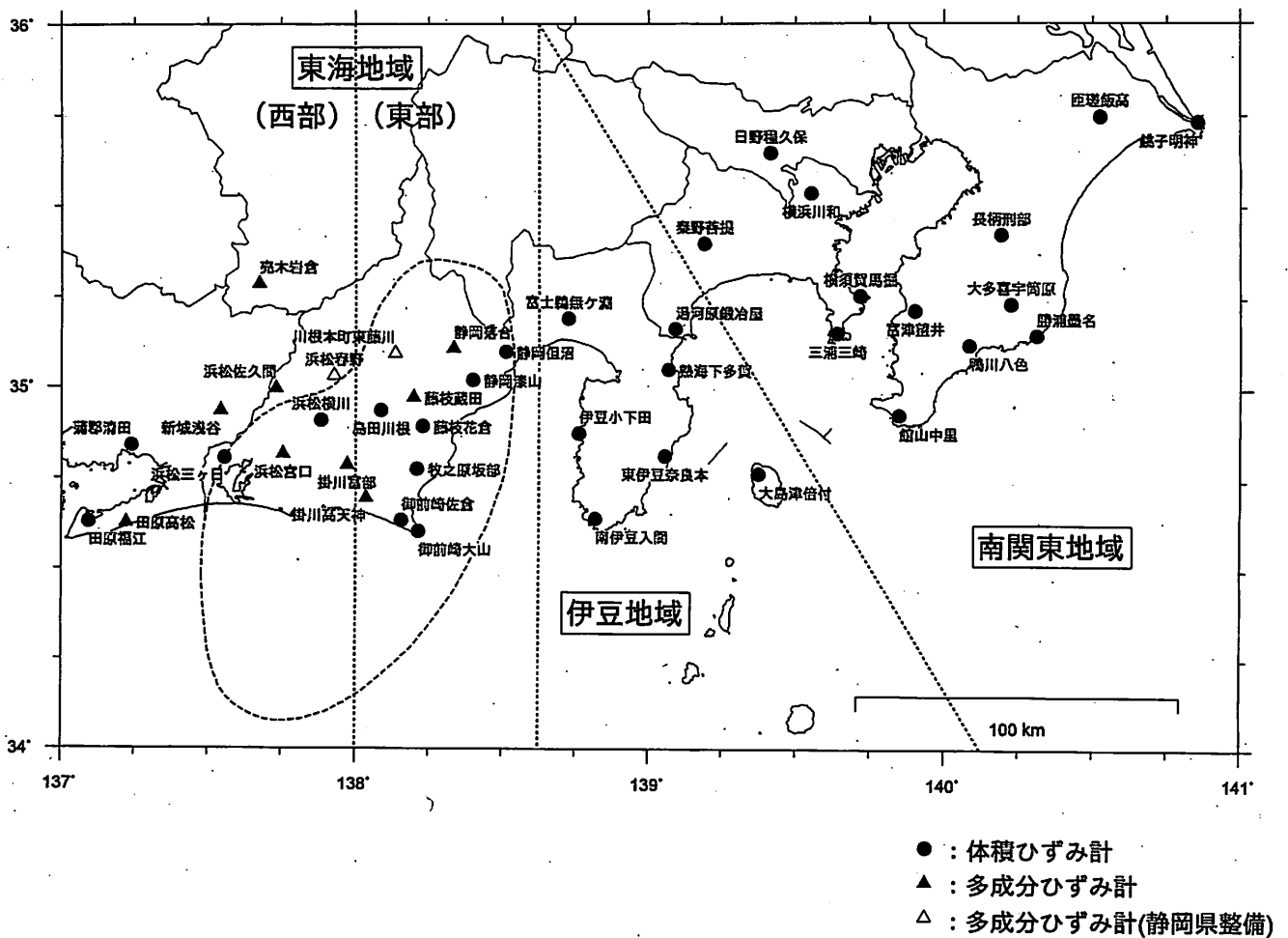
2002年10月以降(M≥0.5)で見ると、東海地域のプレート境界とその周辺の地震活動は、2007年中頃あたりからやや活発に見える。なお、2009年8月11日以降は、駿河湾の地震(M6.5)の余震活動の一部を抽出している。

ひずみ計による観測結果 (2014年6月1日～2014年12月18日)

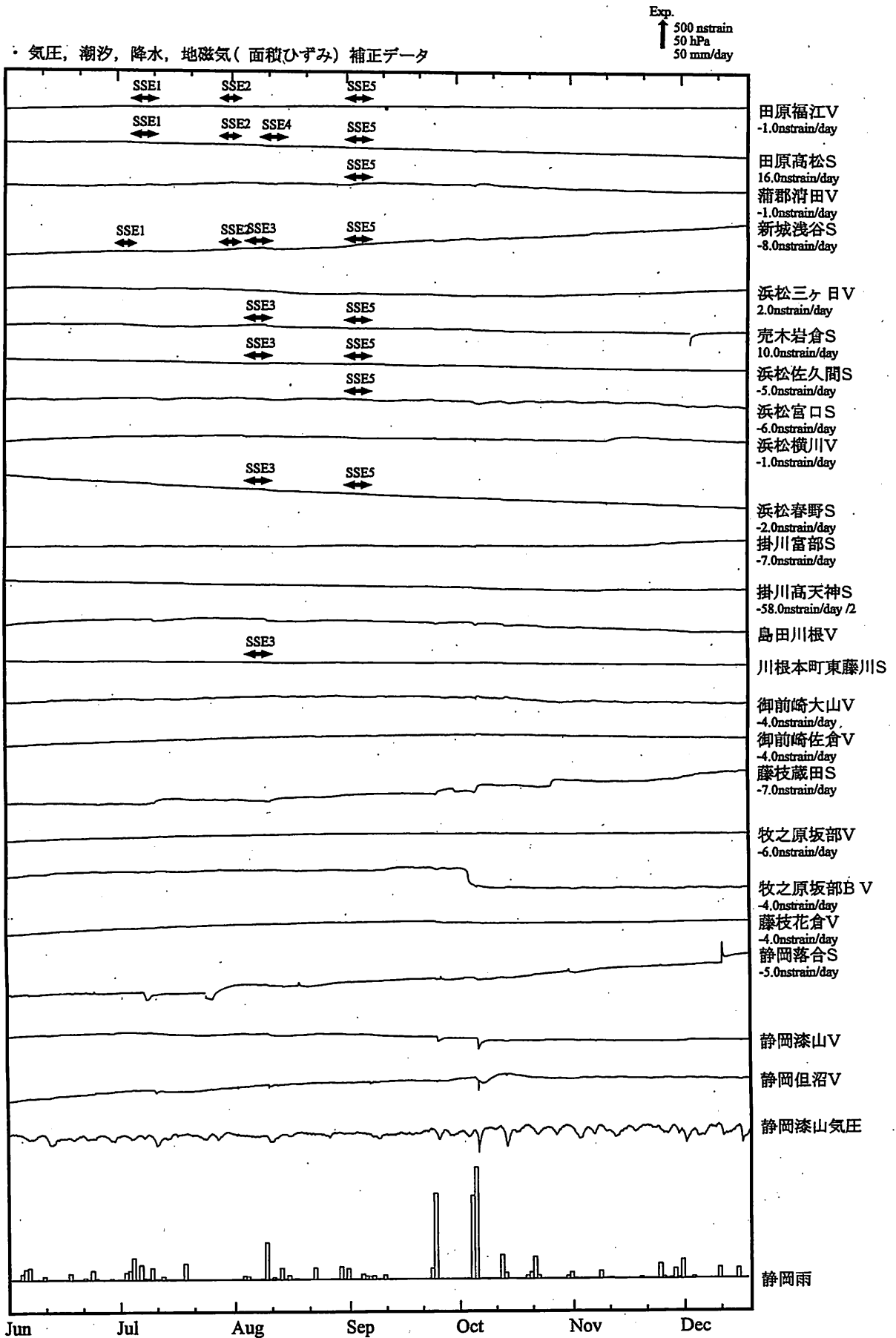
短期的ゆっくりすべりに起因すると見られる次の地殻変動がひずみ計で観測された。

- SSE1 : 2014年7月3日から10日にかけて観測された。(第339回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE2 : 2014年7月27日から8月1日にかけて観測された。(第340回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE3 : 2014年8月3日から7日にかけて観測された。(第340回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE4 : 2014年8月7日から9日にかけて観測された。(第340回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE5 : 2014年8月30日から9月5日にかけて観測された。(第341回地震防災対策強化地域判定会資料参照)

ひずみ計の配置図



東海地域 ひずみ変化 時間値

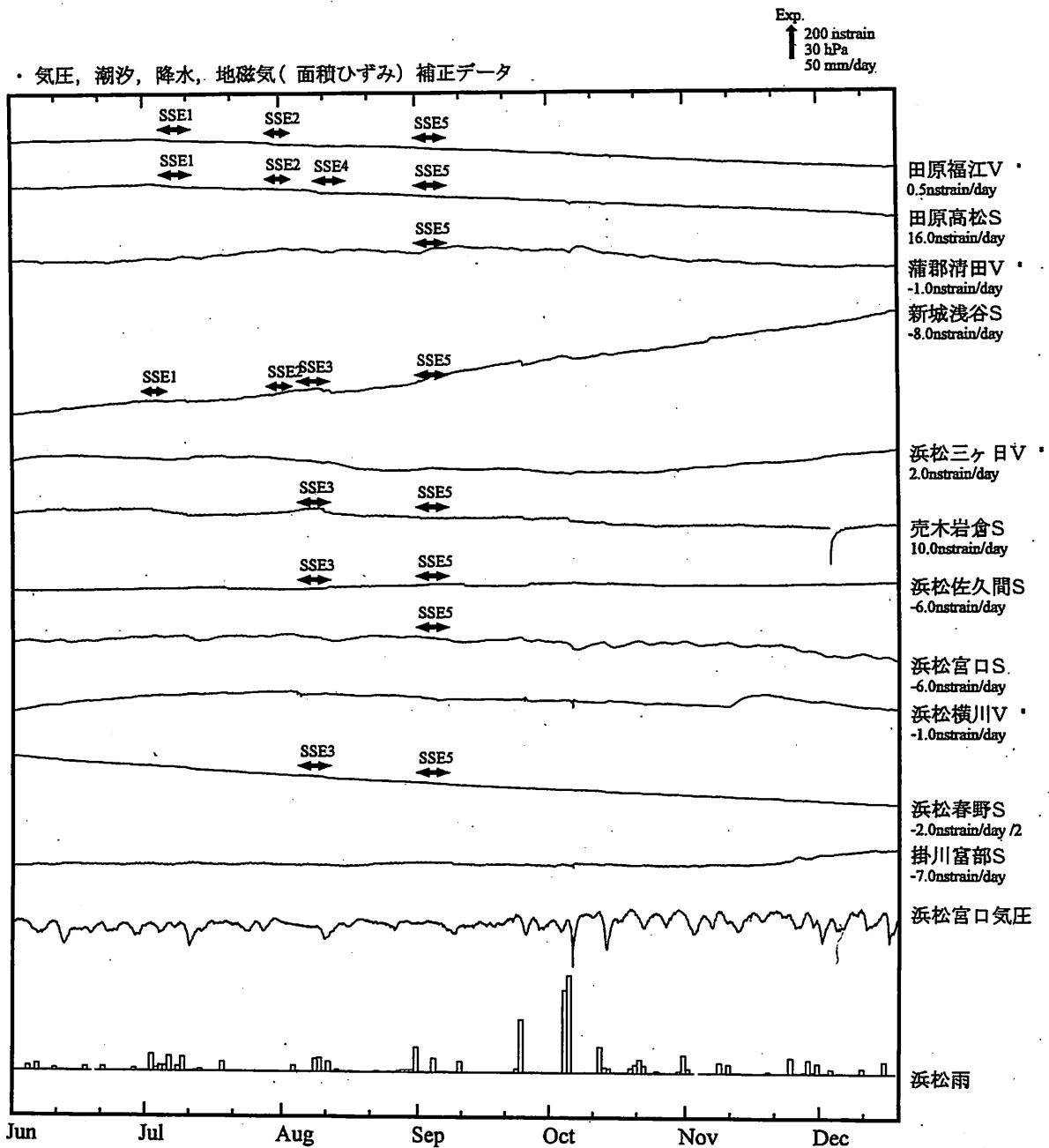


※ C: 地震に伴うステップ状の変化, L: 局所的な変化, S: 例年見られる変化, M: 調整, T: 障害

※ 田原高松、新城浅谷、壳木岩倉、掛川高天神、藤枝蔵田、静岡落合は、降水に伴う ひずみ変化を補正していない。

気象庁作成

東海地域(西部) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。
 ※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。
 ※田原高松、新城浅谷、売木岩倉は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。
 ※田原福江は、地下水の汲み上げに伴うひずみ変化を補正している。

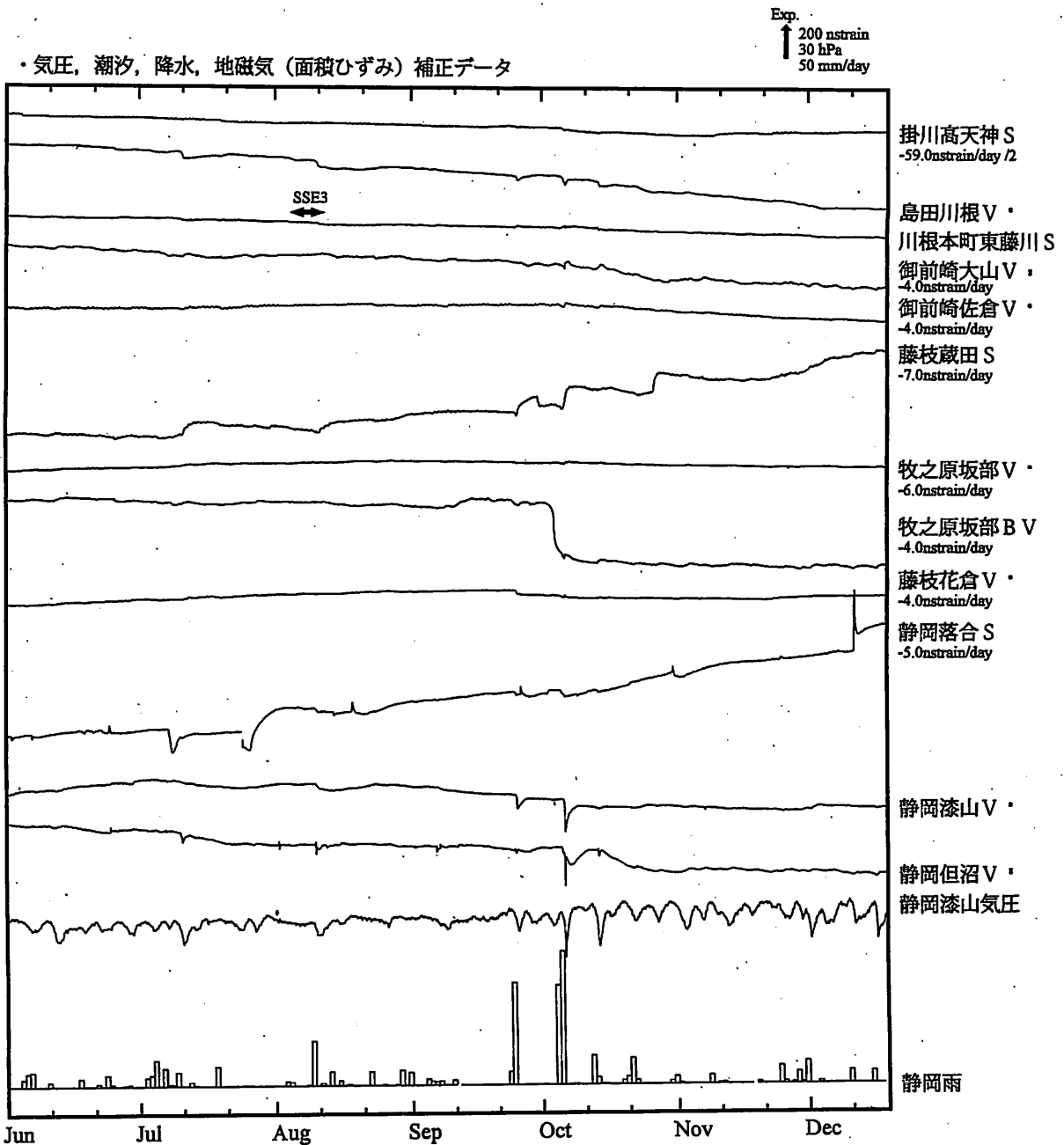
- SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.03-07.10
- SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.27-08.01
- SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
- SSE4 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.07-08.09
- SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

表示観測点の名称

田原福江	たはらふくえ
田原高松	たはらたかまつ
蒲郡清田	がまごおりせいだ
新城浅谷	しんしろあさや
浜松三ヶ日	はまつみつかび
売木岩倉	うるぎいわくら
浜松佐久間	はまつさくま
浜松宮口	はまつみやぐち
浜松横川	はまつよこかわ
浜松春野	はまつはるの
掛川富部	かけがわとんべ

東海地域（東部）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

※掛川高天神、藤枝葦田、静岡落合は、降水に伴うひずみ変化を補正していない。

SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07

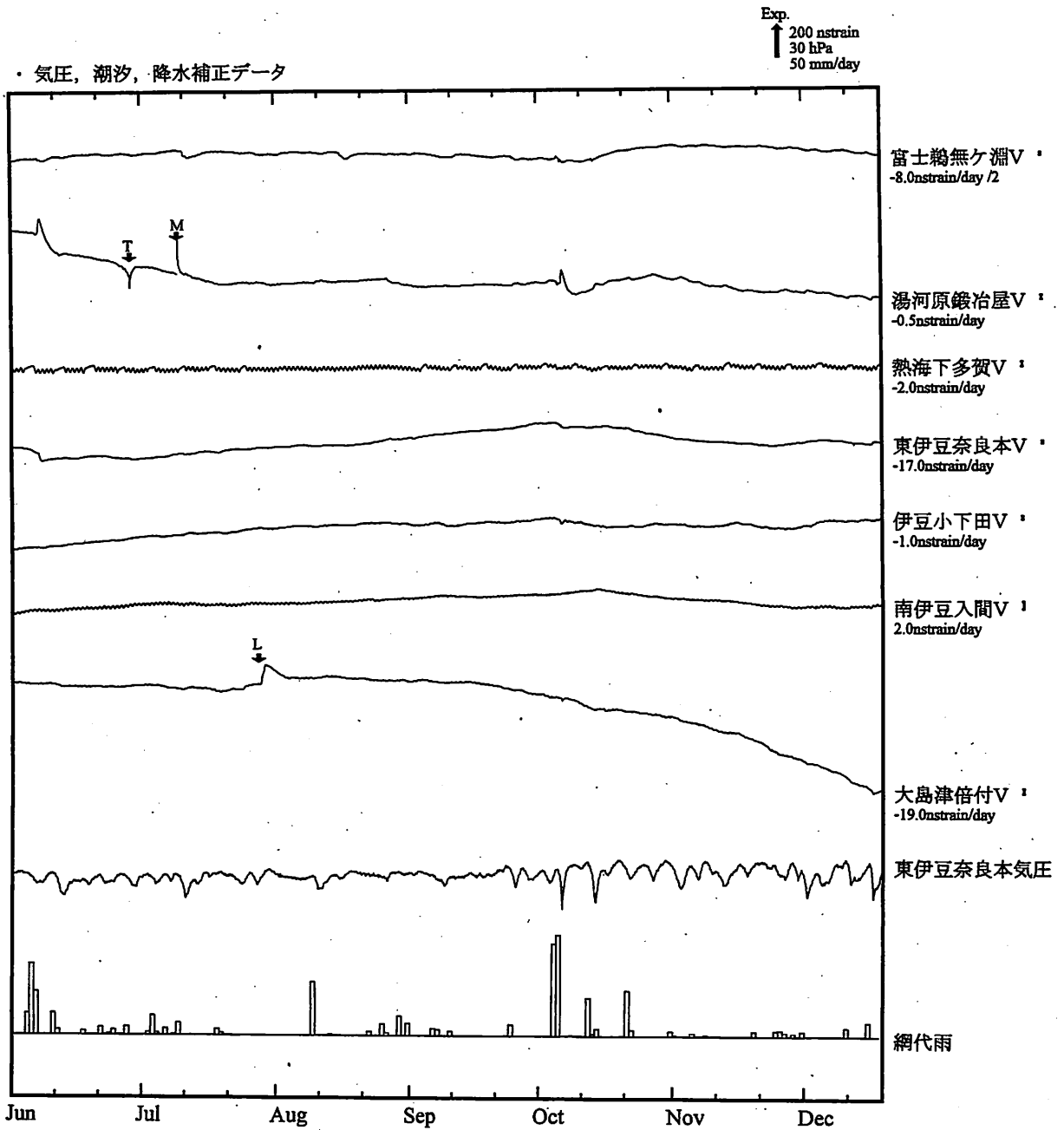
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

表示観測点の名称

掛川高天神	かけがわたかてんじん
島田川根	しまだかわね
川根本町東藤川	かわねほんちょう
	ひがしふじかわ
御前崎大山	おまえざきおおやま
御前崎佐倉	おまえざきさくら
藤枝葦田	ふじえだくらた
牧之原坂部	まきのはらさかべ
藤枝花倉	ふじえだはなくら
静岡落合	しずおかおちあい
静岡漆山	しずおかうるしやま
静岡但沼	しずおかただぬま

気象庁作成

伊豆地域 ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

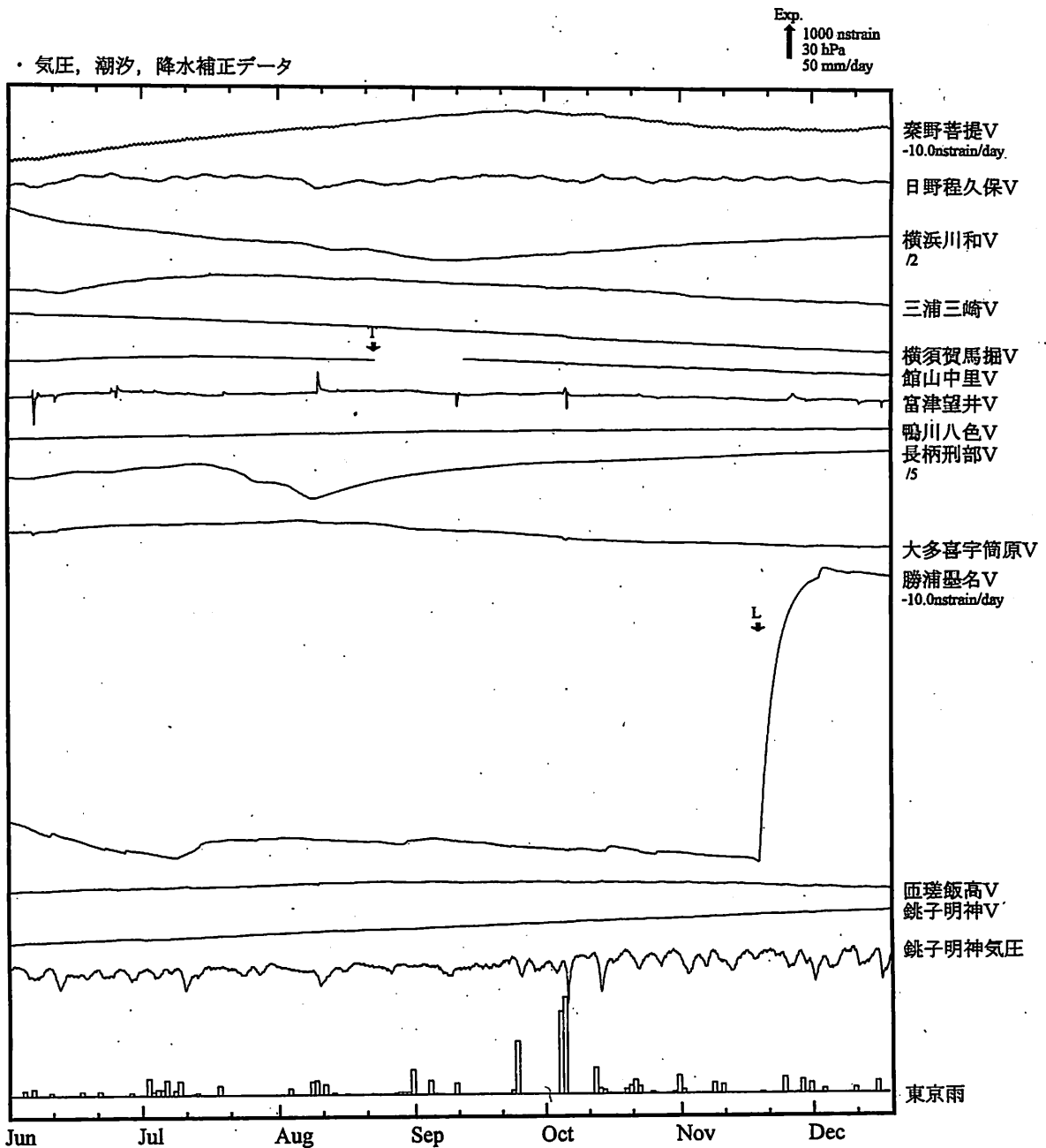
・ 特記事項なし。

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

表示観測点の名称

富士鶴無ケ淵	ふじうないがふち
湯河原鍛冶屋	ゆがわらかじや
熱海下多賀	あたみしもたが
東伊豆奈良本	ひがしいずならもと
伊豆小下田	いずこしもだ
南伊豆入間	みなみいずいるま
大島津倍付	おおしまつばいつき

南関東地域 ひずみ変化 時間値



・ 特記事項なし。

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

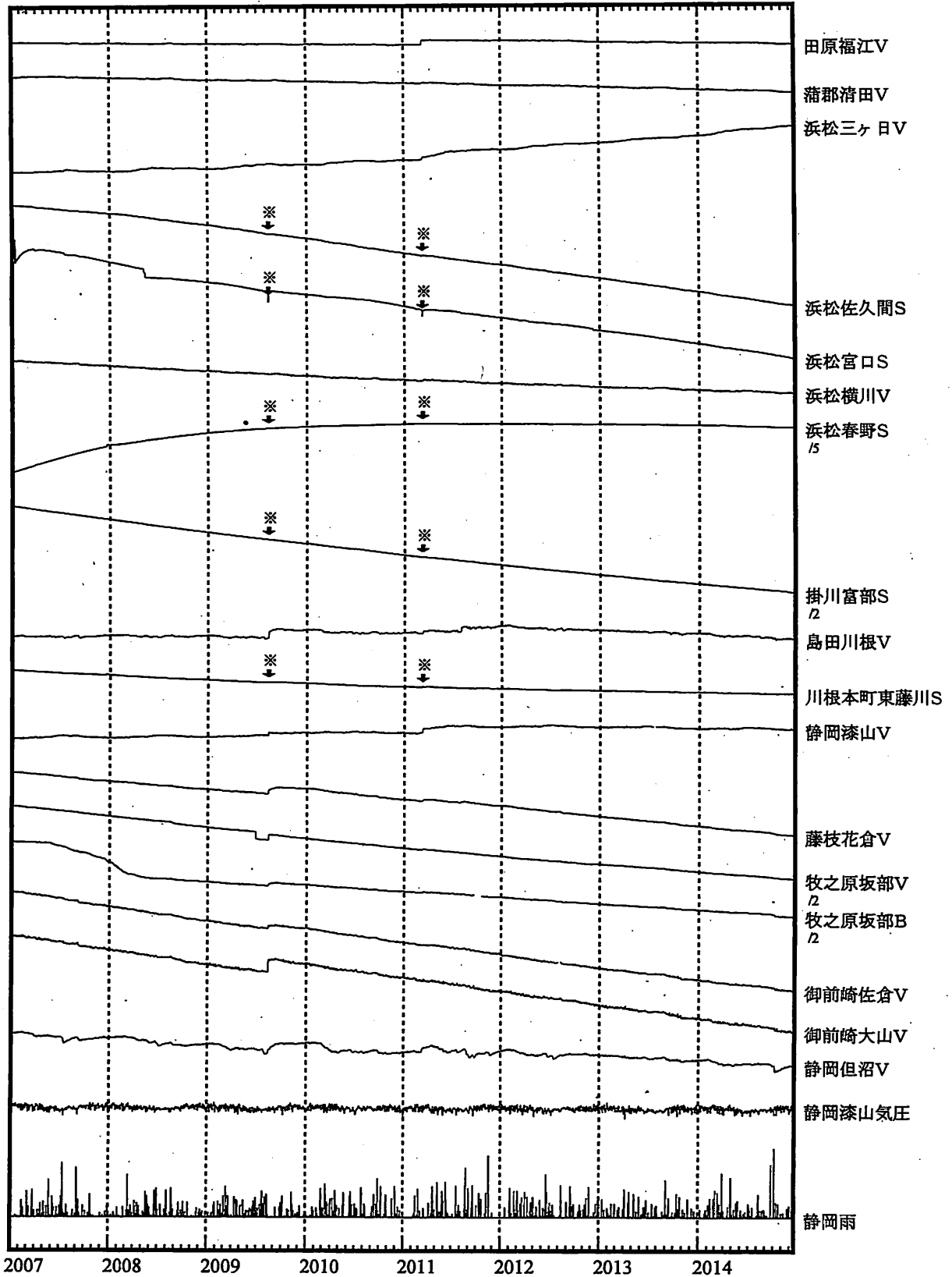
表示観測点の名称

桑野菩提	はだのぼだい
日野程久保	ひのほどくぼ
横浜川和	よこはまかわ
三浦三崎	みうらみさき
横須賀馬堀	よこすかまぼり
館山中里	たてやまなかざと
富津望井	ふつつもちい
鴨川八色	かもがわやいろ
長柄刑部	ながらおさかべ
大多喜宇筒原	おおたきうとうばら
勝浦墨名	かつうらとな
匝瑳飯高	そうさいいだか
銚子明神	ちようしみようじん

気象庁作成

東海地域 ひずみ変化 日平均値

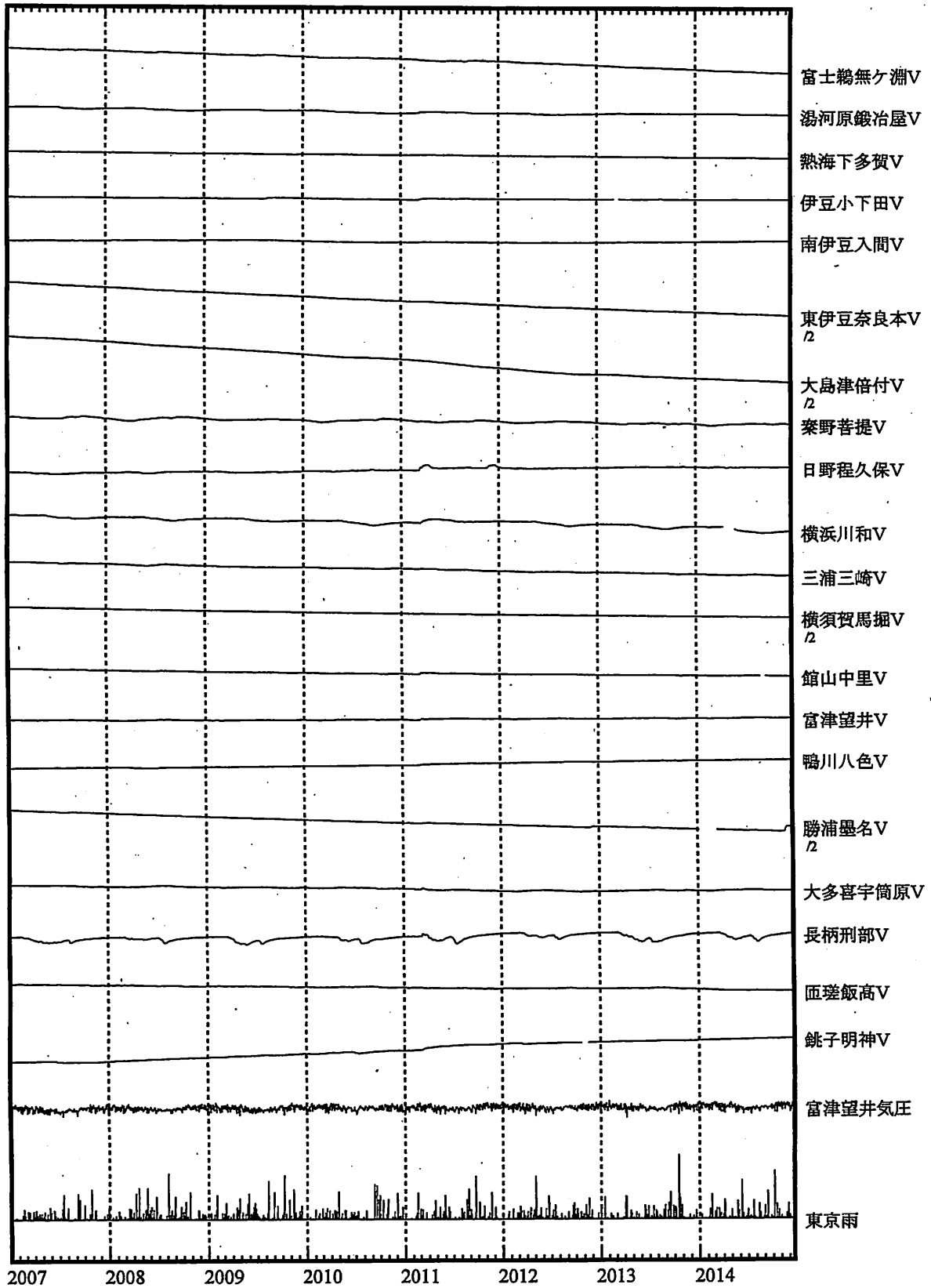
↑ 5000 nstrain
100 hPa
100 mm



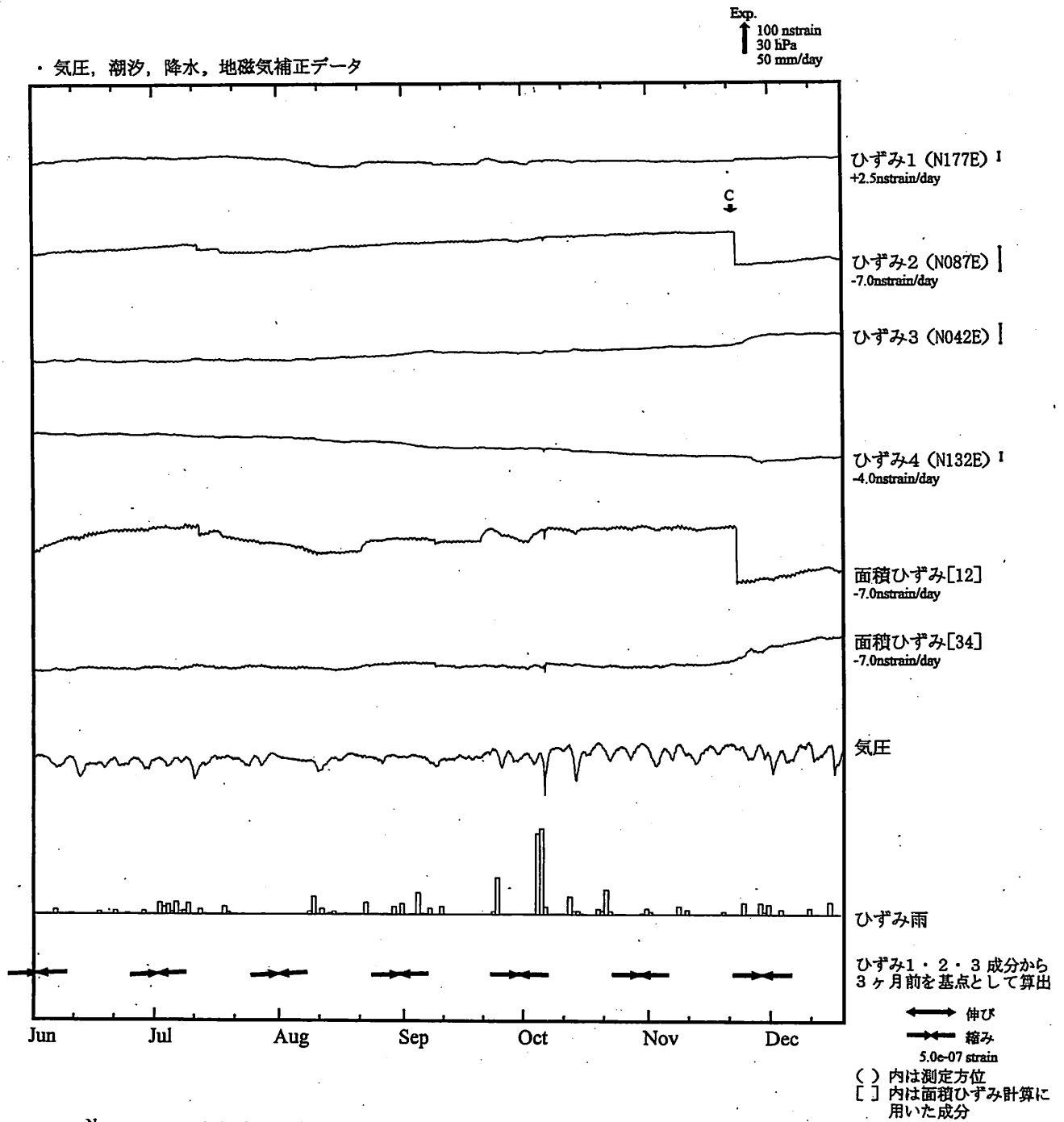
※面積ひずみは、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

伊豆・南関東地域 ひずみ変化 日平均値

↑ 30000 nstrain
100 hPa
100 mm

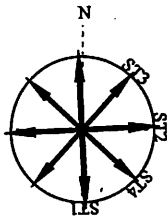


掛川富部(かけがわとんべ) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

・ 特記事項なし。

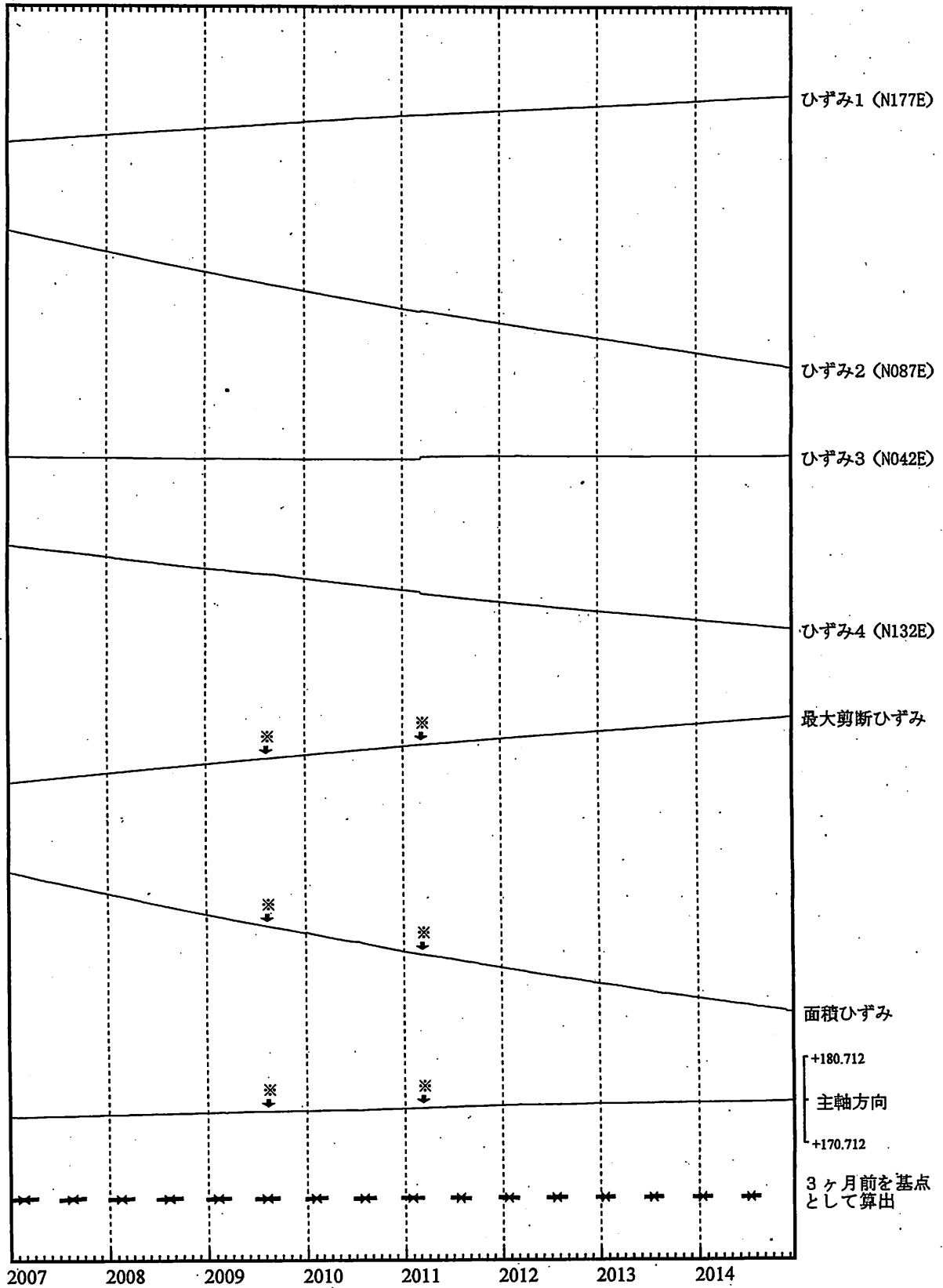


- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

掛川富部ひずみ変化 日値

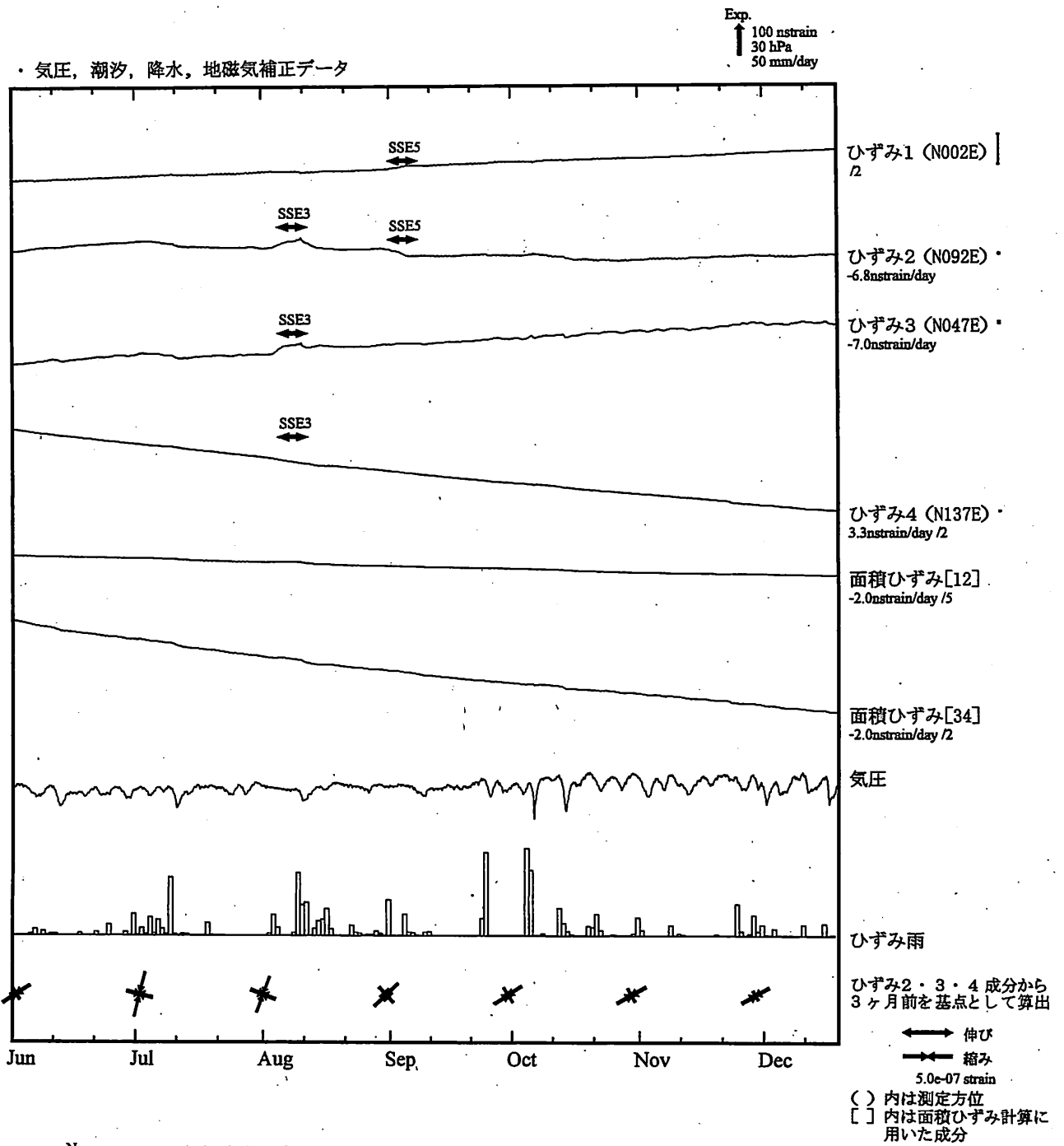
・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の各方向成分から1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

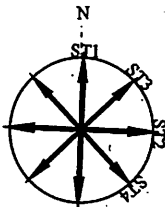


*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応
 ※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

浜松春野(はままつはるの) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



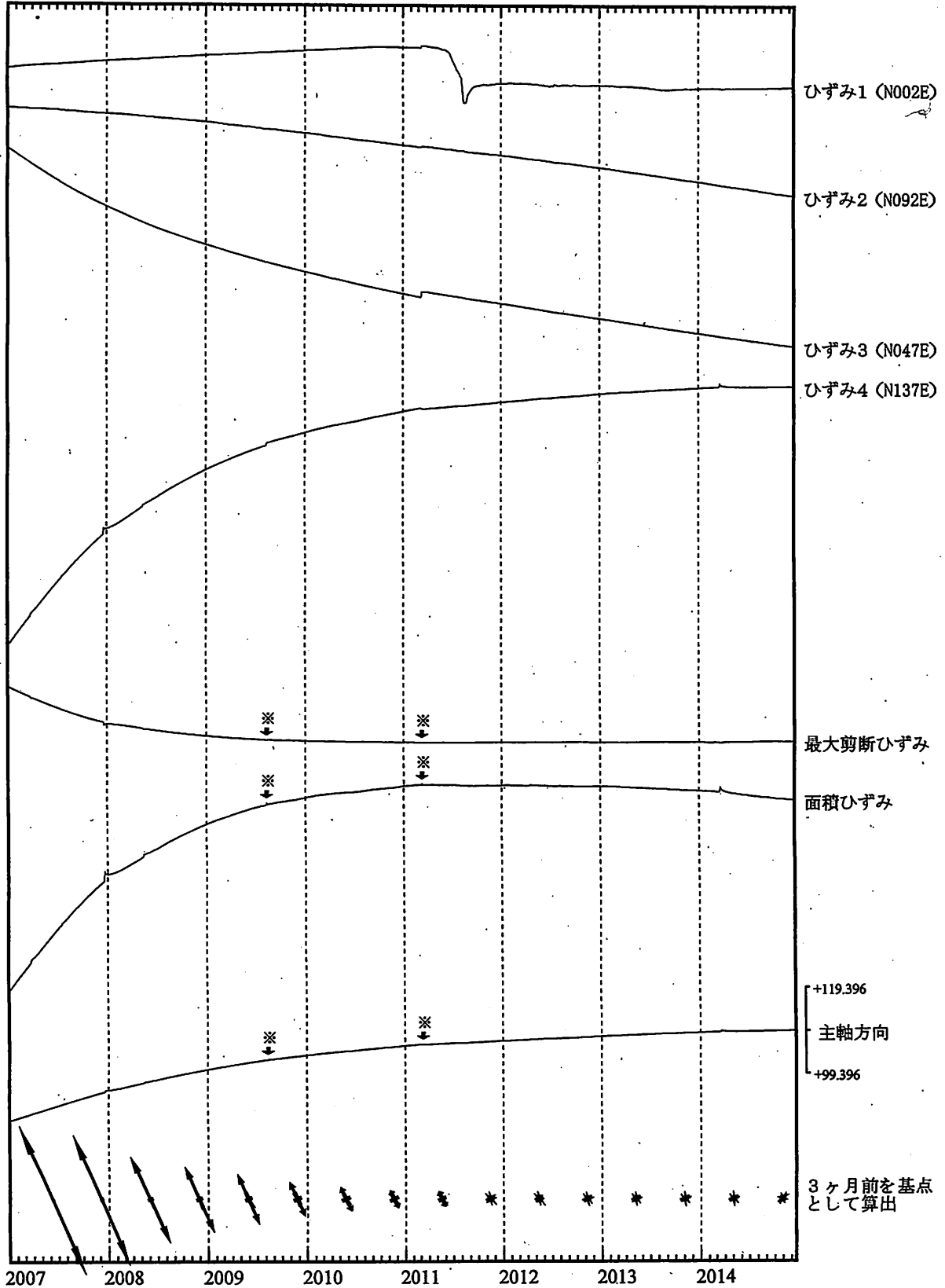
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

浜松春野ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ2、3、4の
各方向成分から2003年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

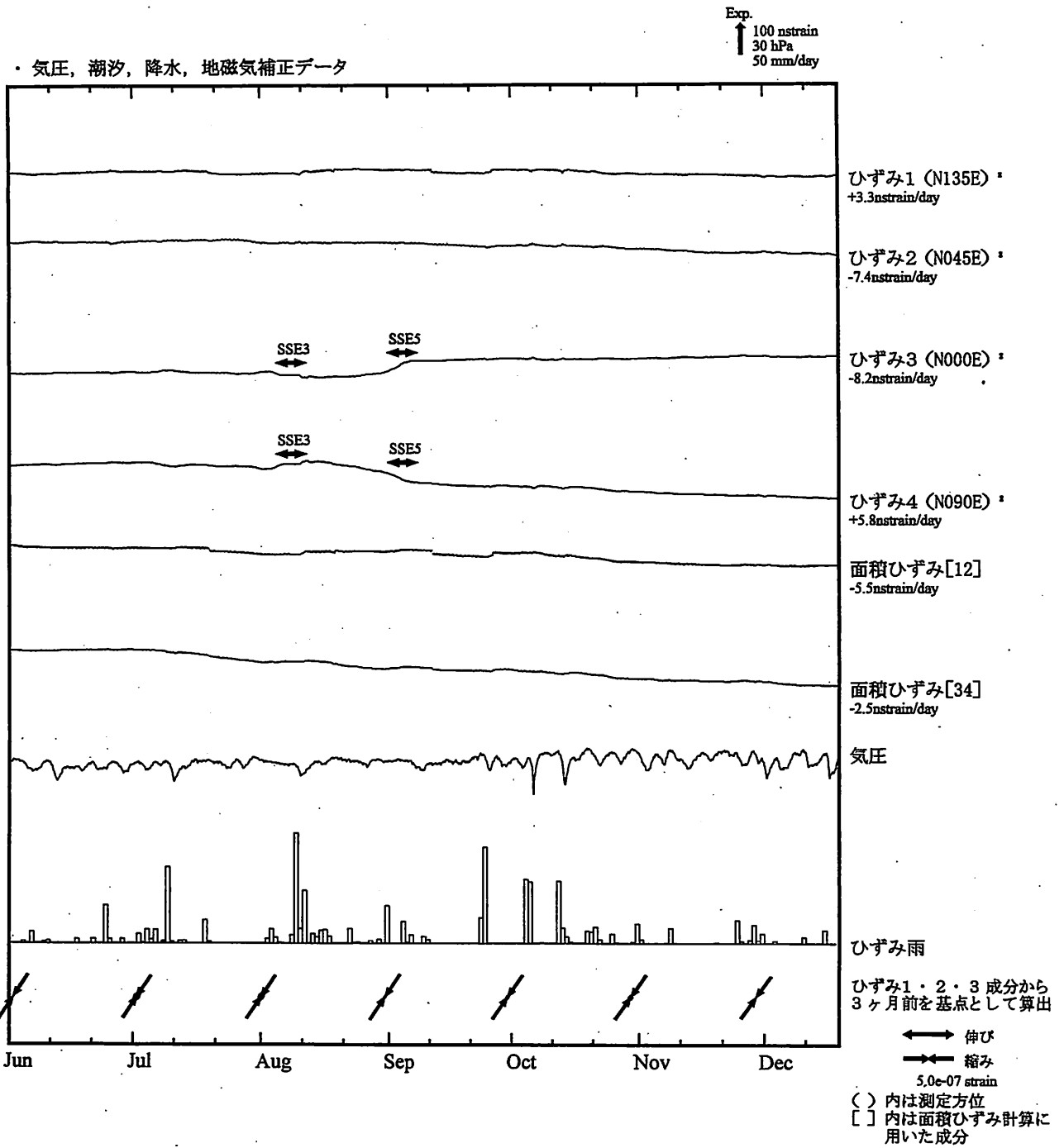


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

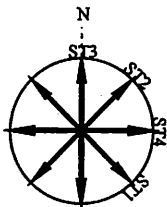
↔ 伸び
↔ 縮み
2.0e-06 strain

気象庁作成

浜松佐久間(はまつさくま) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



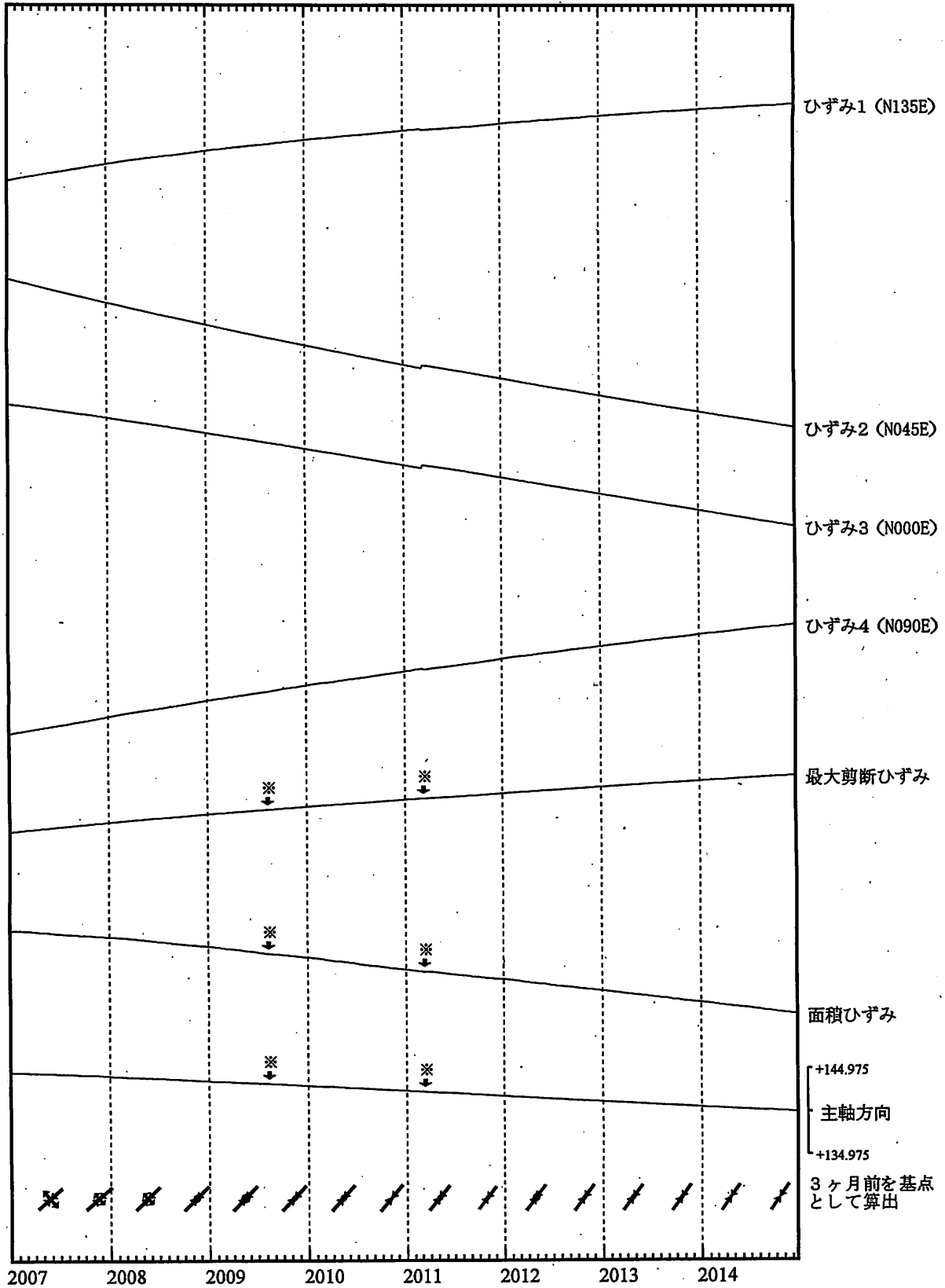
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

浜松佐久間ひずみ変化 日値

最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

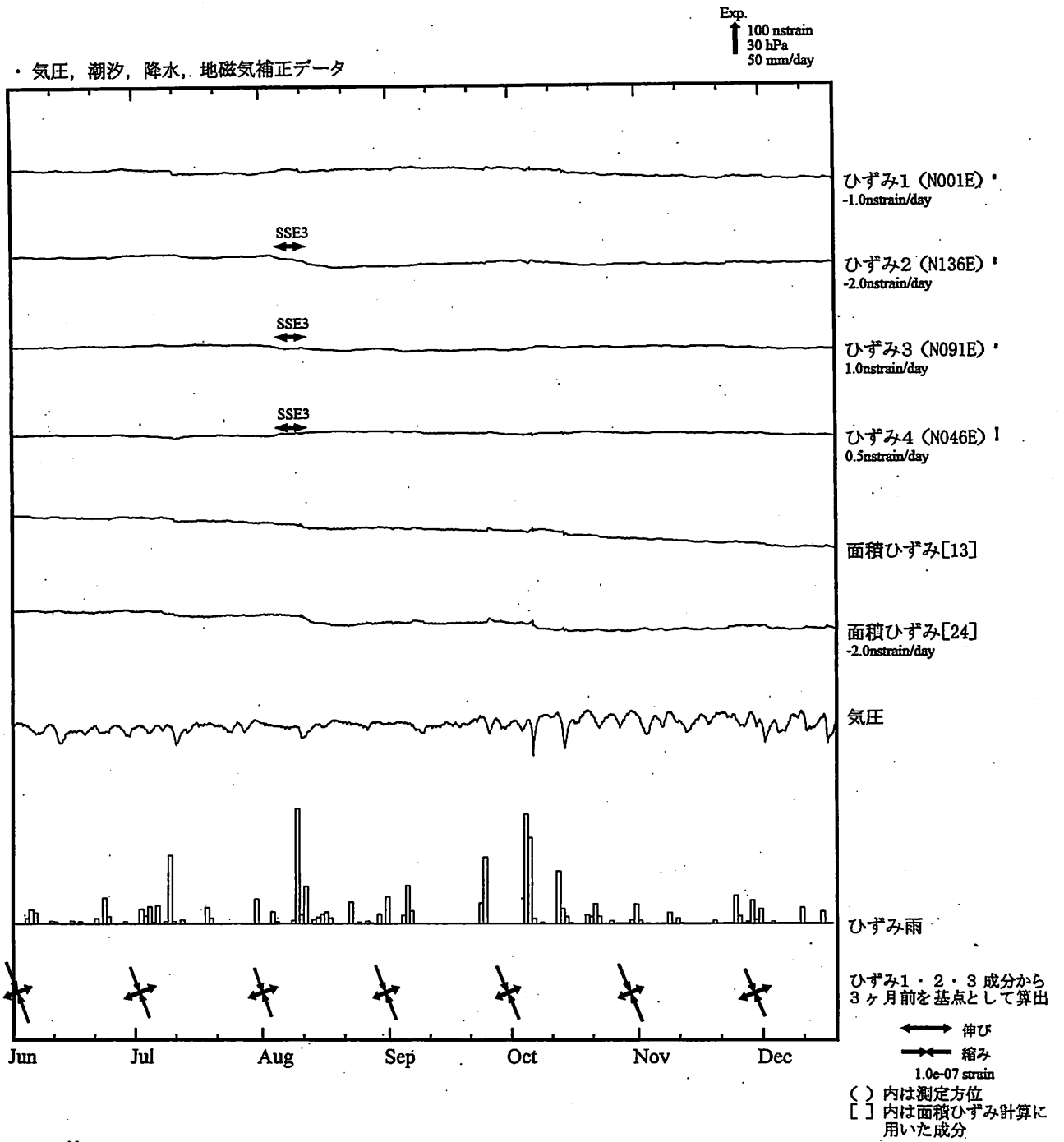
Exp.
↑ 5000 nstrain



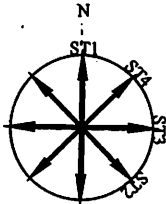
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

↔ 伸び
← 縮み
1.0e-06 strain

川根本町東藤川(かわねほんちょう ひがしふじかわ) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



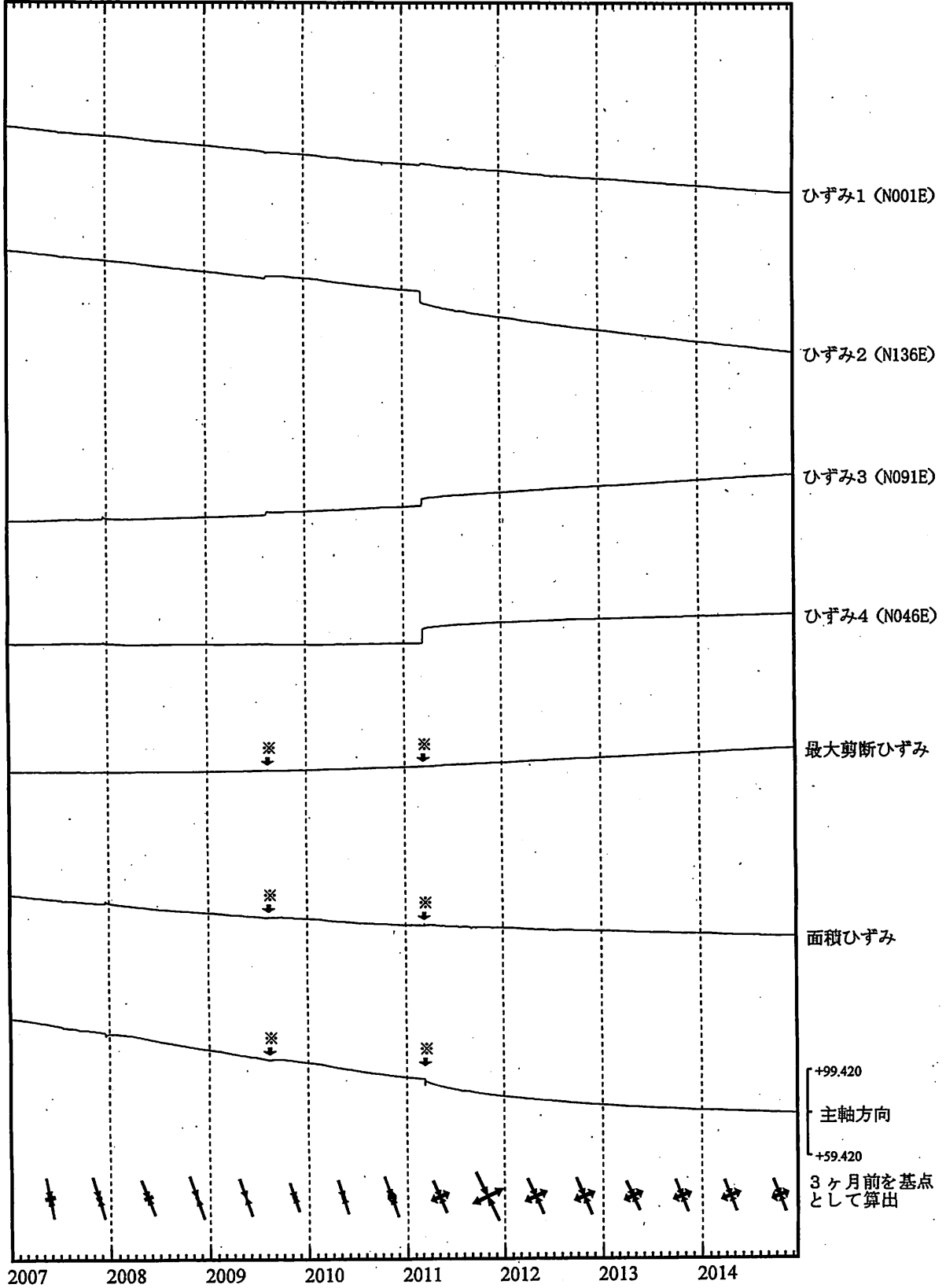
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

川根本町東藤川ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみおよび面積ひずみはひずみ1、2、3の各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

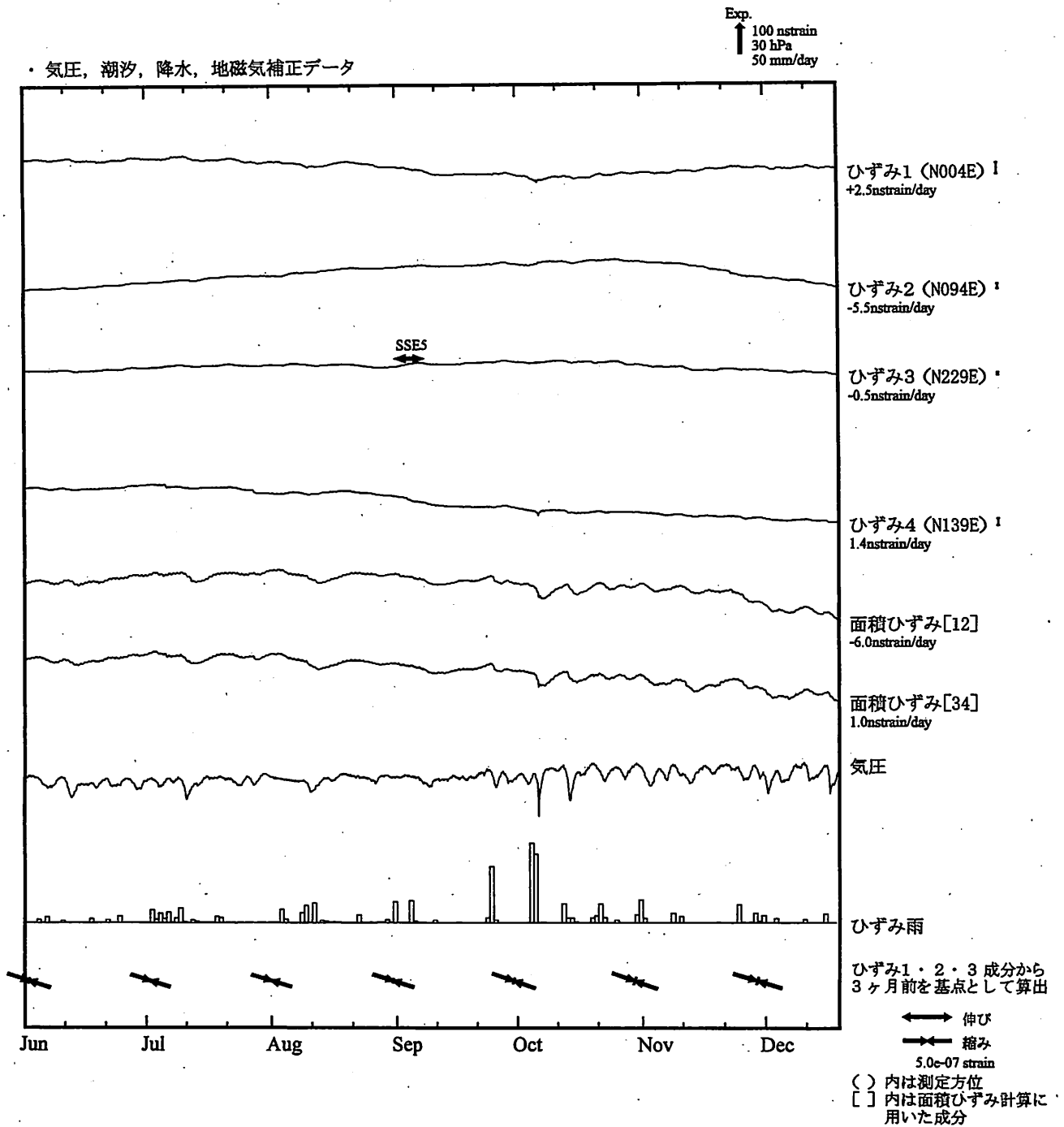
Exp.
↑ 2000 nstrain



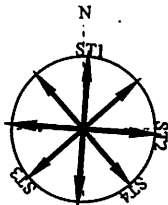
*最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖(紀伊半島南東沖)の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

気象庁作成

浜松宮口(はまつみやぐち) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



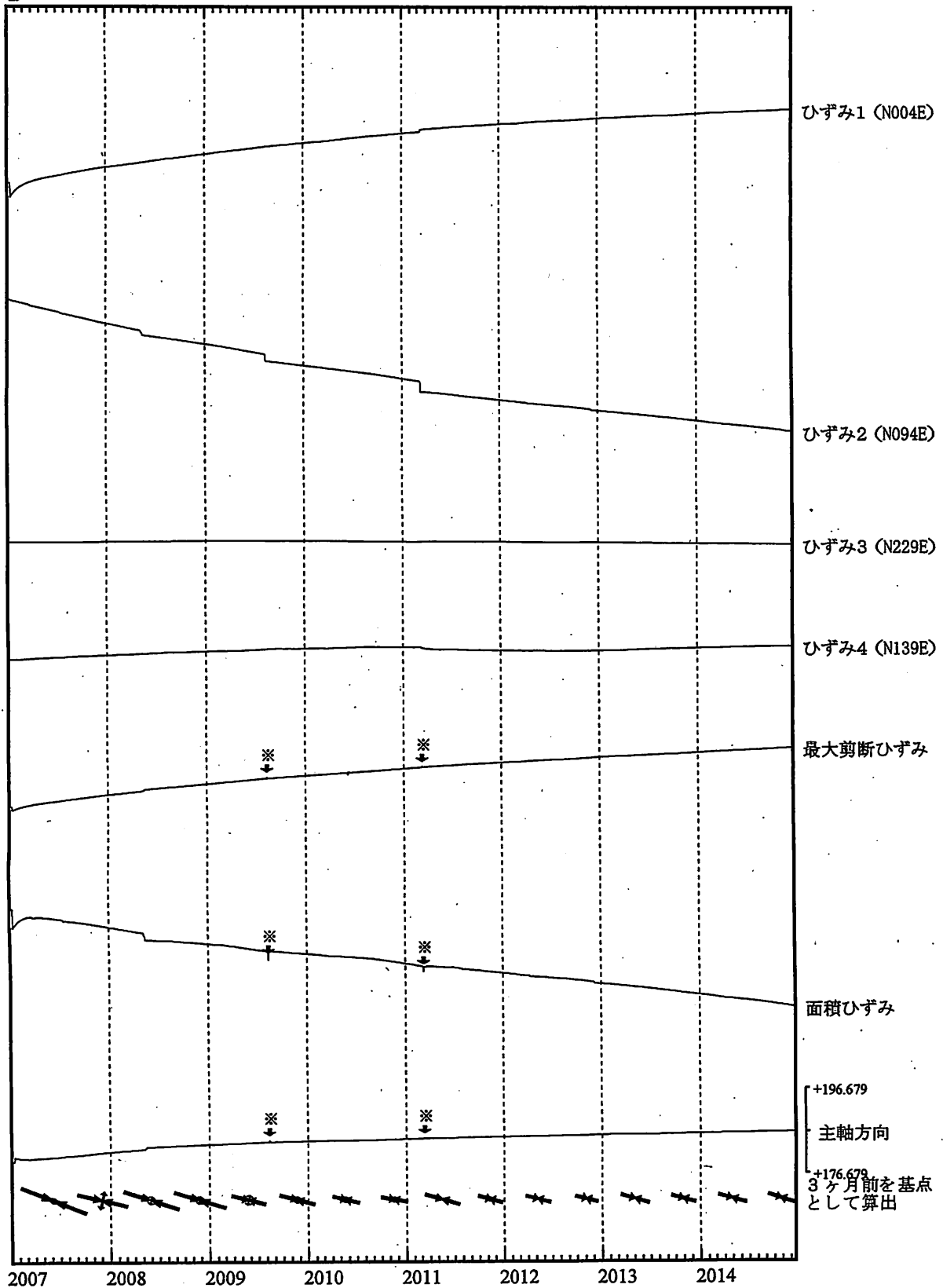
SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

浜松宮口ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の各方向成分から2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain

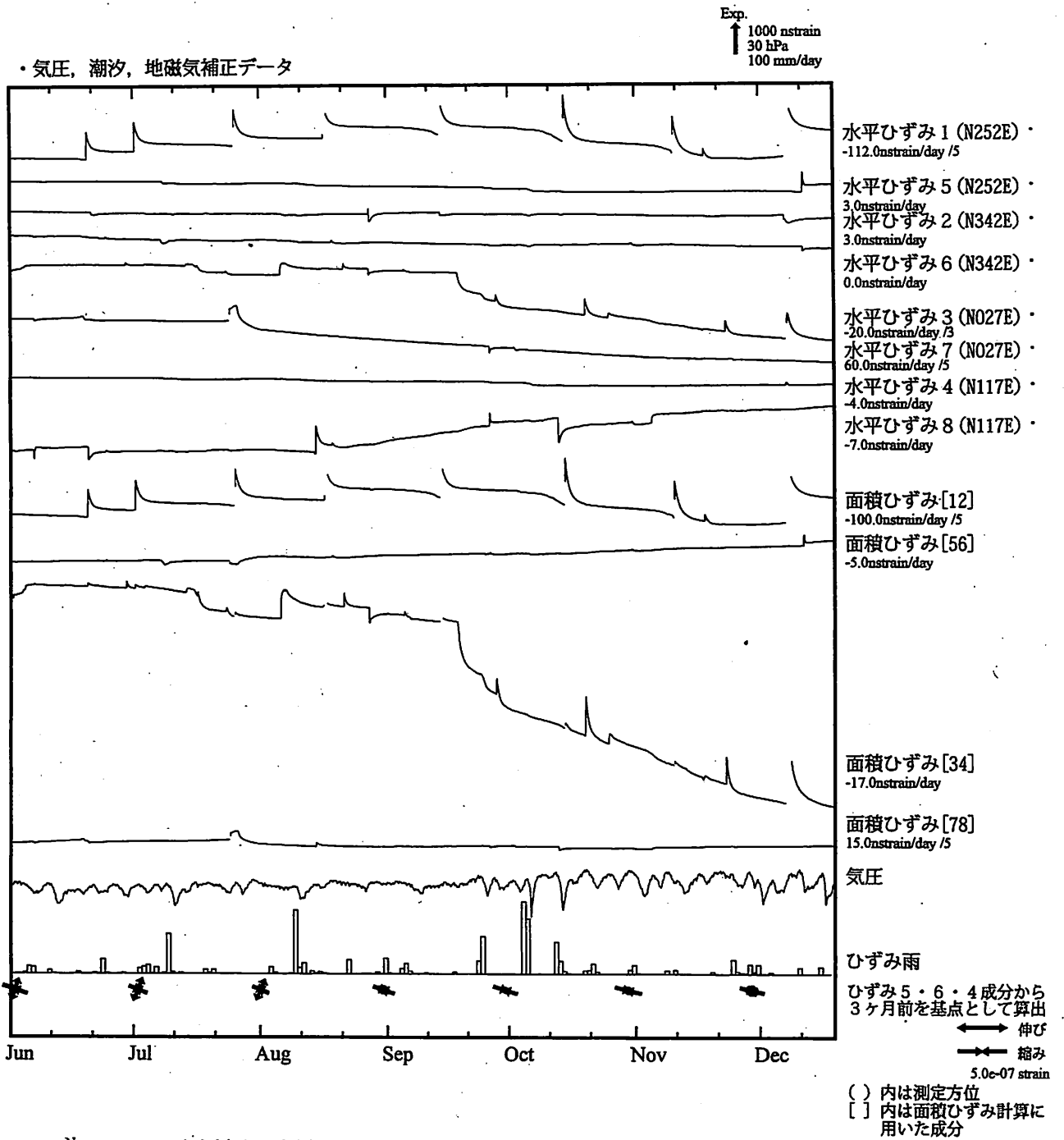


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

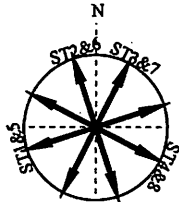
←→ 伸び
←→ 縮み
1.0e-06 strain

気象庁作成

静岡落合（しずおかおちあい）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



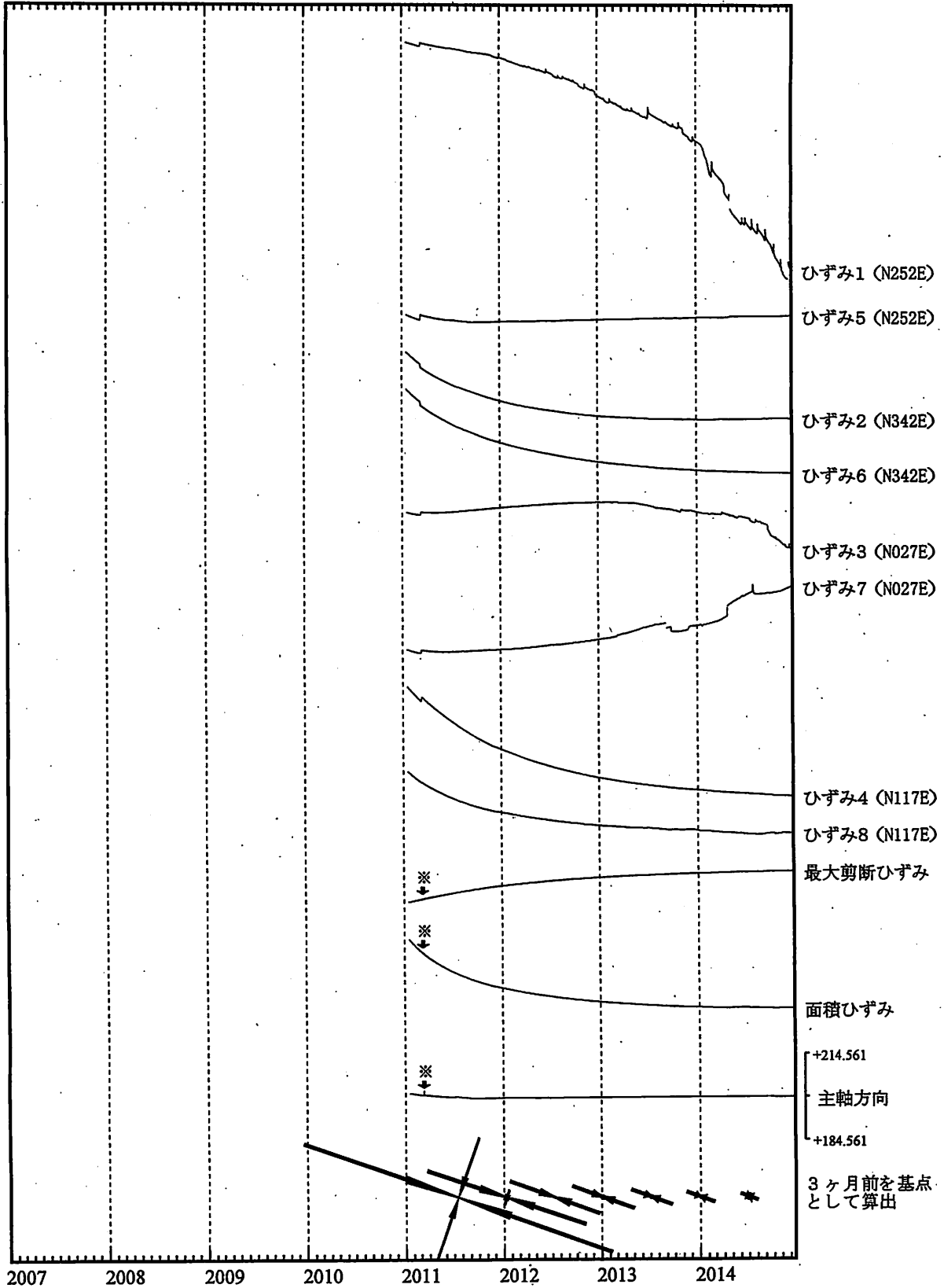
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

静岡落合ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、4の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

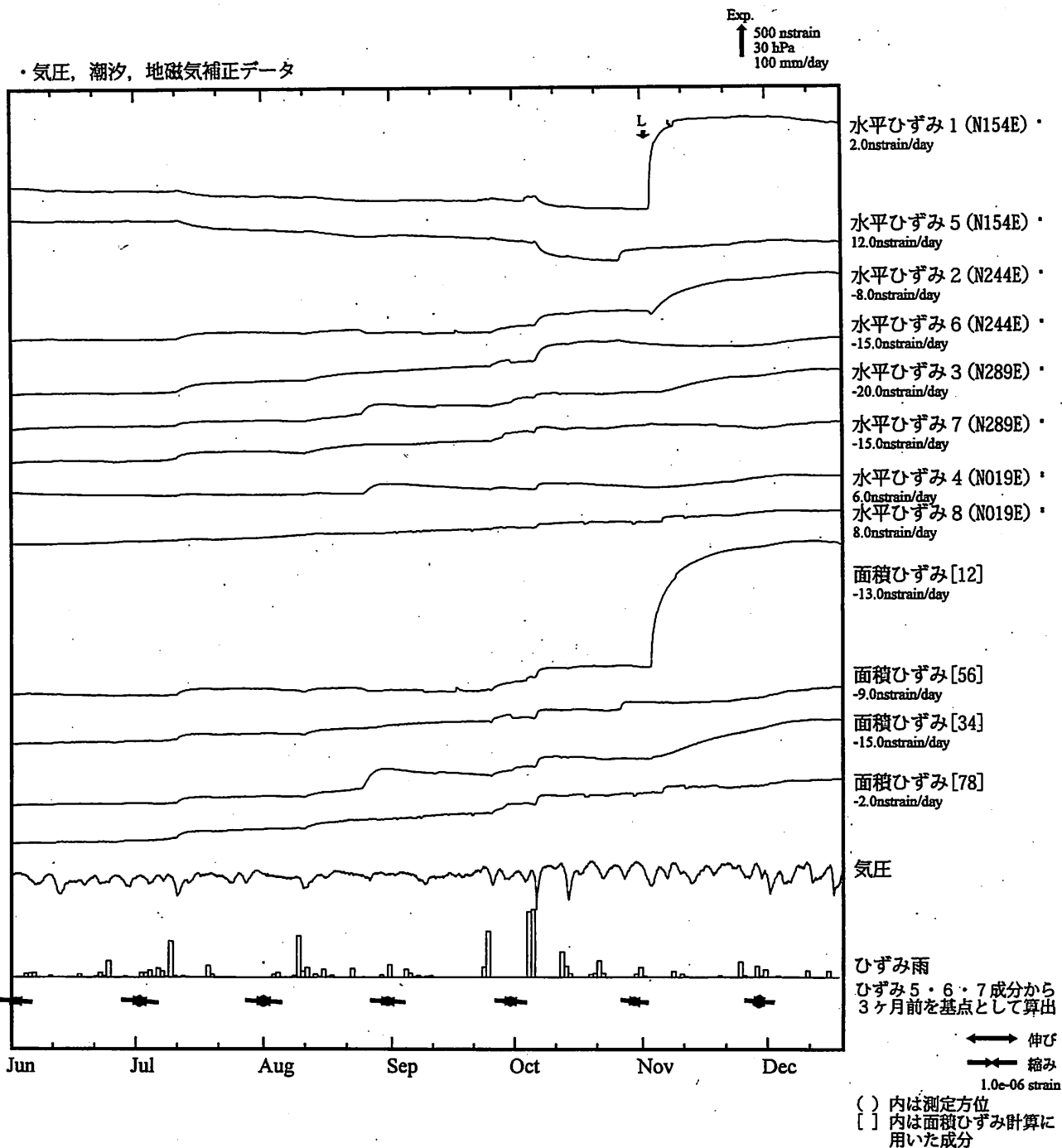
Exp.
↑ 10000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

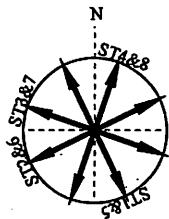
←→ 伸び
→← 縮み
1.0e-06 strain

藤枝蔵田 (ふじえだくらた) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。

・特記事項なし。

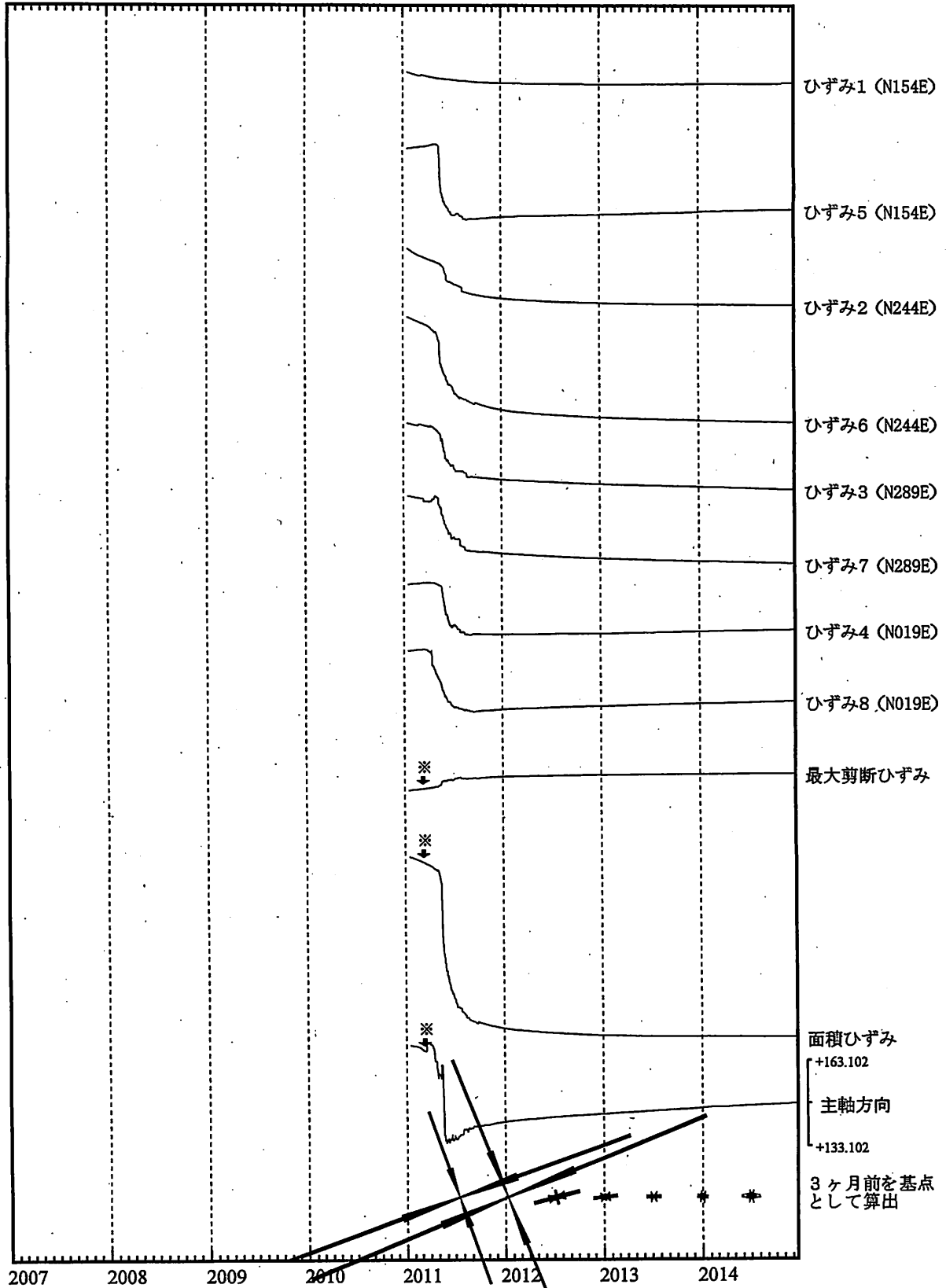


- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

藤枝蔵田ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

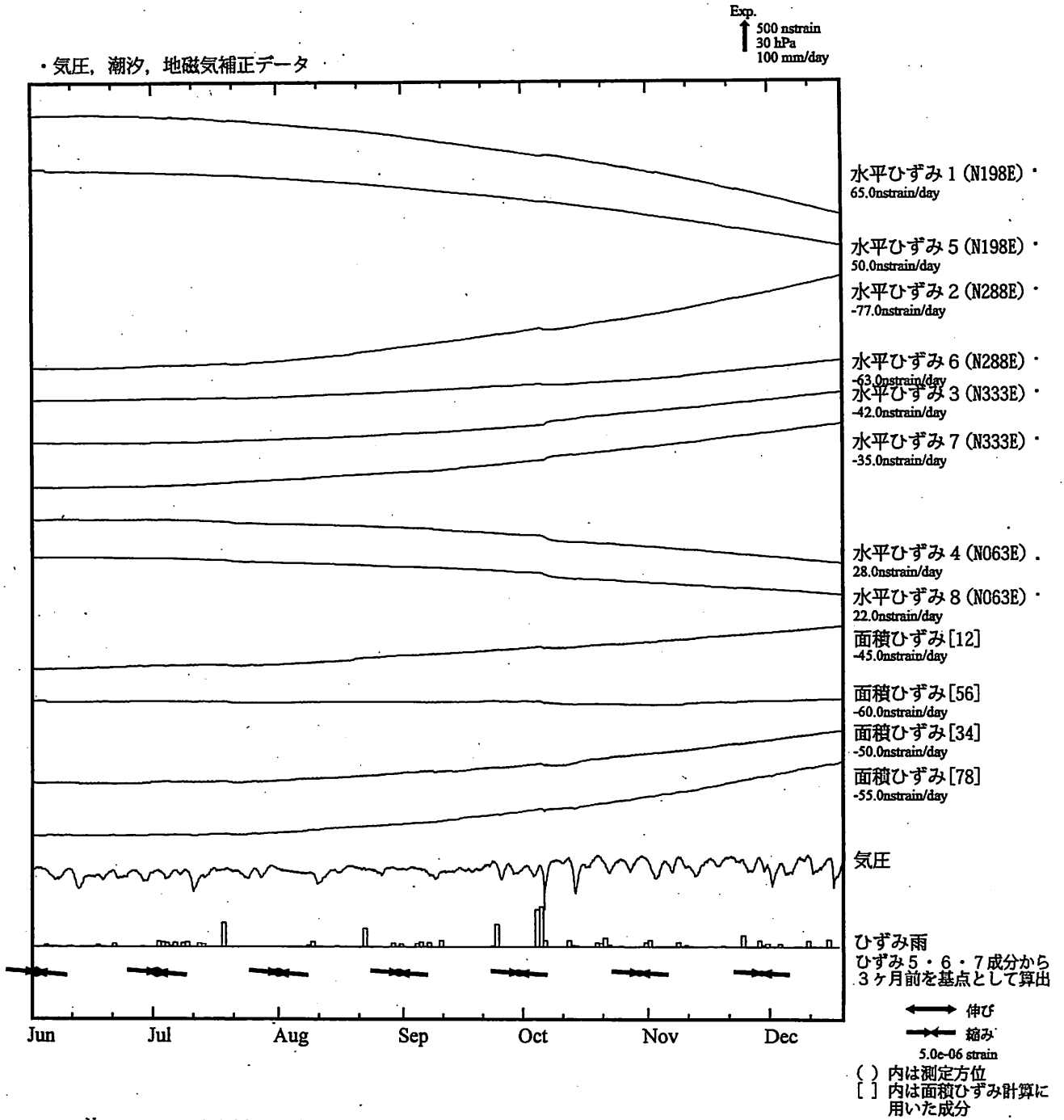
Exp.
↑ 50000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
5.0e-06 strain

掛川高天神 (かけがわたかてんじん) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



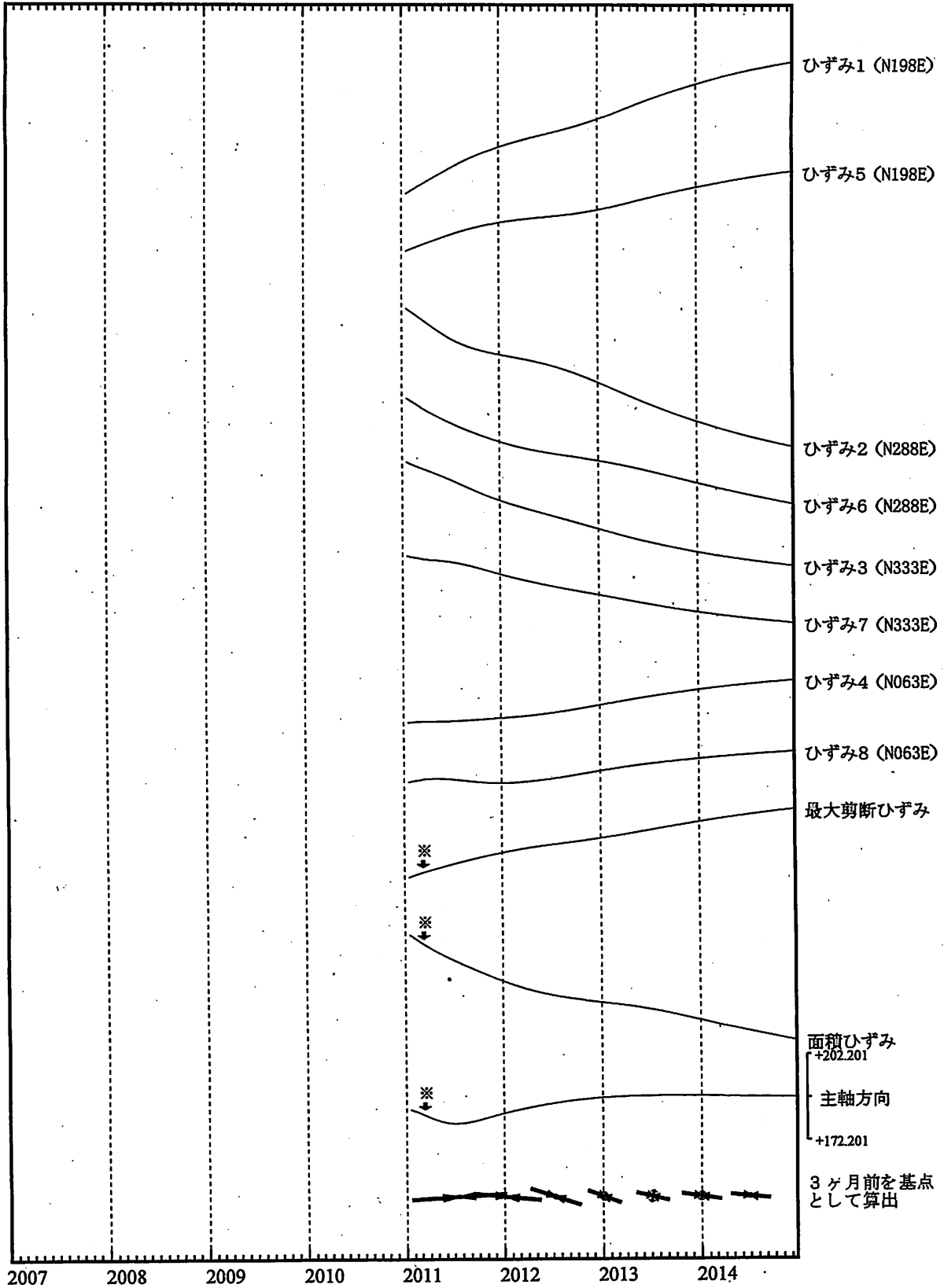
・特記事項なし。

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

掛川高天神ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

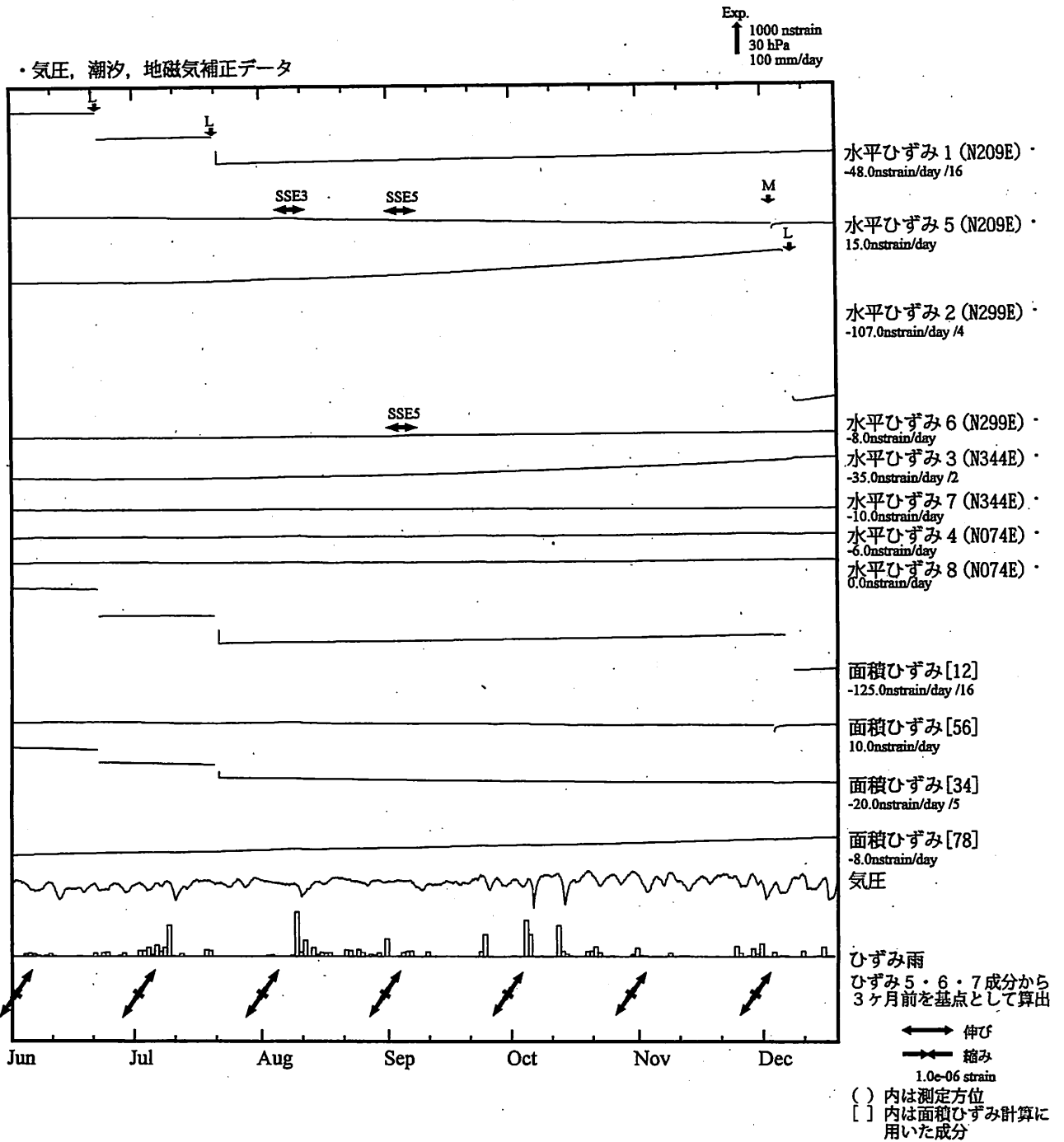
Exp.
↑ 30000 nstrain



※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

←→ 伸び
←→ 縮み
1.0e-05 strain

売木岩倉 (うるぎいわくら) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



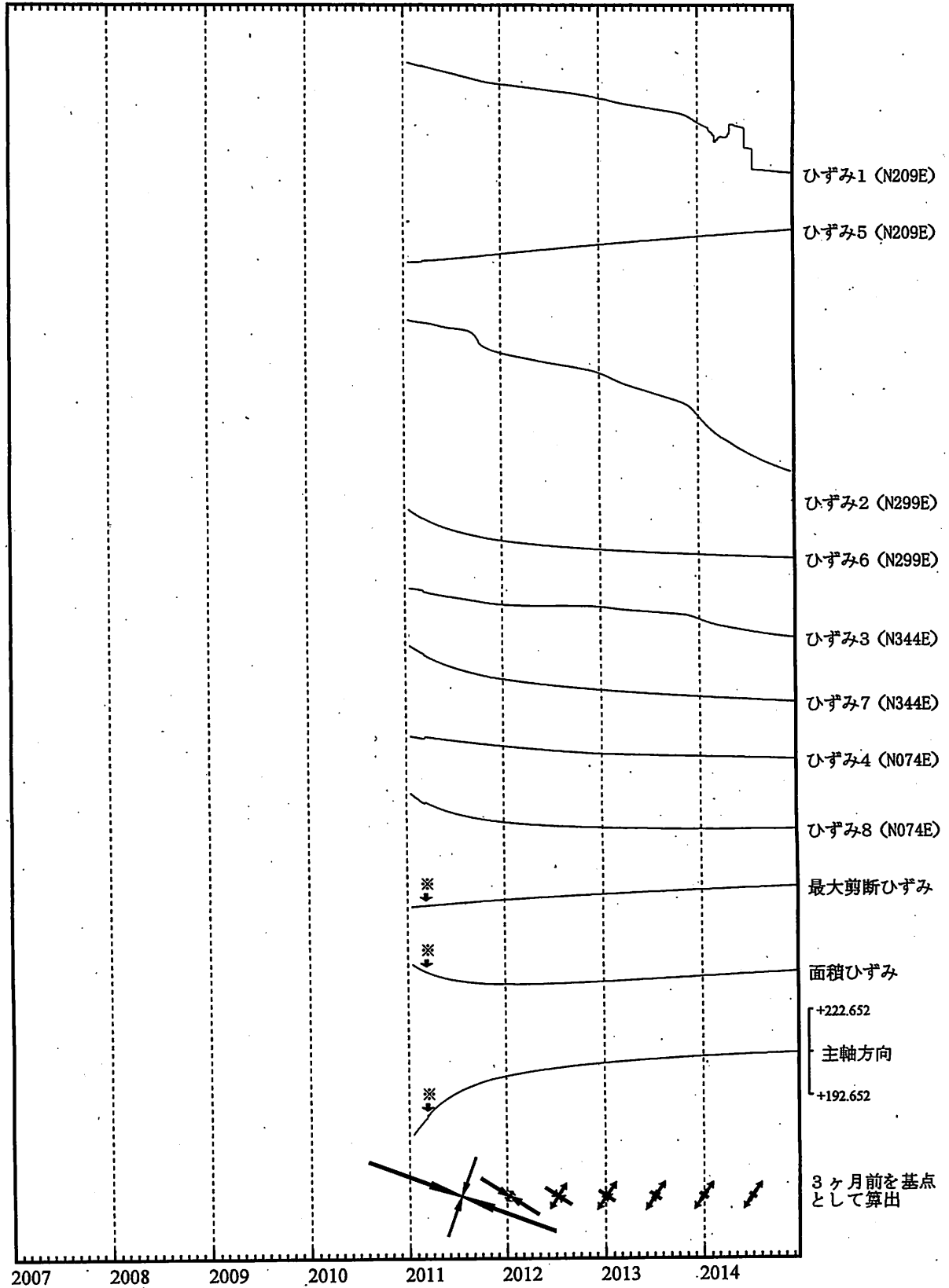
SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

売木岩倉ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

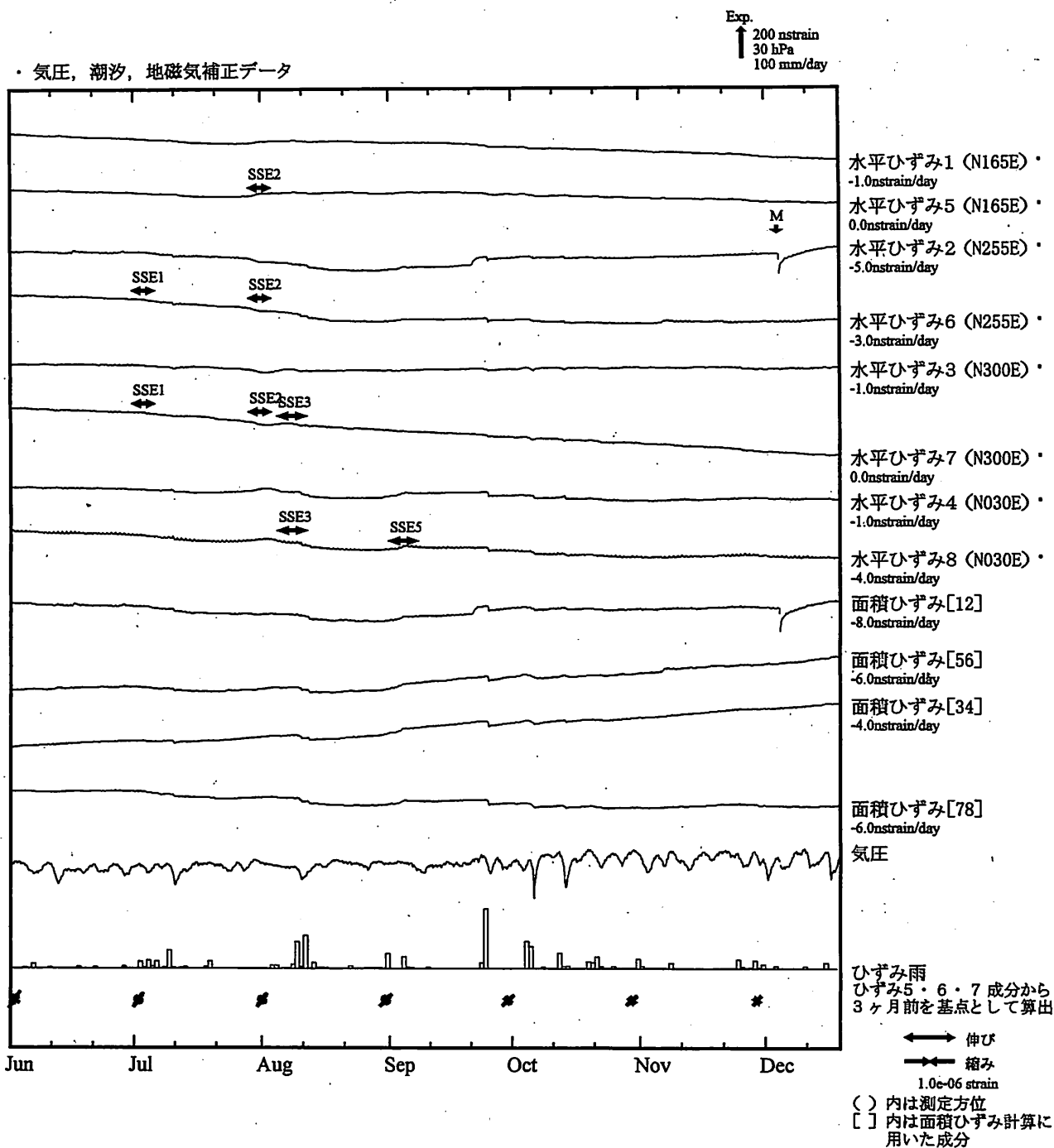
Exp.
↑ 20000 nstrain



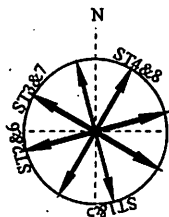
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

←→ 伸び
←→ 縮み
2.0e-06 strain

新城浅谷(しんしろあさや) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



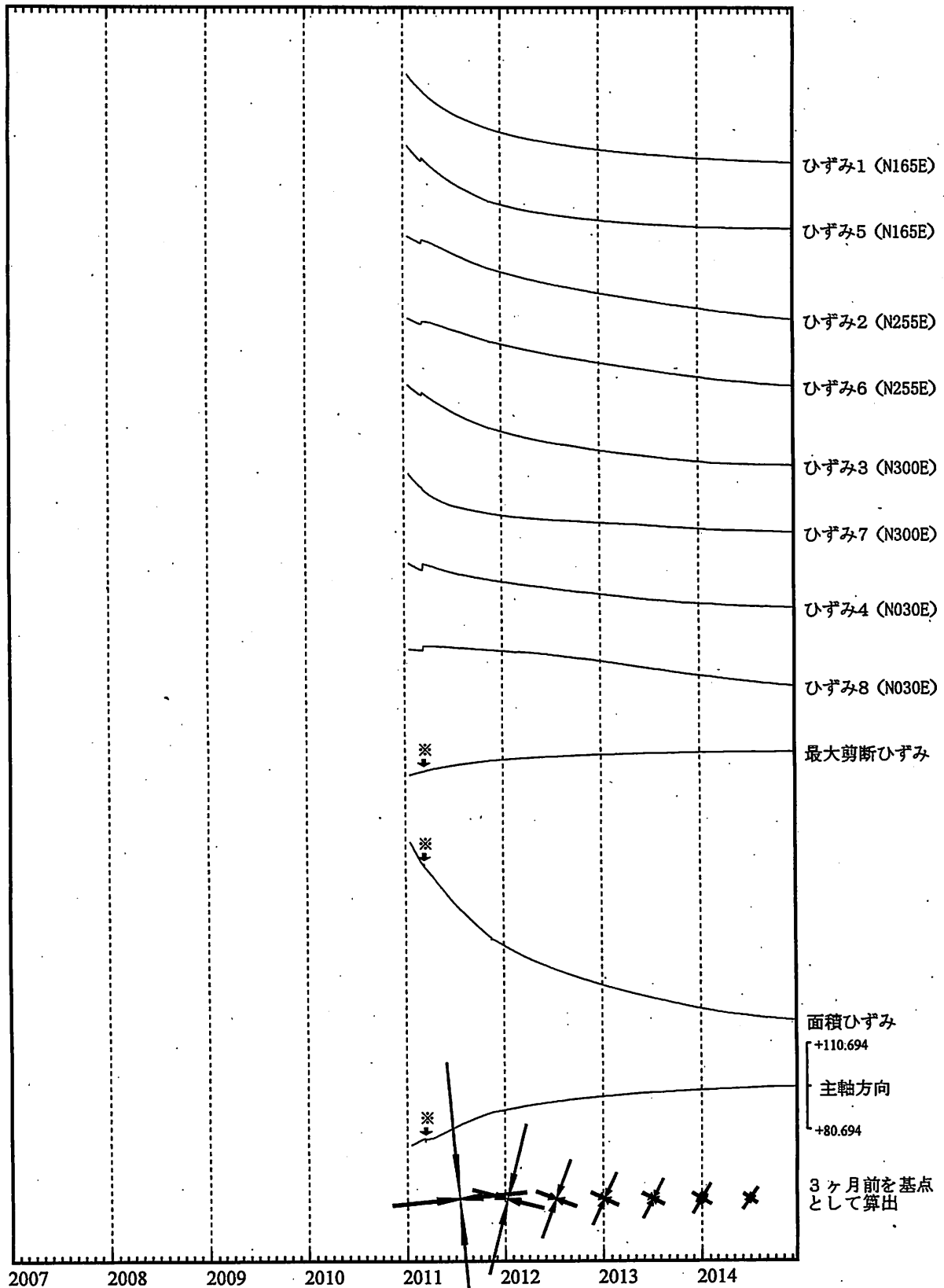
- SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.03-07.10
- SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.27-08.01
- SSE3 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.03-08.07
- SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

新城浅谷ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

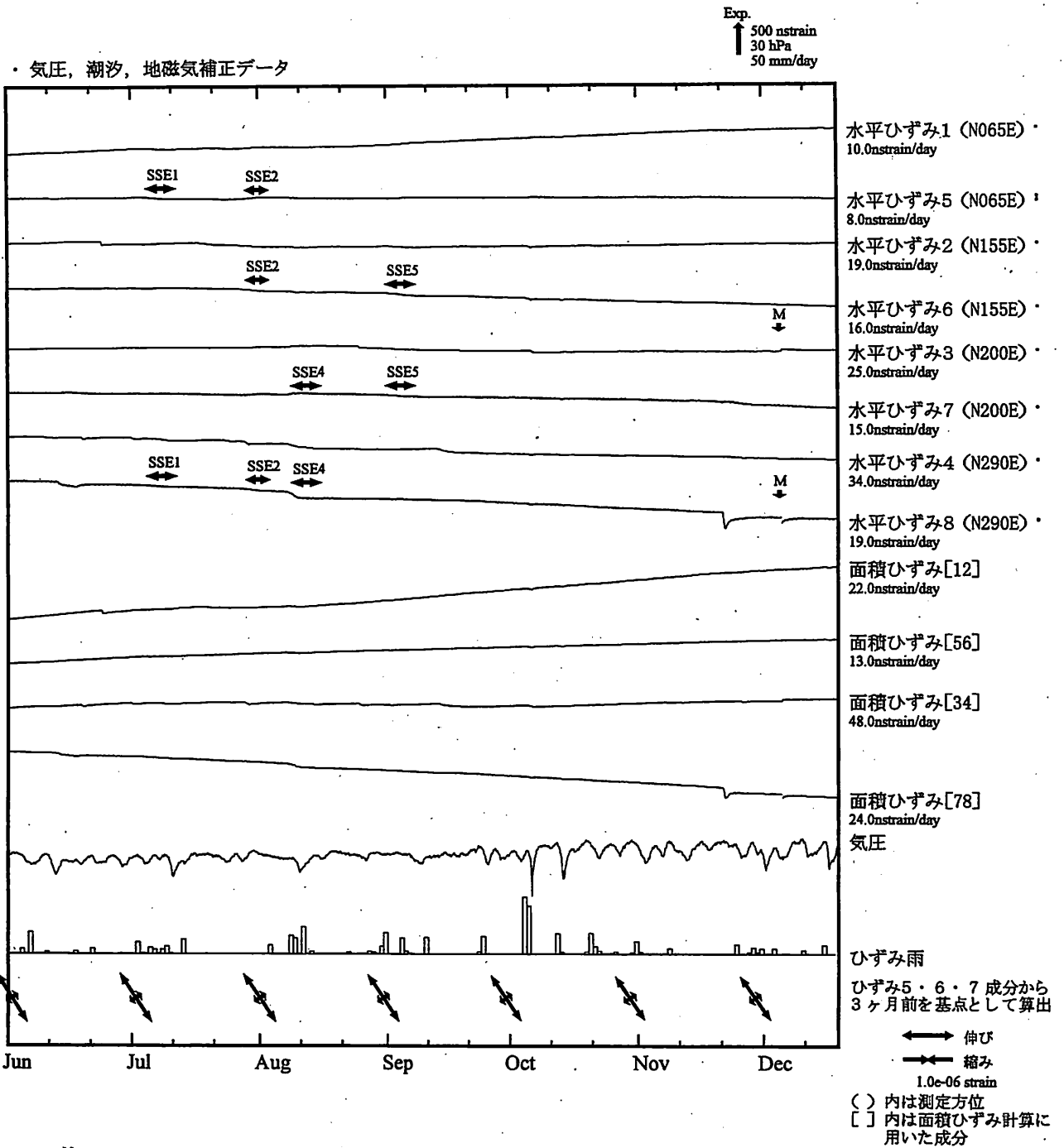
Exp.
↑ 5000 nstrain



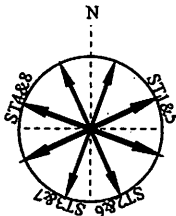
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

田原高松(たはらたかまつ) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時における24時間階差の99.9%タイル値を示す。



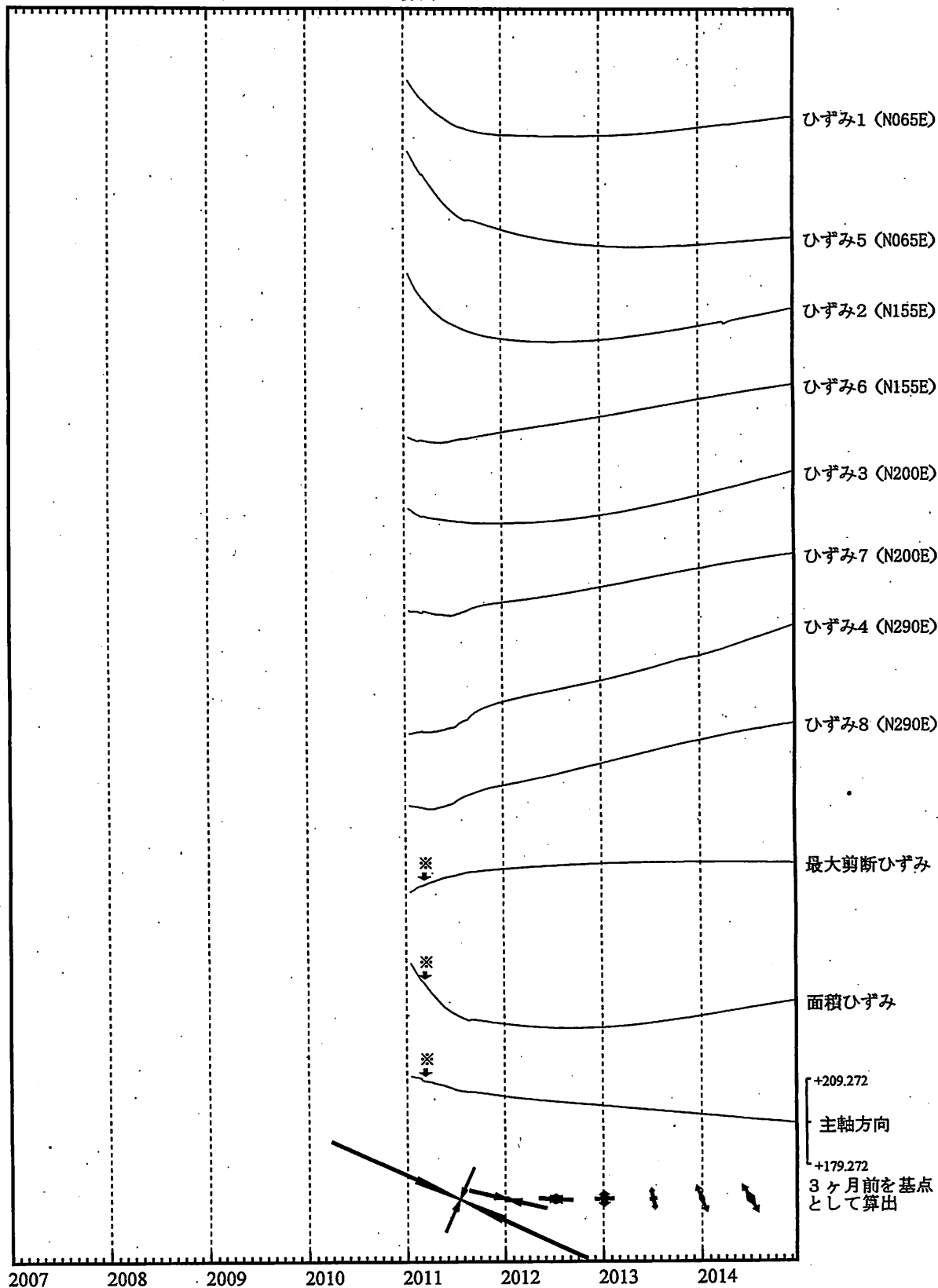
- SSE1 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.03-07.10
- SSE2 : 短期的ゆっくりすべり 2014.07.27-08.01
- SSE4 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.07-08.09
- SSE5 : 短期的ゆっくりすべり 2014.08.30-09.05

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

田原高松ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ5、6、7の各方向成分から2011年1月17日を基点として算出

Exp.
↑ 10000 nstrain



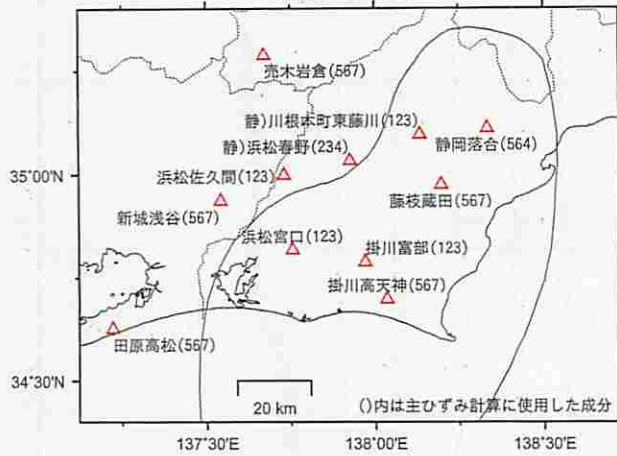
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除去して計算している。

←→ 伸び
←→ 縮み
2.0e-06 strain

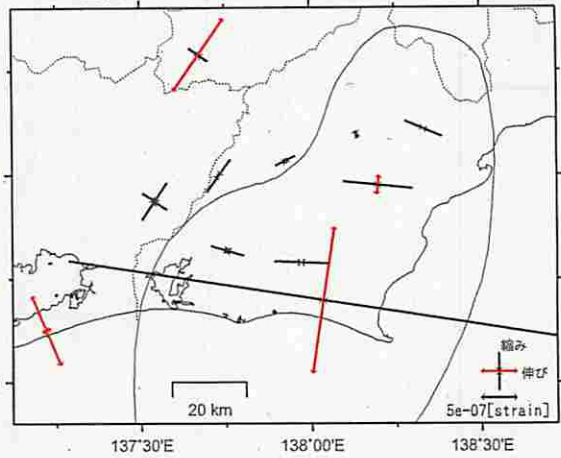
多成分ひずみ計日値による主ひずみ解析結果

(90日間の変化量から算出)

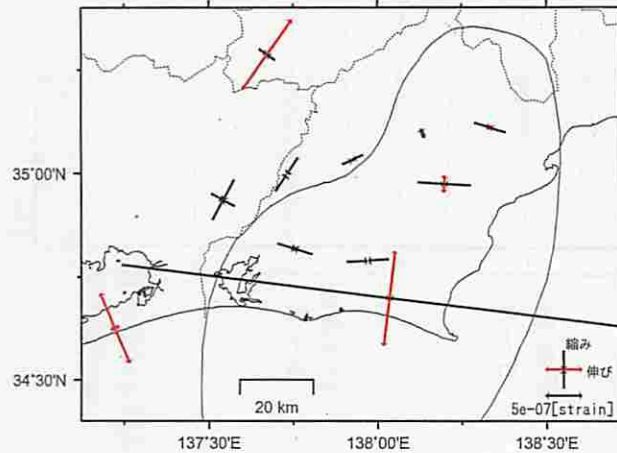
観測点配置図



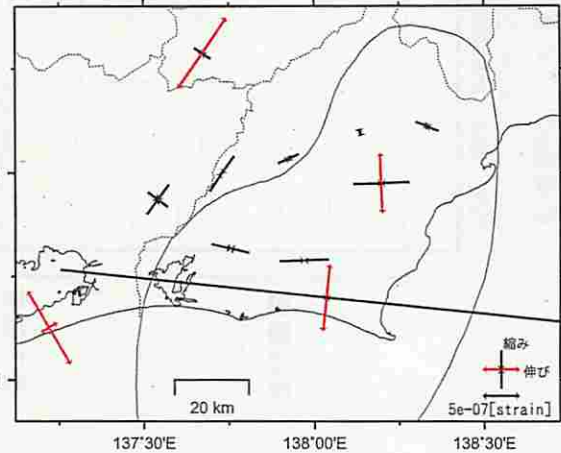
基準日 : 2013/06/03 比較日 : 2013/09/01



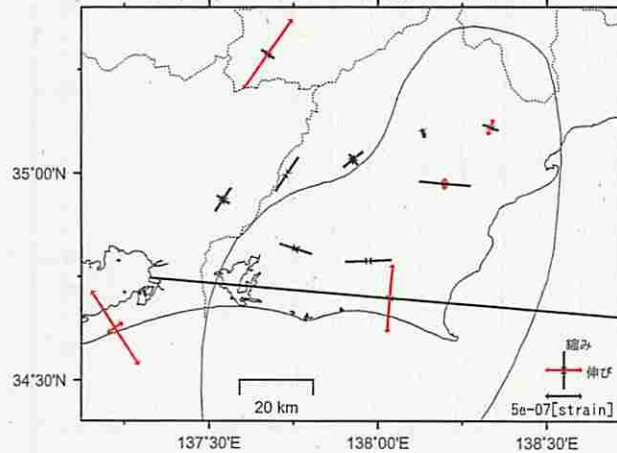
基準日 : 2013/09/02 比較日 : 2013/12/01



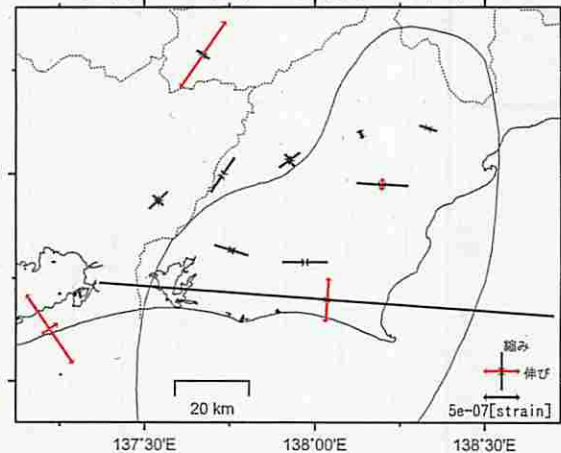
基準日 : 2013/12/01 比較日 : 2014/03/01



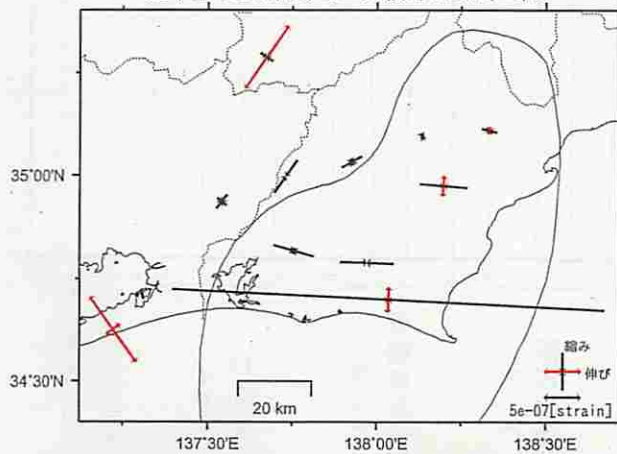
基準日 : 2014/03/03 比較日 : 2014/06/01



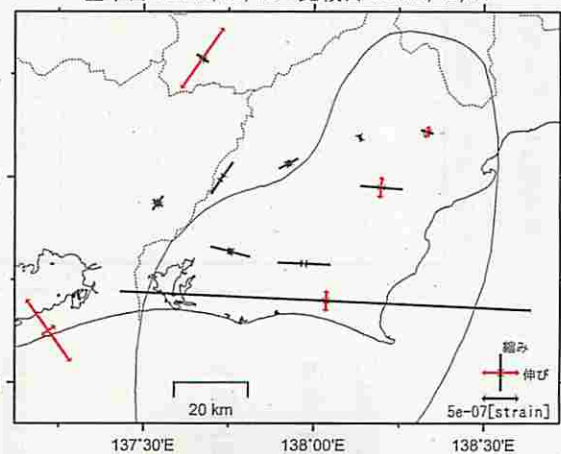
基準日 : 2014/06/03 比較日 : 2014/09/01



基準日 : 2014/09/02 比較日 : 2014/12/01



基準日 : 2014/09/18 比較日 : 2014/12/17



東海地域の短期的ゆっくりすべりの監視

2014. 11. 01~2014. 12. 17

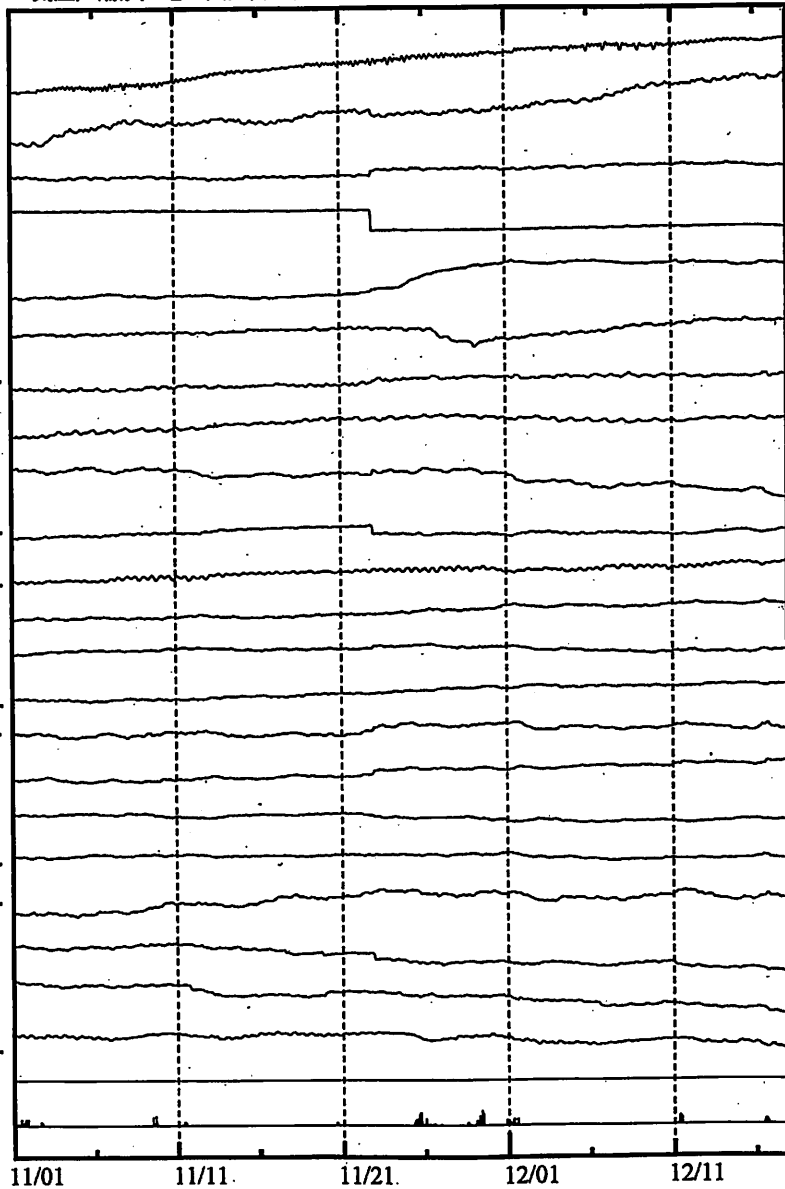
東海周辺ひずみ変化1

2014/11/01.00:00 - 2014/12/17.23:00

気圧, 潮汐, 地磁気, 降水, 地下水 (田原福江) 補正データ

↑ 1.0e-07 strain
60 mm/Hour
20 count/Hour

田原福江
蒲郡清田
掛川富部
1~4
61
浜松春野
1~4
浜松佐久間
1~4
川根本町東藤川
1~4
浜松宮口
1~4
低周波地震回数
川根本町東藤川雨



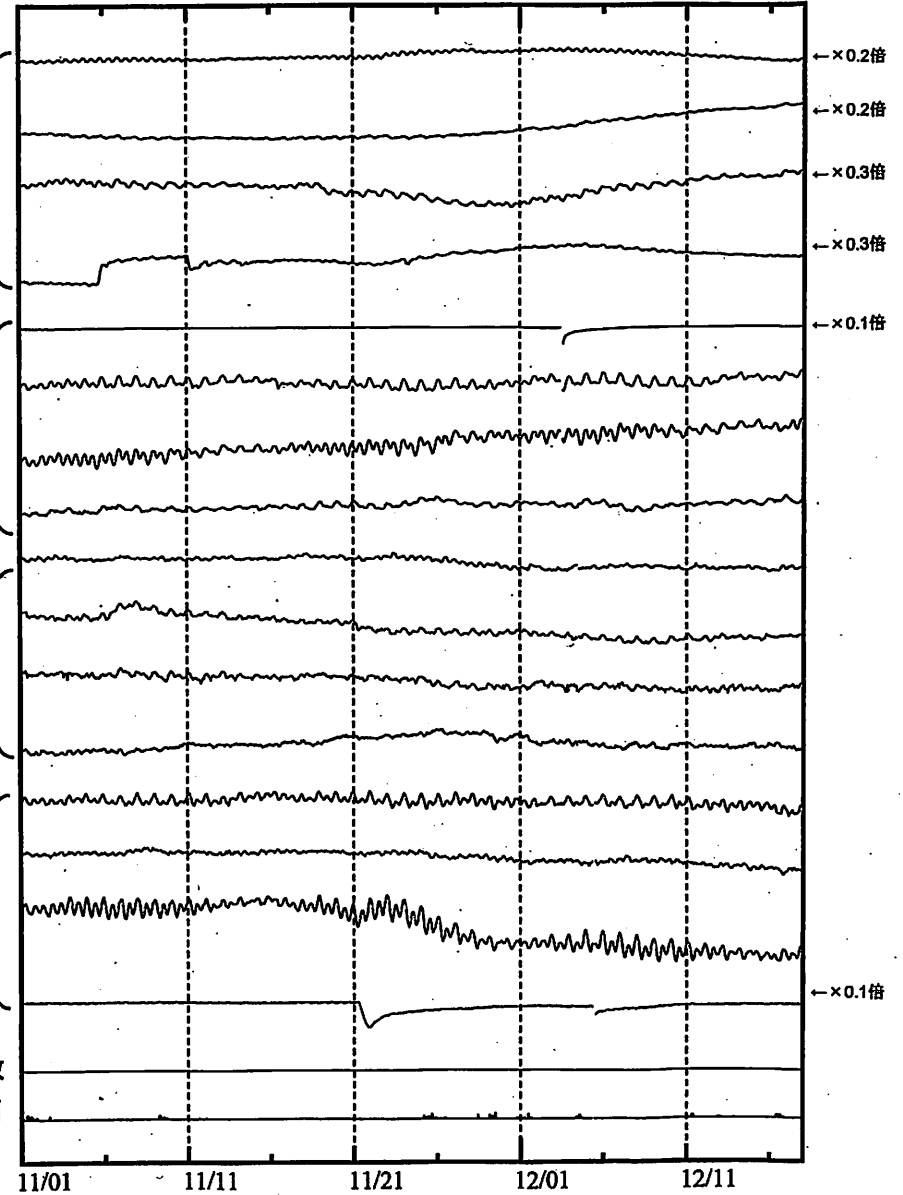
東海周辺ひずみ変化2

2014/11/01.00:00 - 2014/12/17.23:00

気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

↑ 1.0e-07 strain
60 mm/Hour
20 count/Hour

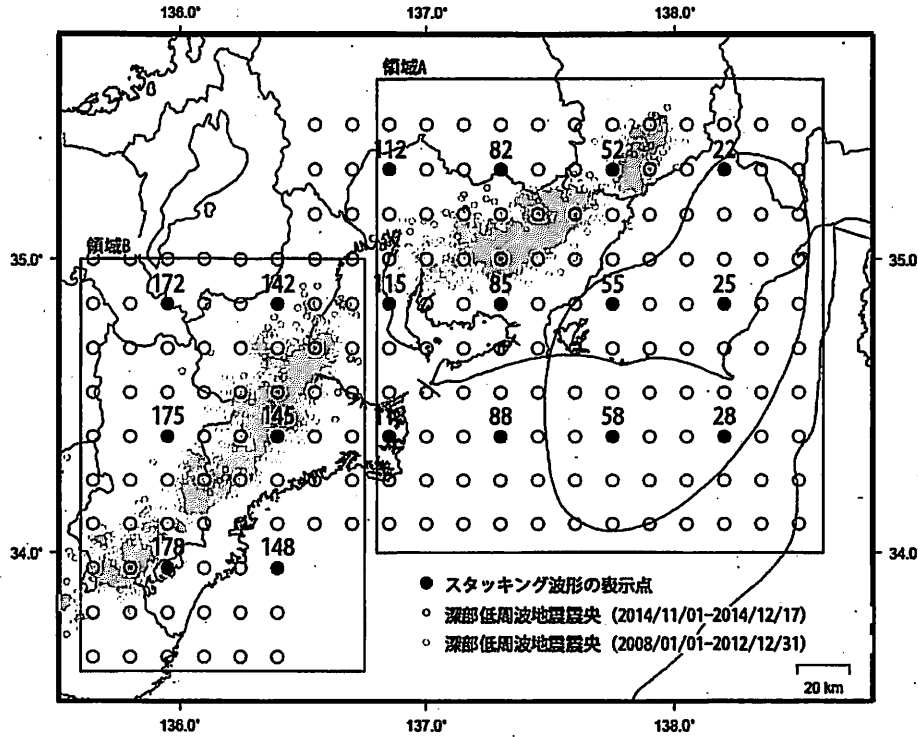
藤枝蔵田
5~8
×0.2倍
売木岩倉
5~8
×0.3倍
×0.3倍
×0.1倍
新城浅谷
5~8
×0.1倍
田原高松
5~8
×0.1倍
低周波地震回数
田原高松雨



※浜松春野, 川根本町東藤川は静岡県整備

スタッキング波形によるプレート境界のすべりの監視

今期間、短期的ゆっくりすべりにともなうと推測される目立った変化は観測されなかった。



スタッキング波形は、上図の各監視ポイントについて、宮岡・横田(2012)の手法により、気象庁、静岡県、独立行政法人産業技術総合研究所のひずみ計データを基に作成している。

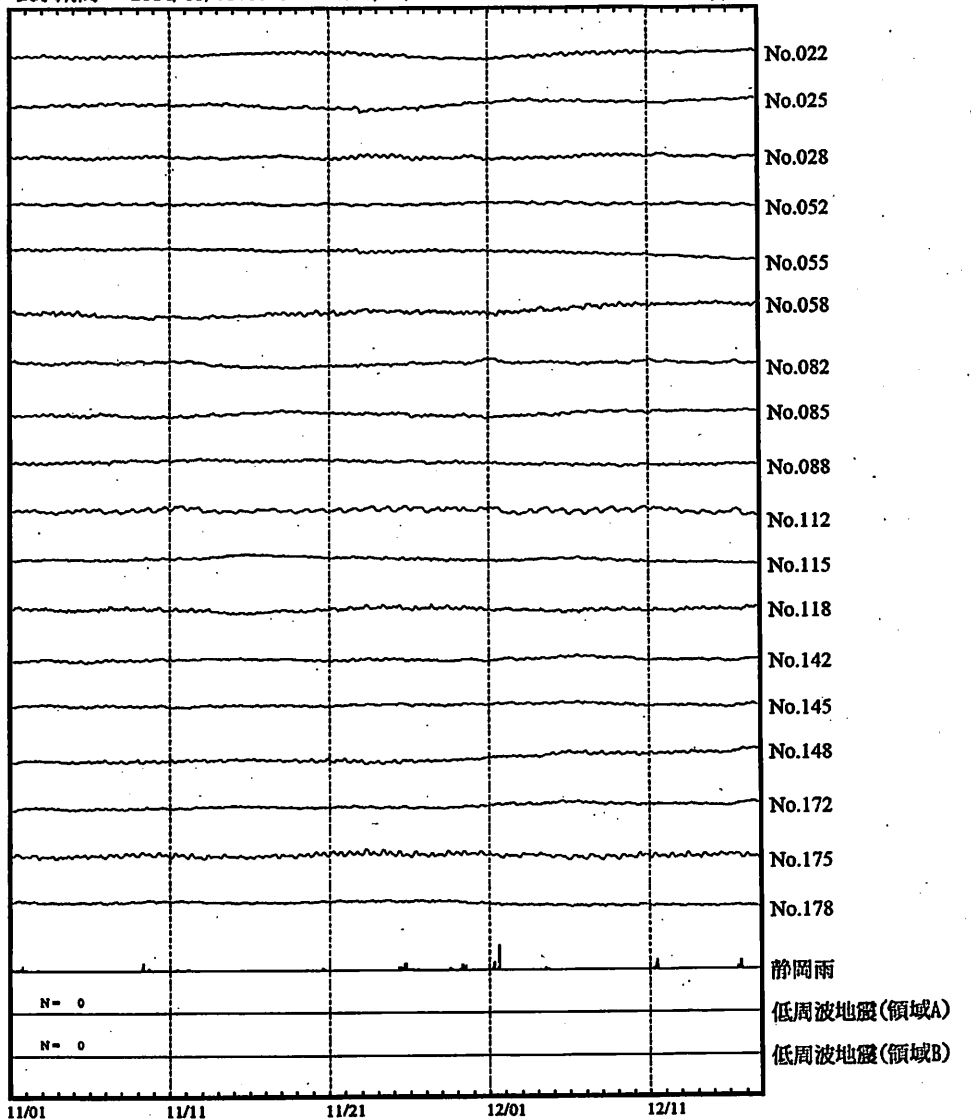
(参考文献)

宮岡一樹・横田崇(2012):地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発,地震,2,65,205-218.

スタッキング波形

表示期間: 2014/11/01.00:00 - 2014/12/17.23:00

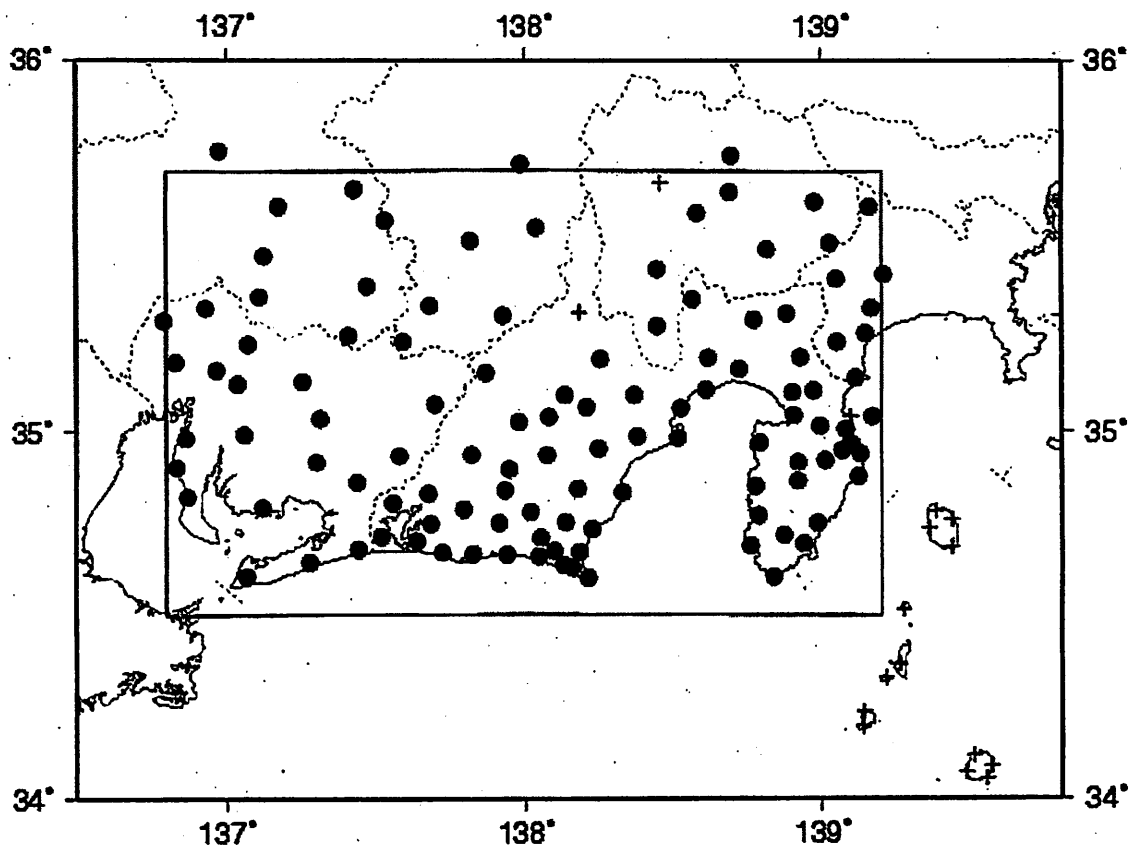
↑ 3.0e-07
20 nm/day
5 回



※ 赤線は、スタッキング波形データが欠測であることを示す。

気象庁作成

GNSS 6時間値による面的監視

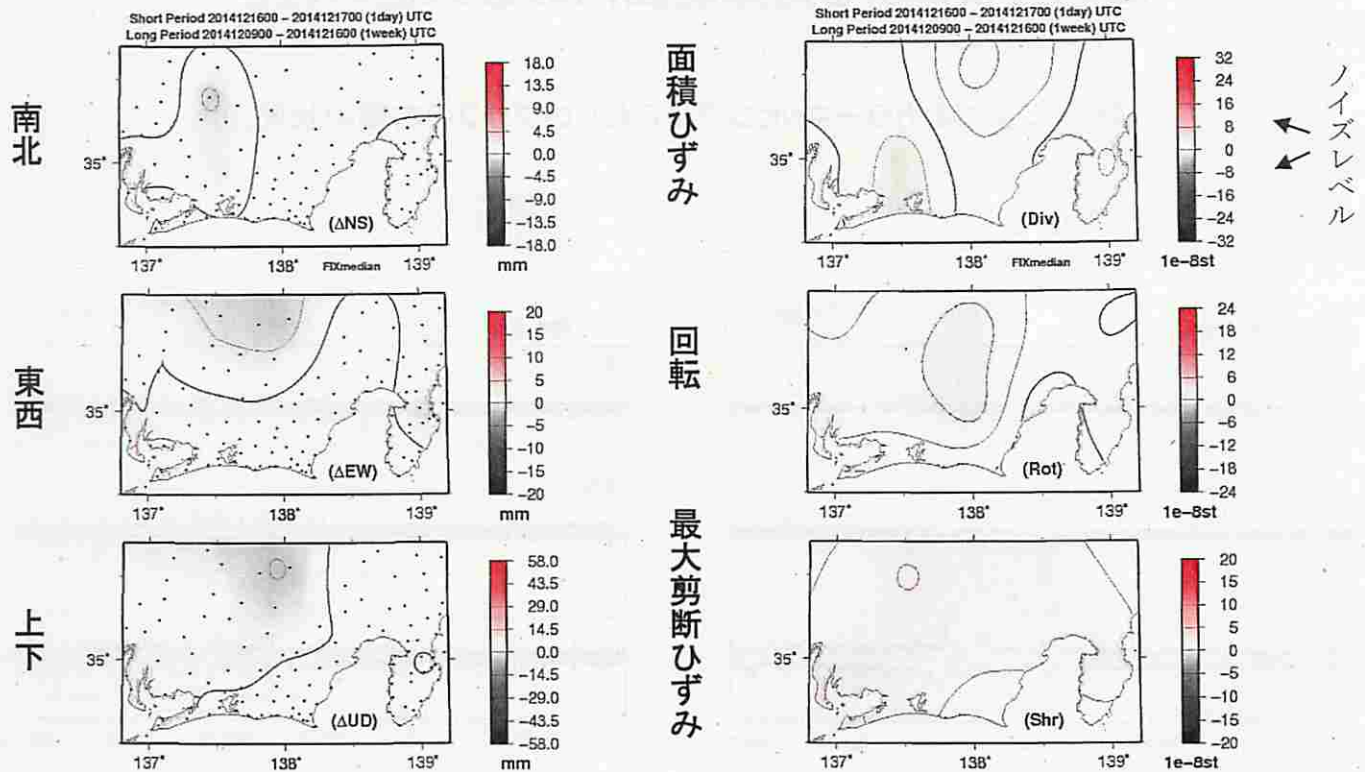


対象範囲(内側の矩形内)と使用観測点(●印)。+印の観測点はデータ不安定などにより今回の解析に使用していない。

東海地域におけるGNSS6時間値(国土地理院)を用いて、最近1日間及び1週間の中央値を過去と比較した。夏季に解析値のばらつきが見られるほかは特に目立った変位は見られない。

※GNSS(Global Navigation Satellite System)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

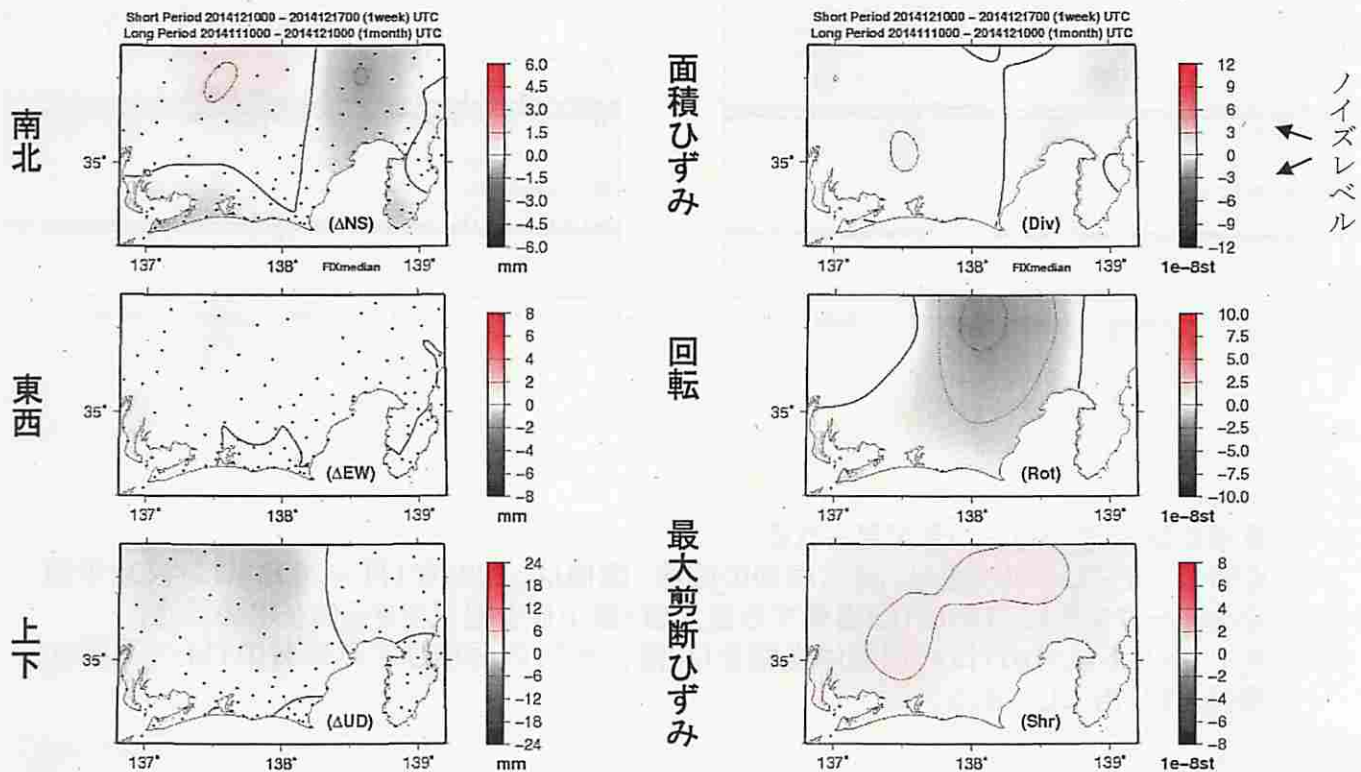
最近1日間とその前1週間との比較



対象期間：2014/12/16 00:00 - 2014/12/17 00:00(1day)

基準期間：2014/12/09 00:00 - 2014/12/16 00:00(1week)

最近1週間とその前1ヶ月間との比較

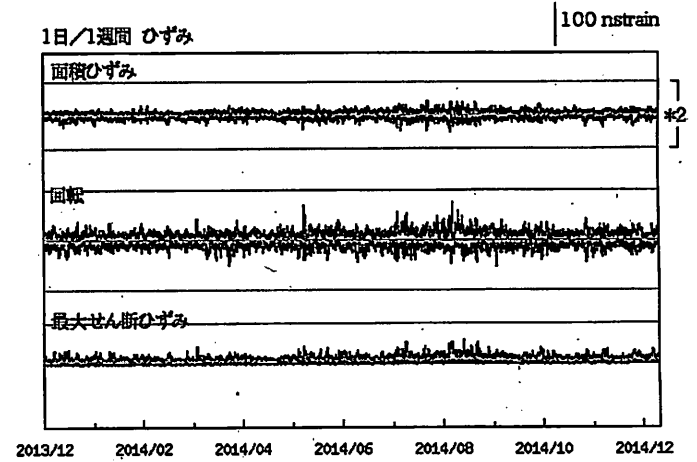
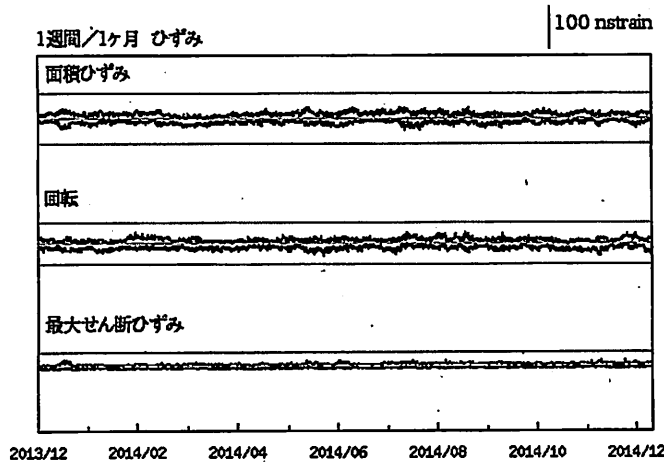
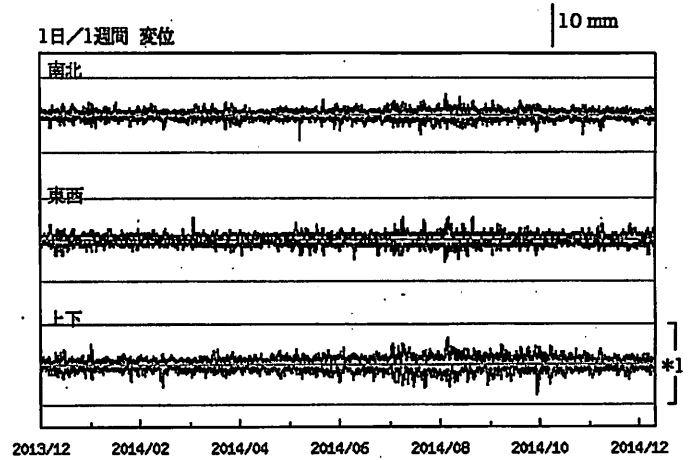
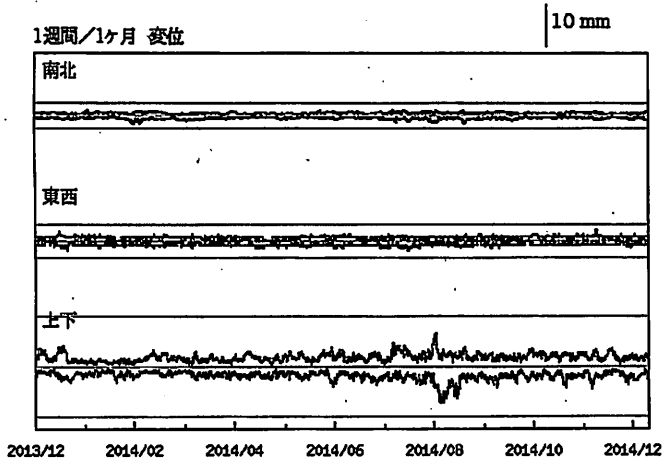


対象期間：2014/12/10 00:00 - 2014/12/17 00:00(1week)

基準期間：2014/11/10 00:00 - 2014/12/10 00:00(1month)

最近1年間(2013年12月1日00:00~2014年12月17日00:00)の 面的監視による対象範囲内の最大値の経過

(前ページまでのカラーマッピングはこれらのグラフの右端の状況。)



夏季に解析値のばらつきが見られる。

点線はノイズレベルであり、異常検知の閾値。閾値は、2006年1月~2007年12月の2年間分のデータを元に、1年に1回出現する最大値・最小値を把握できる値を求め設定。

* 1)の上下成分の1日/1週間は振幅を1/3倍、* 2)の面積ひずみ成分の1日/1週間は振幅を1/2倍にしてある。

GNSS 日値による面的監視（南海トラフ沿い）

今期間の解析結果には、特に目立った変位は見られない。

南海トラフ沿いの地域について紀伊水道を境に東西二つに分け、GNSS 日値 F3 解（国土地理院）を用いて、①最近 1 ヶ月間とその前の 3 ヶ月間の座標変化（各期間の中央値の差から 2 ヶ月間の変位）、②最近 1 ヶ月間と 1 年前の 1 ヶ月間との座標変化（1 年間の変位）、③各対象範囲内の最大値の経過、およびそれぞれ水平成分から計算したひずみを面的監視手法で見た。GNSS 座標値は観測点ごとに定常変位と見なされる期間の直線トレンドを除去しており、年周変化は補正していない。また、主な地震に伴うオフセットを差し引いている。東側の領域（東海～紀伊半島）は、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震に伴う余効変動を差し引いている。

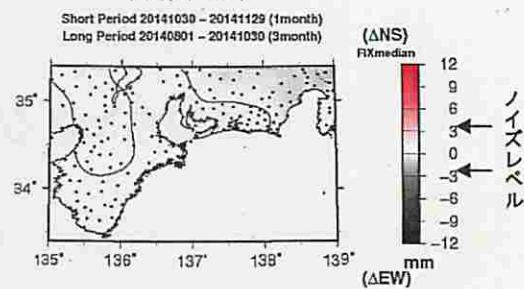
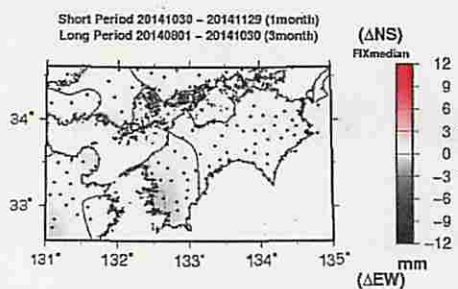
※GNSS (Global Navigation Satellite System) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

気象庁・気象研究所作成

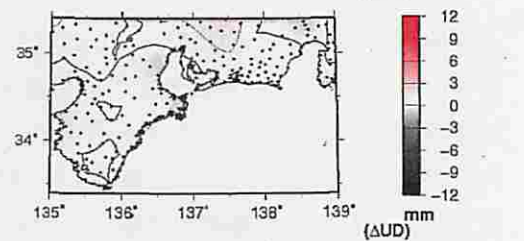
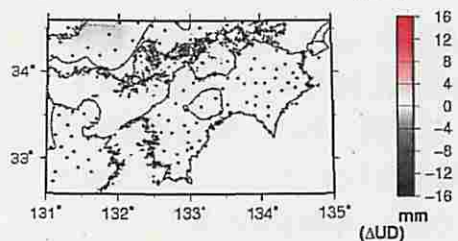
① 最近2ヶ月間の変位とひずみ

(余効除去)

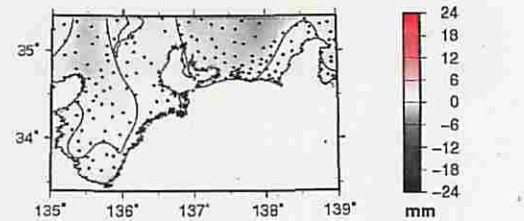
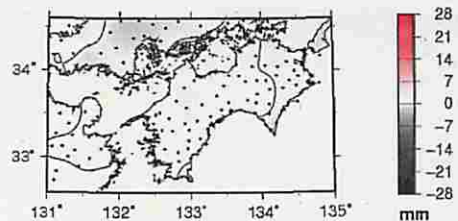
南北



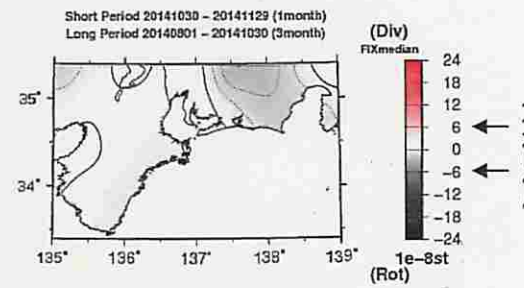
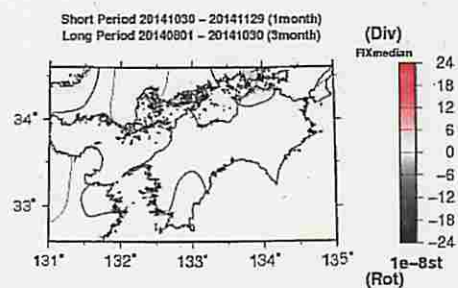
東西



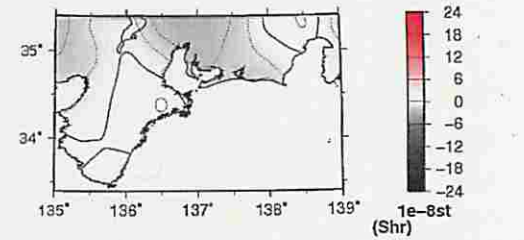
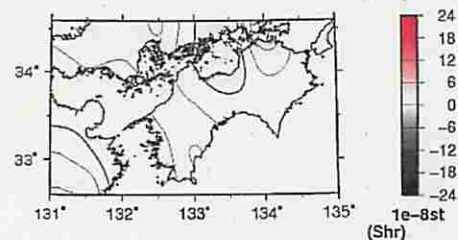
上下



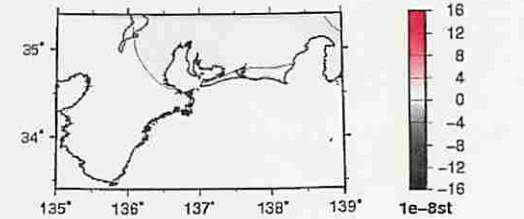
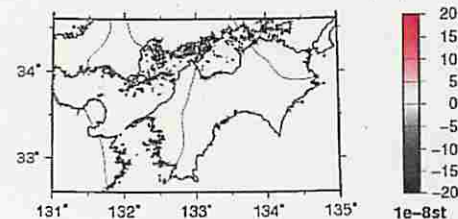
面積ひずみ



回転



最大せん断



対象期間：2014/10/30-2014/11/29 (1month)

基準期間：2014/08/01-2014/10/30 (3month)

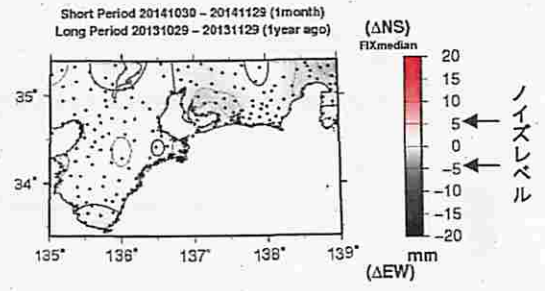
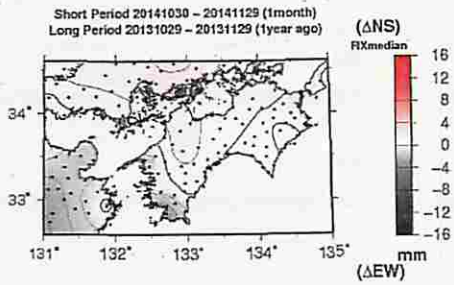
特に目立った変化は見られない。

気象庁・気象研究所作成

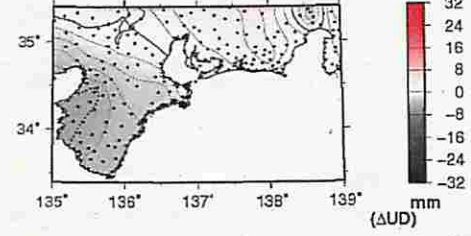
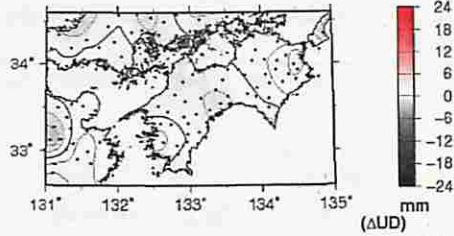
②最近1年間の変位とひずみ

(余効除去)

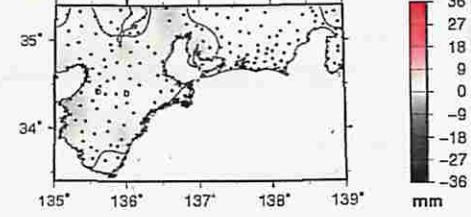
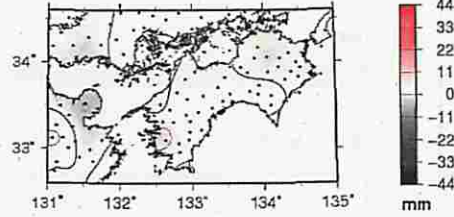
南北



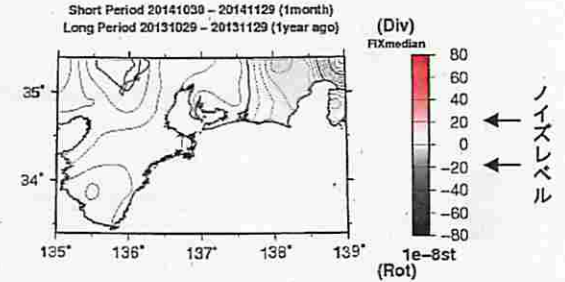
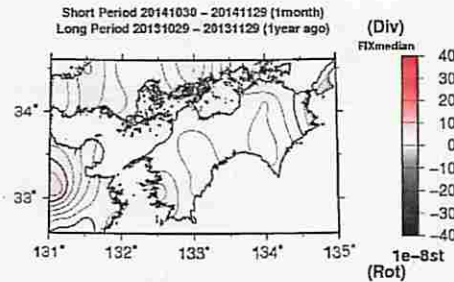
東西



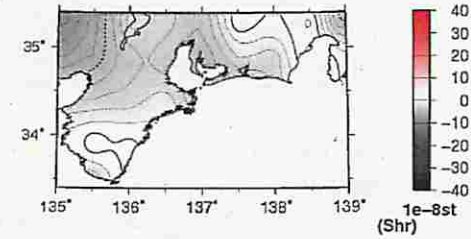
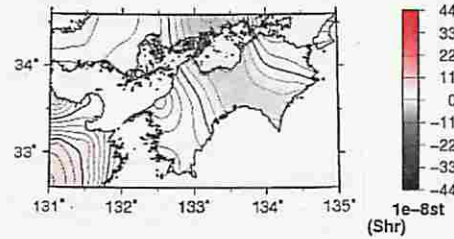
上下



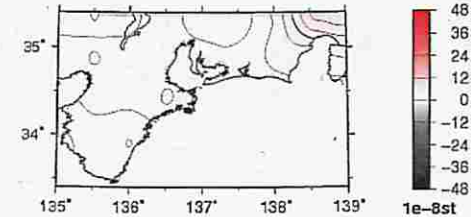
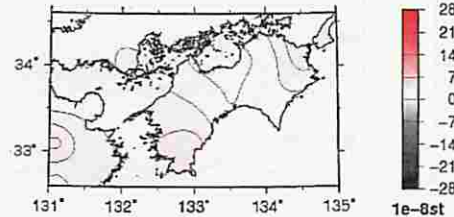
面積ひずみ



回転



最大せん断



対象期間：2014/10/30-2014/11/29 (1month)

基準期間：2013/10/29-2013/11/29 (1month)

特に目立った変化は見られない。

気象庁・気象研究所作成

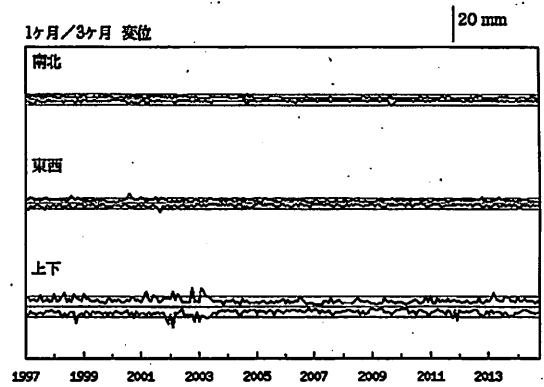
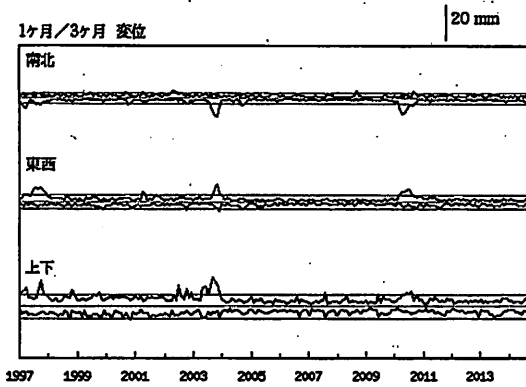
③ 面的監視による対象範囲内の最大値の経過 (1997年1月～2014年11月)

(監視期間：2か月)

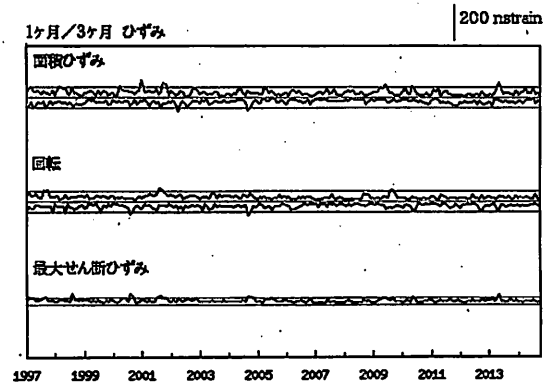
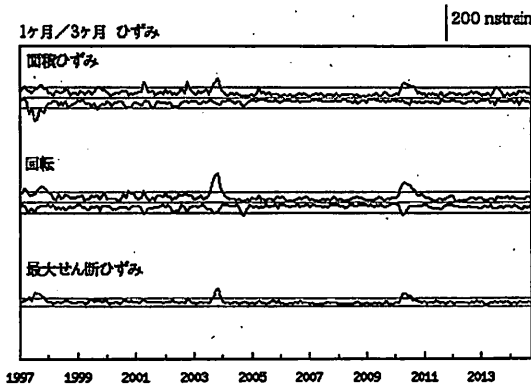
(四国)

(東海～紀伊半島；余効除去)

変位

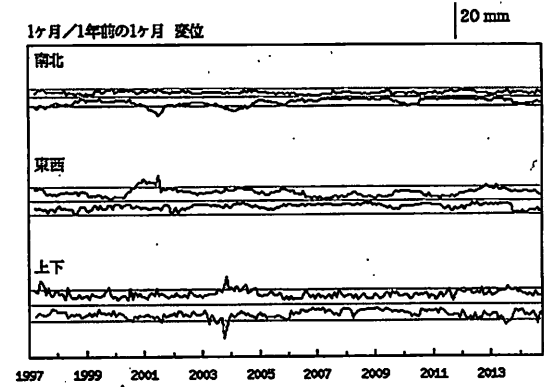
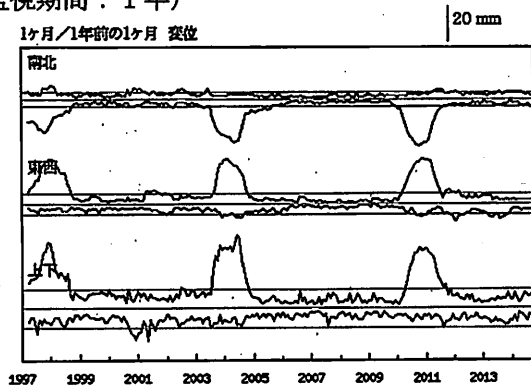


ひずみ

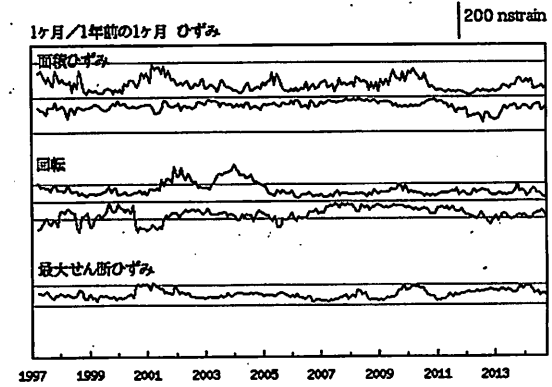
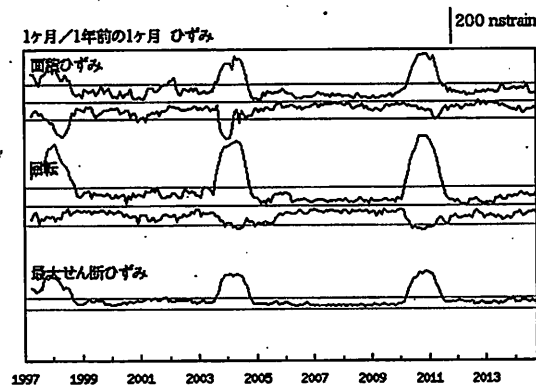


(監視期間：1年)

変位



ひずみ

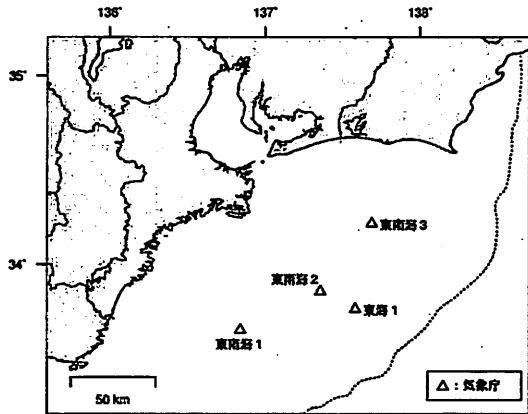
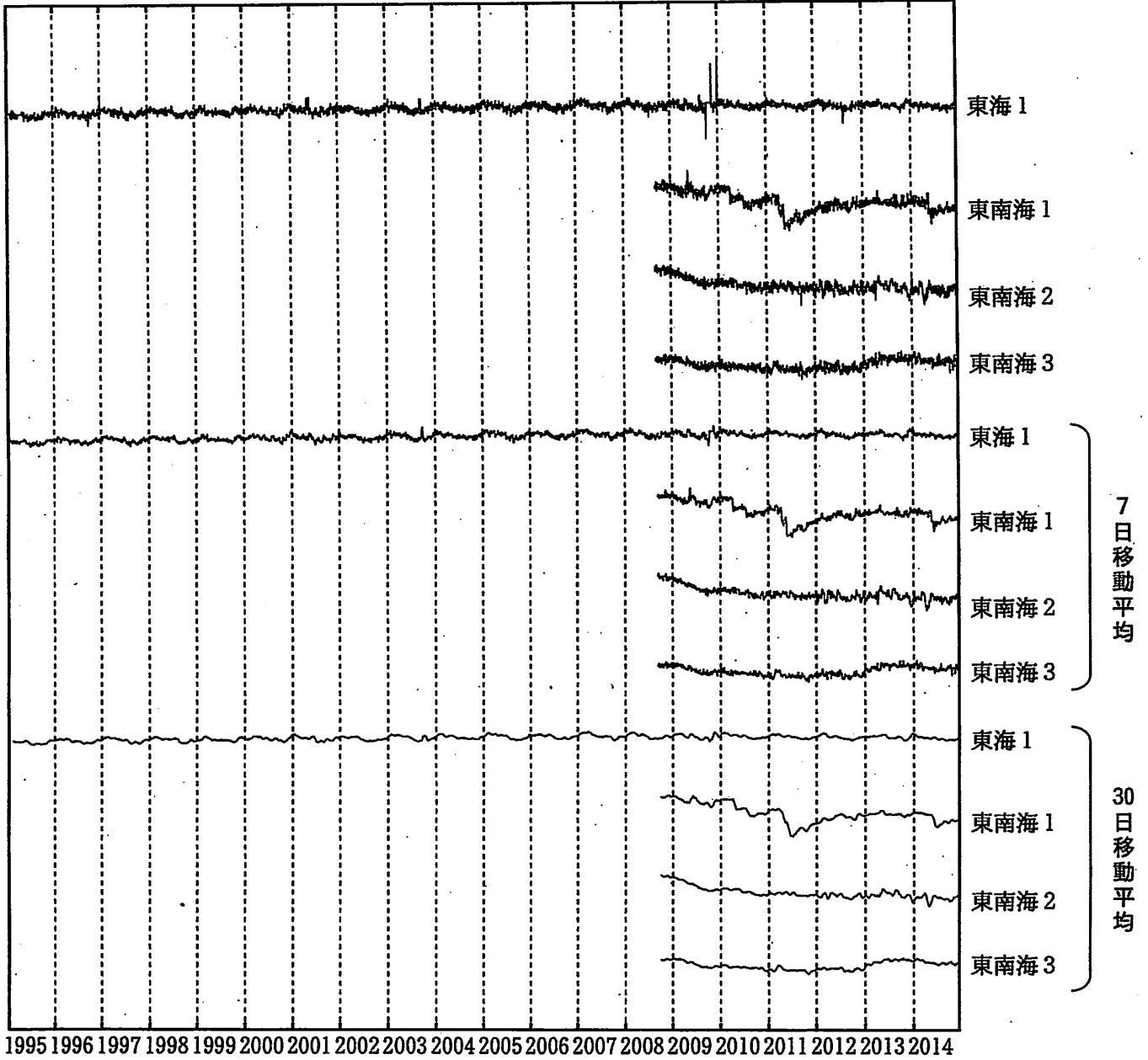


豊後水道の長期的ゆっくりすべりによる影響がこれまでに3度みられるが、このほかでは特に目立った変化は見られない。

東海・東南海地域の海底津波計記録の長期変化

海底津波計 日値 (潮汐補正データ)
1995/01/01 - 2014/12/14

隆起
↑ 1m
↓ 沈降



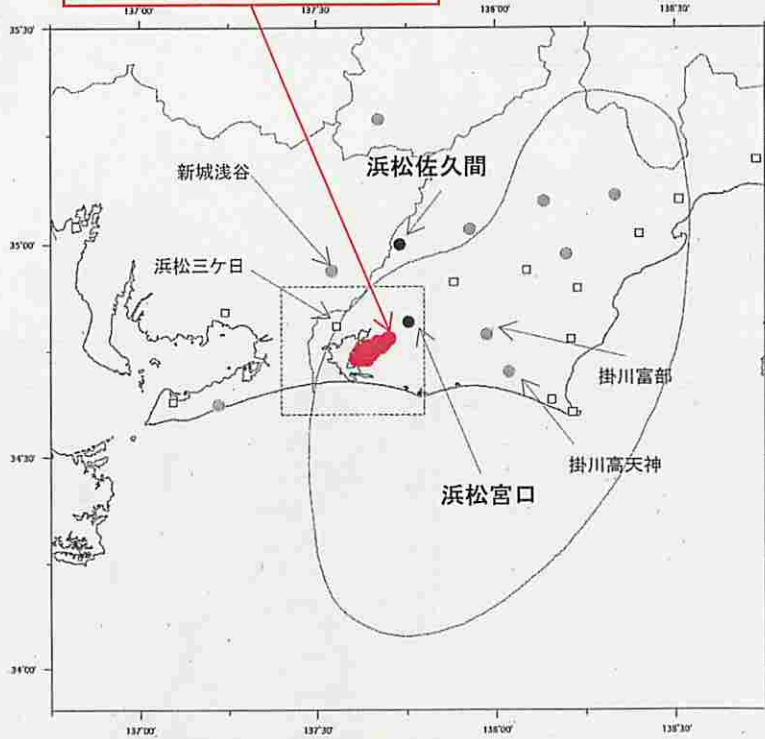
気象庁作成

ひずみ変化と長期的ゆっくりすべりのすべり推定

ひずみ変化から推定されるすべり候補点

Mw6.3~6.6程度

※前回から変化なし



- すべり推定に使用したひずみ観測点(多成分ひずみ計)
- ひずみ観測点(多成分ひずみ計)
- ひずみ観測点(体積ひずみ計)

すべり候補領域は、中村・竹中(2004)¹⁾によるグリッドサーチの手法※により求めた。プレート境界と断層面の形状はHirose et al.(2008)²⁾による。

※ すべり候補領域の位置とその規模(Mw)を、すべりがプレート境界面上でプレートの沈み込み方向と反対に発生したと仮定し、考え得る全ての解を前提として得られる理論値と観測値を比較し、合致するものを抽出する手法

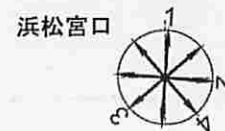
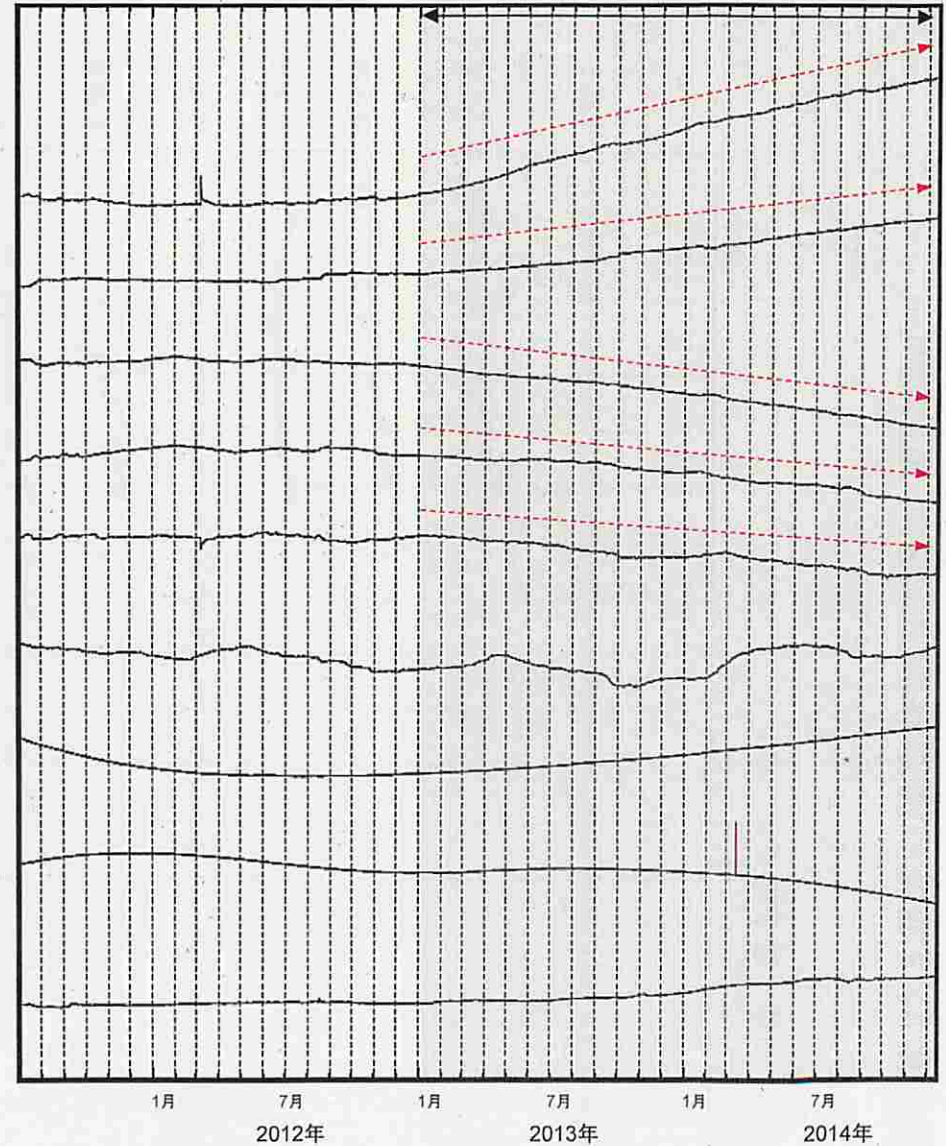
1) 中村浩二・竹中潤, 東海地方のプレート間すべり推定ツールの開発, 験震時報, 68, 25-35, 2004

2) Hirose F., J. Nakajima, A. Hasegawa, Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography, J. Geophys. Res., 113, B09315, doi:10.1029/2007JB005274, 2008

すべり推定期間

500 nstrain

- 浜松宮口4
- 浜松佐久間2
- 浜松佐久間1
- 浜松佐久間4
- 浜松宮口1
- 浜松三ヶ日
- 新城浅谷1
(1/7倍)
- 掛川高天神1
(1/40倍)
- 掛川富部1



気象庁作成

スタッキングによる長期的 ゆっくりすべりの検出について

各グリッドでの時系列変化

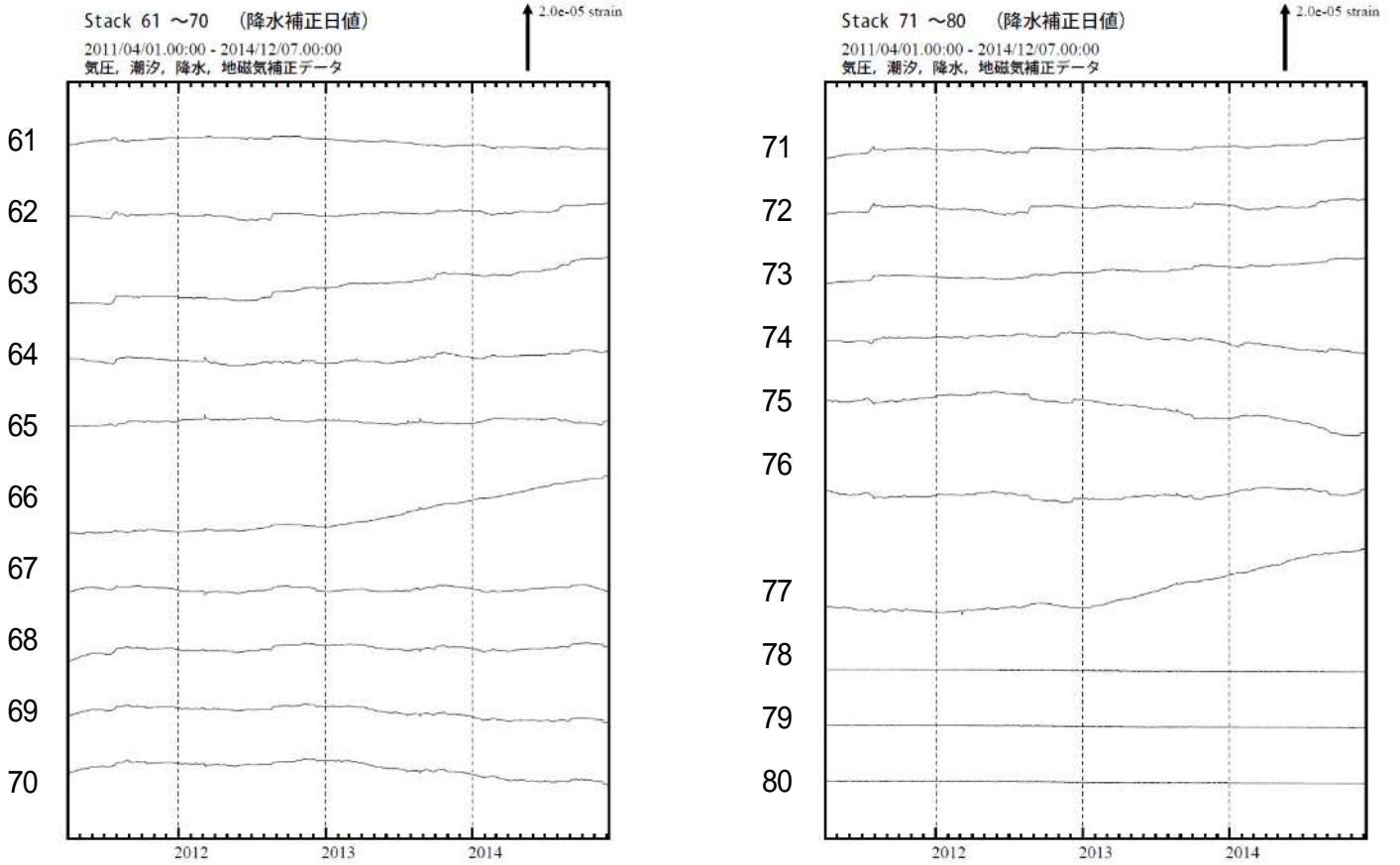
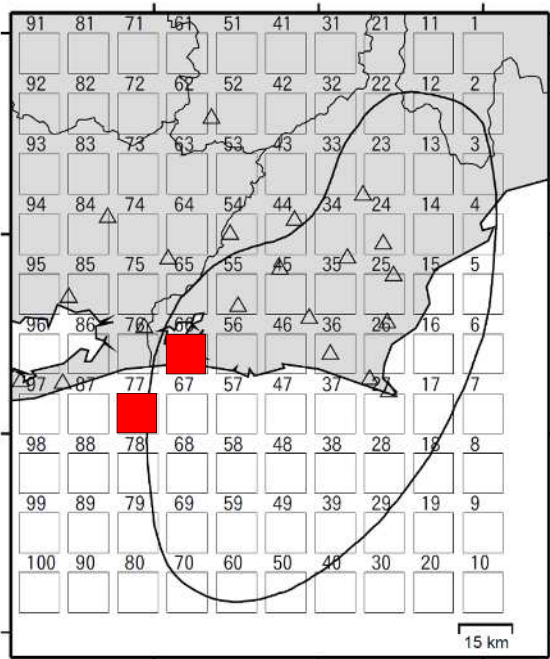


図1：日値スタッキング波形。番号は監視グリッド（図2参照）を示す。

- データ：補正日値（体積ひずみ計とアナログ式多成分ひずみ計）
- ノイズレベル：2011年6月～2012年12月の、60日階差（単純な階差）の標準偏差
- 理論値計算：0.15°ごとの各グリッドを中心とする、20×20kmの断層



グリッドNo.66とNo.77に明瞭な変化が見られている。総すべり量はMw6.4相当となる。

図2：グリッド配置およびすべり量（Mw）